

石川県立看護大学

年報

第25卷

令和6年度

巻頭言

昨年度の能登半島地震に引き続き、本年度 10 月には能登豪雨という、かつてない「二重の災禍」が起きました。災害対応にあたり、本学は教育・研究を止めず、学生・教職員が一丸となって支援と復興に取り組みました。学生支援においては、被災学生への身体的・心理的・経済的支援を行い、とくに PTSD を含む心理面への配慮を重視しました。担任と心理アドバイザーが連携し、継続的に学生を支えたことは、本学の看護教育の原点を再確認する機会となりました。また、アメリカ研修への参加を希望していた学生に対しては、経済的支援を行い、学びの継続を保証しました。

一方、大学としては災害ボランティア活動にも積極的に関与しました。特に褥瘡対策の分野では、11 月まで遠隔支援を継続し、褥瘡による災害関連死ゼロを実現しました。さらに、激震地に最も近い看護系大学として、次年度から開講予定の「災害実践看護学講座」に向け、カリキュラムを整備しました。石川県の支援を得て、5 年間にわたり官学連携講座として設置されることが正式に決定し、本学の使命である「災害に強い看護人材の育成」へ新たな一步を刻みました。

教育面では、昨年度に始まった DX 化をさらに推進しました。授業のペーパーレス化に続き、令和 6 年度は学生用電子カルテ導入を進め、実習現場での情報管理と個人情報保護を両立させました。また、スキルラボのデジタル化に対応する実習室の整備も進み、ICT を活用した臨床教育環境が着実に整いつつあります。

大学院教育においては、定員割れを克服するため、遠隔教育を導入し、看護師以外の専門職にも門戸を開きました。その結果、経済学専攻者や理学療法士など、多様な人材が入学し、大学院のダイバーシティが大きく進展しました。さらに、論文指導が可能な教員の範囲を拡大し、教育体制を強化したことで、入学者数は倍増し、入試回数を年 1 回に統合することができました。

本学が大切にしてきた理念—ハラスメントのない安心・安全な学修環境、そして多様性を尊重する文化—は、災害対応と復興の過程でいっそう確かな信念となりました。困難の中にあっても、学生・教職員が支え合い、地域と共に歩む姿勢こそが、石川県立看護大学の真価であると実感しています。

来年度は、これらの成果を礎に、災害復興と教育研究のさらなる発展をめざし、地域と世界に貢献する人材育成を推進してまいります。

被災地の復興を支え、DX と多様性に根ざした強い看護大学として、
「All IPNU」一丸となって未来を拓く、その志を新たにする一年となりました。

石川県立看護大学 学長 真田弘美



第 25 回入学式 (令和 6 年 4 月 4 日)



夏のオープンキャンパス（令和6年7月13日）



夏期アメリカ看護研修（令和6年9月5日～9月18日）



令和6年度専門的看護実践力研修事業「看護管理者研修」
(令和6年11月22日、29日、30日、12月7日)



令和6年度皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程修了式
(令和7年3月27日)



秋のオープンキャンパス (令和6年10月12日)



インターナショナルカフェ（令和6年4月12日、6月7日、7月13日、8月1日）



第21回卒業式・学位授与式（令和7年3月12日）

目 次

巻頭言

1. 学事	1
1.1 2024年度学事暦	1
1.2 大学組織図	2
1.2.1 大学組織図	2
1.2.2 常設委員会構成	3
1.3 懇話会	5
1.4 オープンキャンパス	6
1.4.1 夏の対面型オープンキャンパス	6
1.4.2 秋の対面型オープンキャンパス	6
2. 教員・職員	8
2.1 教員紹介	8
2.2 特任教員等紹介	12
2.3 教員組織構成	12
2.3.1 所属領域・講座と職位構成	12
2.3.2 職位別年齢構成	13
2.3.3 大学院看護学研究科の研究指導教員・研究指導補助教員	13
2.3.4 博士前期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成	13
2.3.5 博士後期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成	13
2.4 職員紹介 (2025年3月現在)	14
3. 中期計画	15
4. 看護学部看護学科	20
4.1 理念・目標	20
4.1.1 教育理念	20
4.1.2 教育目標	20
4.1.3 アドミッション・ポリシー (求める人材)	20
4.1.4 カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)	21
4.1.5 ディプロマ・ポリシー (学位授与に関する方針)	21
4.2 学部学生の入学・在学・卒業の状況	22
4.3 教育・履修体制	25
4.4 委員会活動	26
4.4.1 常設委員会	26
4.4.1.1 教務委員会	26
4.4.1.2 学生委員会	28
4.4.1.2.1 学生相談部会	30
4.4.1.2.2 進路支援専門部会委員会	32
4.4.1.3 研究推進委員会	34
4.4.1.3.1 学内研究助成専門部会	35

4.4.1.4	石川看護雑誌編集委員会	36
4.4.1.5	情報システム委員会（含む情報セキュリティ）	36
4.4.1.6	広報委員会	37
4.4.1.7	入学試験委員会	39
4.4.1.7.1	入学試験実施専門部会	40
4.4.1.8	自己点検・評価委員会	40
4.4.1.8.1	教員評価部会	43
4.4.1.8.2	年報編集部会	45
4.4.1.8.3	IR推進部会	45
4.4.1.9	FD委員会	46
4.4.1.10	ハラスメント委員会	47
4.4.1.11	コンプライアンス委員会	48
4.4.1.12	倫理委員会	49
4.4.1.13	利益相反マネジメント委員会	50
4.4.1.14	動物実験委員会	50
4.4.1.15	微生物安全管理委員会	51
4.4.1.16	DX推進委員会	51
4.4.1.17	衛生委員会	52
4.4.2	特設委員会	53
4.4.2.1	高大連携委員会	53
4.5	2024年度 卒業研究論文題目一覧	56
5.	大学院・看護学研究科	60
5.1	理念・目標	60
5.1.1	博士前期課程（修士）	60
5.1.1.1	教育理念	60
5.1.1.2	教育目標	60
5.1.1.3	アドミッション・ポリシー（求める人材）	61
5.1.1.4	カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）	61
5.1.1.5	ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）	61
5.1.2	博士後期課程（博士）	62
5.1.2.1	教育理念	62
5.1.2.2	教育目標	62
5.1.2.3	アドミッション・ポリシー（求める人材）	62
5.1.2.4	カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）	63
5.1.2.5	ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）	63
5.2	大学院生の入学・在学・修了の状況	64
5.3	大学院教務学生委員会	66
5.4	2024年度 修士論文題目一覧	68
5.5	2024年度 博士論文題目一覧	68

6. 教員の業績	69
6.1 石川県立看護大学・学長	69
6.2 人間科学領域	80
6.3 健康科学講座	87
6.4 基礎看護学講座	93
6.5 母性看護学講座	101
6.6 小児看護学講座	106
6.7 成人看護学講座	109
6.8 老年看護学講座	123
6.9 地域看護学講座	130
6.10 在宅看護学講座	138
6.11 精神看護学講座	141
6.12 共同研究講座看護理工学	145
6.13 共同研究講座ウェルビーイング看護学	151
7. 国際交流	160
7.1 国際交流委員会	160
8. 附属図書館	162
8.1 図書館運営委員会	162
8.2 今年度の主な活動概況	162
8.2.1 図書館事業の実施	162
8.3 資料整備状況	163
8.3.1 分野別蔵書構成（令和7年3月31日現在）	164
8.3.2 医学分類蔵書構成（令和7年3月31日現在）	164
8.3.3 看護系資料分類別構成（令和7年3月31日現在）	164
8.4 利用統計	165
8.4.1 開館日数・入館者数	165
8.4.2 利用者数及び冊数	165
8.4.3 他大学・国立国会図書館・公共図書館への文献複写依頼件数	165
8.4.4 他大学・公共図書館・他機関からの文献複写受付件数	165
8.4.5 館内設置コピー機による複写件数・枚数	166
8.4.6 相互貸借貸出冊数	166
8.4.7 相互貸借借受冊数	166
8.4.8 データベース利用状況	166
8.5 利用者サービス	167
8.5.1 学内向図書館サービス	167
8.5.2 学外向図書館サービス	167
8.5.3 学内で利用できるデータベース	168
8.6 職員研修	168
8.6.1 附属図書館職員の研修	168

9. 附属地域ケア総合センター	170
9.1 地域ケア総合センター運営委員会.....	170
9.1.1 地域活動・地域創生部会	172
10. 看護キャリア支援センター.....	174
10.1 看護キャリア支援センター運営委員会	174
10.2 認定看護師教育課程フォローアップ研修	174
10.3 石川県委託事業の開催	176
10.3.1 石川県看護教員現任研修事業.....	176
10.3.2 専門的看護実践力研修「看護管理者経営研修」	178
10.3.3 専門的看護実践力研修「分野別実践看護師養成研修：皮膚・排泄ケア研修」	179
10.4 リカレント教育委員会	181
10.5 地域貢献	182
11. 大学施設の開放.....	183
編集後記.....	184

1. 学事

1.1 2024年度学事暦

令和6年

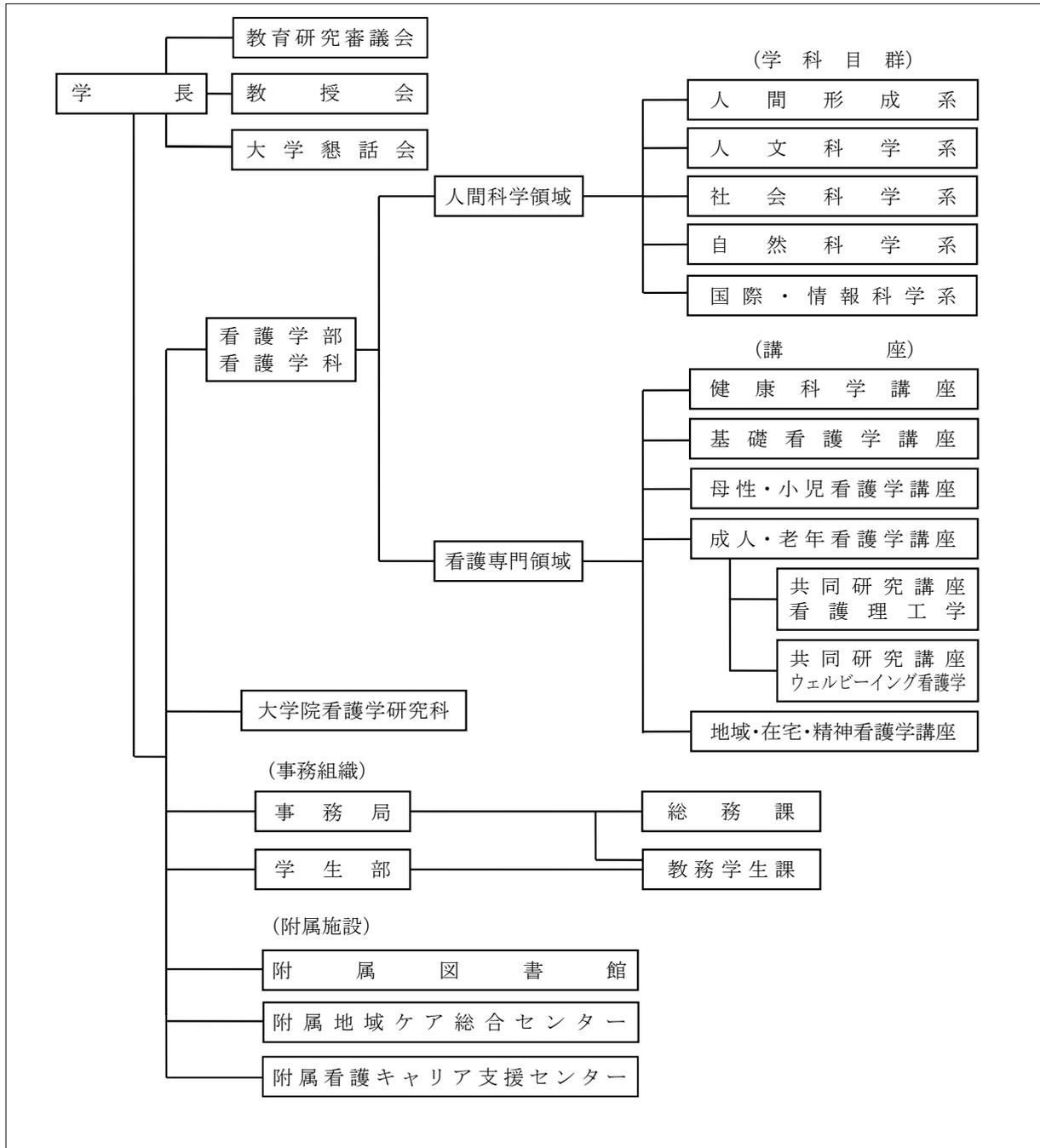
4月 4日 (木)	入学式
4月 2日 (火) ~ 4月 5日 (金)	ガイダンス 学生健康診断
4月 8日 (月)	授業開始
4月 1日 (月) ~ 4月10日 (水)	前期履修登録受付
5月29日 (水)	開学記念日
7月13日 (土)	夏のオープンキャンパス
7月30日 (火) ~ 8月 8日 (木)	前期補講・試験
8月 9日 (金) ~ 9月30日 (月)	夏季休業
8月 4日 (日)	入学試験 (大学院博士前期課程・後期課程)
10月1日 (火)	後期授業開始
9月20日 (金) ~ 10月 2日 (水)	後期履修登録受付
10月12日 (土)	秋のオープンキャンパス
11月16日 (土)	入学試験 (学校推薦型選抜・社会人選抜)
12月23日 (月) ~ 1月 6日 (月)	冬季休業

令和7年

1月18日 (土) ~ 1月19日 (日)	大学入学共通テスト
2月12日 (水) ~ 2月20日 (木)	後期補講・試験
2月25日 (火)	入学試験 (一般選抜前期日程)
3月12日 (水)	入学試験 (一般選抜後期日程)
3月15日 (土)	卒業式・学位授与式
2月21日 (金) ~ 3月31日 (月)	春季休業

1.2 大学組織図

1.2.1 大学組織図



1.2.2 常設委員会構成

委員会・部会名	委員長	教員構成	掲載ページ
教務委員会*	学長の指名	小講座から各1名（助教以上） ただし、基礎からは各2名	26
学生委員会*	学生部長	大講座から各1名以上（助教以上） +各学年担任から1名	28
学生相談部会	学生部長の指名	4名（助教以上）+学生部長	30
進路支援専門部会委員会	学生部長の指名	看護の小講座から1名（講師以上）	32
図書館運営委員会	附属図書館長	大講座から各1名（講師以上）	167
石川看護雑誌編集委員会*	図書館長の指名	5名	36
研究推進委員会*	学長の指名	大講座から各1名（講師以上）	34
学内研究助成専門部会	学長の指名	5名（教授のみ）	35
情報システム委員会	学長の指名	5名	36
地域ケア総合センター運営委員会*	附属地域ケア 総合センター長	小講座から1名（講師以上）	175
地域活動・地域創生部会		3名	177
看護キャリア支援センター運営委員会*	附属看護キャリア 支援センター長	センターの教員3名 その他学長が指名する者5名	179

*委員会運営を助ける助手・助教1～2名が学長指名で追加される。

委員会・部会名	委員長	教員構成	掲載 ページ
国際交流委員会	学長の指名	大講座から各1名（講師以上） +委員長指名3名	165
広報委員会*	学長の指名	役職者+HPへの文章掲載の 役割を担う者	37
入学試験委員会	学長	大講座から各1名（准教授以上）	39
入試試験実施専門部会	入試委員長の指名	大講座から各1名以上（助手以上）	40
入試評価部会	入試委員長の指名	3名（講師以上）	40
作問専門部会（非公表）	学長の指名	3名	
自己点検・評価委員会*	学長	役職者、学長指名4名	40
教員評価部会	学長の指名	3名	44
I R 推進部会			46
年報編集部会	学長の指名	3名	45
FD委員会*	学長の指名	大講座から各1名（講師以上）	46
ハラスメント委員会	学長	5名	47
コンプライアンス委員会	研究科長	5名	48
大学院教務学生委員会	研究科長	5名	66
倫理委員会	委員の互選	学内8名+学外3名	49
動物実験委員会	学長の指名	動物実験にかかわる教員	50
微生物安全管理委員会	学長の指名	微生物実験にかかわる教員	51
DX推進委員会	学長の指名	規程に定める者	52
衛生委員会	委員の合意により 決定	理事長指名+過半数代表者 推薦	52

*委員会運営を助ける助手・助教1～2名が学長指名で追加される。

1.3 懇話会

石川県立看護大学懇話会

県内の看護関係の団体、県民の代表者等から意見を聴取し、地域に密着した大学としての運営に資するため、石川県立看護大学に懇話会を設置する。

1. 開催日時： 令和7年3月27日（木）16時30分～
2. 開催形式： オンライン開催（Zoom）
3. 学外出席者： 石川県医師会長 安田 健二
 (11名) 石川県看護協会会長 小藤 幹恵
 石川県立中央病院院長 岡田 俊英
 石川県立中央病院看護部長 江藤 真由美
 金沢医科大学病院看護部長 松田 琴美
 金沢医療センター看護部長 藤田 恵子
 金沢大学医薬保健研究域保健学系教授 表 志津子
 会議通訳、翻訳者 早川 芳子
 石川県保健所長会代表能登中部保健福祉センター所長 坪田 誠
 石川県高等学校長協会会長金沢泉丘高等学校長 岡橋 勇侍
 かほく市長 油野 和一郎
- 学内出席者： 学長、学部長、研究科長、学生部長、図書館長、地域ケア総合センター長、看護キャリア支援センター長、学長補佐、事務局長、総務課長、教務学生課長
4. 主な内容： (1) 看護大学の現況について
 ・組織、教職員数、入学定員、入試の状況等について
(2) 学生の進路状況について
 ・学部の状況、大学院の状況について
(3) 学部教育・大学院教育・生涯教育について
 ・大学院修士・博士課程の研究、皮膚・排泄ケア課程の概要等について
(4) 地域貢献及び国際貢献について
 ・地域ケア総合センターの事業等について
(5) 意見交換
 ・本学の看護職の就職動向、認知症に関する予防・ケアなどの取り組み、能登半島地震後の活動、DX化、データ活用、防災士の資格等

1.4 オープンキャンパス

1.4.1 夏の対面型オープンキャンパス

1. 日 時：令和6年7月13日(土) 9時40分～12時30分
2. 参加者：302名
3. 概 要：
 - 1) 大学説明会
 - ・学長挨拶
 - ・本学の特徴、入試制度と受験対策、卒業後の進路、助成金等について
 - 2) 模擬講義
 - 「心臓の働きと病気」、
 - 「石川から世界へ羽ばたく！ 人生を変えるIPNUのグローバル活動」
 - 3) キャンパスライフ紹介
 - ・入学、授業、実習、課外活動等について
 - 4) 看護体験×ミニ模擬講義
 - ・健康科学 「心電図測定、スパイロメーターによる呼吸気量の測定、感覚機能の測定などを体験しよう」
 - ・基礎看護学 「キラリ★看護のシゴト」
 - ・成年・老年看護学 「看護のDXに挑戦しよう」
 - ・母性・小児看護学 「赤ちゃんと妊婦のケアを体験しよう！看護入門」
 - ・地域・在宅・精神看護学 「ストレスについて考えてみよう！」
 - 5) 研究ミニイベント
 - ・臺 美佐子 教授 「包帯を巻いてみよう！知って得する包帯の科学」
 - ・松本 勝 教授、幅 大二郎 講師
「最先端のデバイスを使った看護技術「可視化」を体験してみよう」
 - ・大貝 和裕 教授、長谷川陽子 准教授、峰松 健夫 教授
「皮膚から身体を見る：スキンプロットティングを体験しよう」
 - ・垣花 渉 教授 「歩き方を探る—あなたはピッチ型orストライド型？」
 - 6) 教員・学生による相談会

夏の対面型オープンキャンパスでは、県内外から高校生及び保護者ら302名の参加があった。当日は、本学の特徴等に関する説明会等を開催した後、「キャンパスライフ紹介」「看護体験×ミニ模擬講義」「研究ミニイベント（事前申込制）」「個別相談会」といった各ブースに自由に参加できる形式とした。

1.4.2 秋の対面型オープンキャンパス

1. 日 時：令和6年10月12日(土) 9時30分～12時30分
2. 参加者：155名

秋の対面型オープンキャンパスでは、夏と同様に定員を設けずに実施し、高校生及び保護者ら155名が参加した。

高校2年生・1年生も多く、早い段階から進路を意識している高校生の増加が目立った。

2. 教員・職員

2.1 教員紹介

領域	学科目群又は講座	科目群	職位	氏名
人間科学領域	人間形成系群	健康体力科学	教授	垣花 渉
	社会科学系群	哲学・生命倫理学	講師	中嶋 優太
	人文科学系群	心理学	准教授	松田 幸久
	自然科学系群	人間工学	教授	小林 宏光
	国際・情報科学系群	英語	講師	工藤 義信
		情報科学	講師	佐能 唯
看護専門領域	健康科学講座	機能・病態学	教授	今井 美和
			教授	平居 貴生
			准教授	市丸 徹
		保健・治療学	教授	岩佐 和夫
		教授	今井 秀樹	
	基礎看護学講座	基礎看護学	教授	石川 倫子
			准教授	寺井 梨恵子
			准教授	木田 亮平
			講師	田村 幸恵
			講師	南條 裕子
			講師	石井 和美
			助教	瀬戸 清華
	助教	千田 明日香		
	母性・小児看護学講座	母性看護学	教授	亀田 幸枝
			教授	米田 昌代
			講師	曾山 小織
講師			桶作 梢	
助教			河合 美佳	
助教			野沢 ゆり乃	
小児看護学		教授	戸部 浩美	

研 究 課 題
身体活動を促進する行動科学および社会的支援アプローチの効果、初年次教育の実践的研究
西田『善の研究』前後の新資料からみた自由論
ヒトの視覚と記憶を中心とした認知機能の解明と応用研究、精神疾患の脳機能・形態的特徴の研究、社会の大量・多変量データを活用した統計学的研究
心拍変動 (Heart rate variability) および唾液バイオマーカーの分布特性その応用研究、体幹加速度による歩行対称性の研究
15世紀イギリス教訓文学作家ピーター・イドリー作『息子への教え』現存写本にみる教訓詩の受容の実態
MRゴーグルを用いた輸液ポンプの輸液管理演習方法の開発
若者のヒトパピローマウイルス (HPV) 関連疾患予防に関する研究
生活習慣病の予防・改善に関する研究、時計遺伝子の新規生物作用の解明
生殖機能の中枢制御機構に関する研究、性認識・性教育に関する研究
骨格筋による免疫制御機構及び補正制御機構の解明
わが国の疾病構造に関する疫学的研究、ヒト集団を対象とした人類生態学的研究
看護管理学に関する研究、看護師のキャリアに関する研究、在宅療養移行支援に関する研究
看護師の視覚情報に関連した観察についての研究、転倒予防に関する研究、看護師の臨床判断に関する研究
看護組織マネジメントや健康的職場環境に関する研究、持続的な看護提供体制に関する研究
基礎看護技術に関する研究、心不全患者への看護に関する研究
クリティカルケア領域の実践・教育・管理に関する研究 EBPの普及と実装に関する研究
看護技術のエビデンスに関する研究 清潔ケアに関する研究
筋萎縮性側索硬化症患者の在宅療養に関する研究
看護師の実践能力に関する研究
プレコンセプションケアの推進に関する研究 健康教育の効果や測定用具に関する研究 助産師教育に関する研究
グリーフケア（主に流産・死産・新生児死亡で子どもを亡くした家族とその支援者へのケア）に関する研究、周産期のケア・子育て支援・女性の健康に関する研究
妊娠前ケアに関する研究、周産期の看護に関する研究、子育て支援に関する研究、生殖補助医療の看護に関する研究、助産技術継承に関する研究
AYA（思春期・若年成人）世代のセクシュアリティに関する研究、包括的性教育に関する研究
女性の尿失禁に関する研究
妊婦歯科健診受診促進に関する研究
家族のレジリエンス、虐待・マルトリートメント予防、家族のマインドフルネス、養育態度、怒り、感情調整、感情の社会化、アタッチメント、愛着障害、養子縁組、発達障害、不登校、家族学

領域	学科目群又は講座	科目群	職位	氏名	
看護専門領域	母性・小児看護学講座	小児看護学	講師	千原 裕香	
			助教	後藤 亜希	
			助教	西 真理子	
	成人・老年看護学講座	成人看護学	教授	紺家 千津子	
			教授	峰松 健夫	
			教授	臺 美佐子	
			准教授	松本 智里	
			講師	大西 陽子	
			講師	今方 裕子	
			助教	瀧澤 理穂	
			助教	額 奈々	
			老年看護学	教授	真田 弘美
				教授	川島 和代
				教授	北村 言
				准教授	中道 淳子
				講師	大橋 史弥
	助教	近藤 考朗			
	地域・在宅・精神看護学講座	地域看護学	教授	塚田 久恵	
			教授	米澤 洋美	
			助教	室野 奈緒子	
			助教	嶋 雅奈恵	
		在宅看護学	教授	桜井 志保美	
			助教	山路 朋子	
助教			牛村 春奈		
精神看護学		教授	美濃 由紀子		
		講師	大江 真吾		
		助教	高濱 圭子		
		助教	川俣 文乃		
共同研究講座	看護理工学	教授	大貝 和裕		
		准教授	長谷川 陽子		
	ウェルビーイング看護学	教授	松本 勝		
		講師	幅 大二郎		

研 究 課 題
親になる前から始めるマルチリトメント予防に関する研究、子育て中の親支援に関する研究
子どもの虐待予防に関する研究、育児不安や育児困難を抱える母親への支援に関する研究
特別養子縁組に子どもを託す実母支援に関する研究
創傷・皮膚障害に関するケア技術開発に関する研究 創傷・スキンケア看護における遠隔支援に関する研究 災害時における褥瘡ケアに関する研究
褥瘡の発生や不顕性感染の予測・同定法、創傷治癒促進法、慢性脱水同定法の開発を目指した看護理工学研究
リンパ浮腫患者の蜂窩織炎再発予防のためのアドバンストスキンケアの開発 リンパ浮腫管理の質向上に向けた遠隔ケアシステム構築 超音波検査技術を用いた浮腫評価方法の構築
がん患者のアピアランスケアに関する研究 リンパ浮腫患者の遠隔保存療法および靴の開発に関する研究
クリティカルケア領域における人工呼吸器装着患者への看護に関する研究
がん患者の化学療法による浮腫ケアの開発
子どもをもつがん患者への支援に関する研究、がんサバイバーシップに関する研究
介護保険施設の看取りに関する研究 トランスジェンダーに関する研究
褥瘡に関する研究、看護の可視化に関する研究、看護理工学研究
高齢者施設等の看護と介護の連携に関する研究、高齢者の機能低下を支援するケアの開発に関する研究
褥瘡の予防・管理に関する研究、高齢者の療養生活支援に関する研究
認知症高齢者ケアに関する研究、介護予防に関する研究、高齢者の意思決定支援に関する研究
心不全高齢者の再入院予防に関する研究、高齢者の身体拘束予防に関する研究
認知症高齢者への意思決定支援に関する研究
介護予防に関する研究、ヘルスリテラシーと保健行動に関する研究
団塊世代男性を対象とした定年退職後の再就労の場における介護予防プログラム構築
産業保健看護職の活動に関する研究、労働者の就労継続に関する研究
障害児施設における支援の質の向上に関する研究
家族介護者の健康支援に関する研究、医療的ケア児の養育者に対する育児支援
高齢者の入退院支援に関する研究
高齢者の口腔と栄養に関する研究
重大な他害行為を起こした精神疾患患者の治療・ケアに関する研究
発達障害者への訪問看護に関する研究、精神障害者の農福連携推進に関する研究
アルコール依存症者の回復に関する研究
看護場面における感情体験と援助関係に関する研究
スキンプロット法による網羅的検査法の開発と応用
スキンプロット法を用いた栄養評価技術の開発と応用・高齢者の栄養に関する研究・医療データベースを用いた看護学・栄養学研究
在宅療養高齢者の幸福寿命を支える看護理工学テクノロジー、AIロボティック車いすとエコー・ICT/MRを活用した遠隔ケア支援
AIロボティック車椅子の振動ケアによる下腿浮腫予防・改善支援

2.2 特任教員等紹介

職 位	氏 名	担 当	任 期
特任准教授	池 田 富三香	附属看護キャリア支援センター	令和5年 4月 1日～ 令和7年 3月31日
臨時助手	原 真佑子	母性看護学	令和6年 4月 1日～ 令和7年 3月31日
臨時助手	浅 谷 純 菜	基礎看護学	令和6年 5月 1日～ 令和7年 3月31日
臨時助教	平 岡 淳 子	成人看護学	令和6年10月 1日～ 令和7年 3月31日
臨時助手	加 藤 克 典	成人看護学	令和6年10月 1日～ 令和7年 3月31日
臨時助手	中 敷 なをみ	地域看護学	令和6年10月 1日～ 令和7年 3月31日
臨時助手	石 崎 由貴子	小児看護学	令和6年10月 1日～ 令和7年 3月31日
臨時助手	吉 川 季実子	小児看護学	令和7年 1月 1日～ 令和7年 3月31日
—	小 幡 康 二	アドミッションアドバイザー	令和5年 4月 1日～ 令和6年 3月31日

2.3 教員組織構成 (2025年3月現在)

2.3.1 所属領域・講座と職位構成

単位 (人)

学部・センター	講座	計	教員	職位構成				
				教授	准教授	講師	助教	助手
人間科学領域		6(1)	6(1)	2(0)	1(0)	3(1)	-	-
看護専門領域	健康科学	5(1)	5(1)	4(1)	1(0)	-	-	-
	基礎看護学	8(7)	8(7)	1(1)	2(1)	3(3)	2(2)	-
	母性・小児看護学	10(10)	10(10)	3(3)	-	3(3)	4(4)	-
	成人・老年看護学	11(8)	11(8)	4(3)	2(2)	2(1)	3(2)	-
	地域・在宅・精神看護学	11(10)	11(10)	4(4)	-	1(0)	6(6)	-
共同研究講座		4(1)	4(1)	2(0)	1(1)	1(0)	-	-
附属看護キャリア支援センター		3(3)	3(3)	-	1(1)	2(2)	-	-
計		58(41)	58(41)	20(12)	8(5)	15(10)	15(14)	-

() の数字は内数であり女性の数を示す；教員は教授、准教授、講師、助教を示す

2.3.2 職位別年齢構成

		単位 (人)					
職位	計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
教授	22 (14)	-	2	3	8	9	-
准教授	8 (5)	-	1	4	2	1	-
講師	15 (10)	-	4	8	3	-	-
助教	15 (14)	-	7	7	-	1	-
教員	60 (43)	-	14	22	13	11	-
助手	-	-	-	-	-	-	-
計	60 (43)	-	14	22	13	11	-

() の数字は内数であり女性の数を示す；教員は教授、准教授、講師、助教を示す

2.3.3 大学院看護学研究科の研究指導教員・研究指導補助教員

		単位 (人)	
課程	計	研究指導教員	研究指導補助教員
博士前期課程	23 (20)	23 (20)	0 (0)
博士後期課程	23 (20)	23 (20)	0 (0)

() の数字は内数であり教授の数を示す

2.3.4 博士前期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成

		単位 (人)			
職位	計	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
研究指導教員	23 (14)	2	4	12	5
研究指導補助教員	0 (0)	-	-	-	-
計	23 (14)	2	4	12	5

() の数字は内数であり女性の数を示す

2.3.5 博士後期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成

		単位 (人)			
職位	計	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
研究指導教員	23 (14)	2	4	12	5
研究指導補助教員	0 (0)	-	-	-	-
計	23 (14)	2	4	12	5

() の数字は内数であり女性の数を示す

2.4 職員紹介 (2025年3月現在)

事務局 長	中村 博之
-------	-------

<総務課>

総務課 長	上村 正人
主幹兼係長	中島 晃
主 幹	長谷川 ゆかり
係 主 査	地藤 拓也
主任主事	鳥元 奈美江
主 事	外 尚之
非常勤嘱託	市塚 武博
非常勤嘱託	金田 典子
非常勤嘱託	小山 浩美
事務員	湯尾 つる美
事務員	土屋 真寿美

<教務学生課>

教務学生課長	河端 茂久
専門員	久保石 雄貴
主任主事	藏谷 光穂
主任主事	西野 美紗都
専門員	小酒 利恵
事務員	赤池 恵子

<附属地域ケア総合センター>

センター長	(兼)塚田 久恵
-------	----------

<附属看護キャリア支援センター>

センター長	(兼)紺家 千津子
非常勤嘱託	一花 麻衣

<附属図書館>

館 長	(兼)小林 宏光
非常勤嘱託(司書)	山村 徹
非常勤嘱託(司書)	山田 美花
非常勤嘱託(司書)	古橋 和子

3. 中期計画

3.1 第3期中期計画（2023年度～2028年度）における2024年度計画と実績

3.1.1 2024年度計画の概略（石川県公立大学法人 2024年度計画 概要版より）

計画策定の基本的考え方

第3期中期計画(6年間)の2年目にあたる令和6年度は、中期計画の達成に向けて、3つの柱「教育の質の向上・学生支援及び学生の確保」「研究の質の向上・良好な教育研究環境の整備」「産学官連携・地域貢献の一層の推進」につながる事業、能登半島地震の被災者支援、のど復興支援に特に重点的に取り組む。

中期計画の3つの柱に関する取組み

項目	看護大	
	内容	
Ⅰ. 教育の質の向上・学生支援及び学生の確保	①教育の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の入試成績や自己効力感等の調査を通じたアドミッション・ポリシーの検証 ・学内演習へのDXの導入、シミュレーション教育の強化
	②人口減少・少子高齢化の時代における優秀な学生の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・夏・秋のオープンキャンパスで高校生の研究室訪問の実施 ・新たな入学者選抜方法による入学生の学修状況等の分析
	③就職・キャリア形成支援、学生満足度の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・能登半島地震で被災した学生の授業料減免による学びの継続の支援 ・ティーチング・アシスタントによる学修支援 ・担任制の強化による学修等の悩みへの相談・支援 ・キャリアプラン実現のための入学時からの相談・支援
Ⅱ. 研究の質の向上・良好な教育研究環境の整備	④研究の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題解決につながる研究の推進 ・在宅で安心して暮らせる社会と医療従事者の負担軽減の実現に向けた産学共同研究の推進
	⑤教育研究環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・教育力・研究力の強化に向けた高度で先進的な教育研究装置の整備
Ⅲ. 産学官連携・地域貢献の一層の推進	⑥地域貢献の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・能登半島地震の被災者の支援 ・看護職者のスキルアップ研修や、自治体と連携した健康増進活動の実施 ・皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程の開講

その他の主要な取組み

項目	看護大	
	内容	
Ⅳ. グローバル化の進展	①国際交流、国際協力の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・海外看護研修の開催 ・海外大学から看護系教員を招聘し、国際交流研修を実施
Ⅴ. 経営基盤の維持強化	②ガバナンス機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・理事長及び学長のリーダーシップのもと、大学における様々な課題への対応等、戦略的かつ円滑な大学運営を推進
Ⅵ. 大学運営の改善、大学の認知度向上	③積極的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・リニューアルしたホームページによる情報発信 ・教育研究の魅力を高校生に伝えるミニ講義動画の作成・配信

3.1.2 2024年度実績の概略

(石川県公立大学法人 2024年度業務実績報告書の概要より抜粋)

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育課程及び実施体制の充実

(1) 防災・災害教育の強化

- ・ 県の寄附講座「災害実践看護学」の令和7年度開設に向けた準備
- ・ ヒューマンヘルスケア科目に「防災士取得コース」を開設（53人取得）
- ・ 教職員の防災士資格取得を推進（45人取得）

(2) 教育のDX推進

- ・ 的確な指導と振り返りが可能な、集中治療室をリアルに再現した演習室を整備してシミュレーション教育を充実
- ・ 2年次対象の病院実習において教育用電子実習記録システムを導入

(3) グローバル化の推進

- ・ 海外看護研修を開催し、ブリガムヤング大学（アメリカ）の講義や実習に参加、令和7年度の相互訪問・受入を決定
- ・ アメリカから看護教員3名を招聘して講演会を開催

2 学生の確保

<学士課程>

- ・ 教育研究の魅力を伝える講義動画を制作、配信
- ・ 令和7年度に実施する入試から、理系科目重視から文系・理系を問わない科目構成への変更を周知

<大学院課程>

- ・ 優秀な人材を早期に確保するため、入学試験日程の前倒しや受験科目を見直し

3 学生への支援

(1) 学修支援

- ・ 担任制の強化（担任の増員（3人→5人）、4年間持ち上がり）による継続的な学修支援
- ・ 地震・豪雨の被災学生に対する授業料等の減免で、学びの継続を引き続き支援

(2) キャリアプランの実現を支援

- ・ 1年生が参加できるキャリアプランに関するセミナーを拡充
- ・ 国家試験対策として、3年生模試や4年生に模試の結果に応じて補習を実施

石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

4 研究及び産学官連携、地域貢献の推進

(1) 地域の課題解決に向けた取組の推進

- ・かほく市の高齢者を対象にしたeスポーツの効果を検査・報告
- ・宝達志水町の高齢者を対象にしたフレイル(身体的機能・認知機能の低下)予防を検査・分析

(2) 産学共同研究の推進

- ・サラヤ(株)との共同研究講座「看護理工学」において、パッチを貼るだけで脱水症の早期発見や血液生化学検査データをモニタリングするシステムを開発中
- ・(株)モルテンとの共同研究講座「ウェルビーイング看護学」を開設し、在宅療養高齢者の快適な生活をサポートするAI車椅子の開発を開始

(3) 地域人材の育成

- ・大学コンソーシアム石川による人材育成プログラムにおいて、本学学生が「学都いしかわグローバル人材」の県内第1号に認定

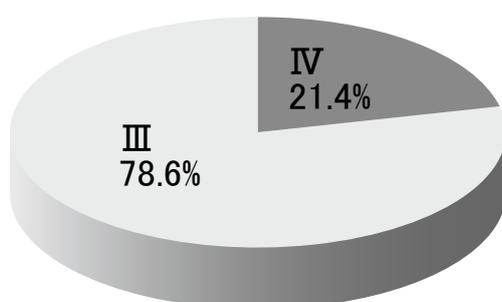
(4) 看護職員の資質向上への支援

- ・皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程の開講及び令和8年度の継続開講を決定
- ・医療機関の要請に応え、看護研究の講師として10病院に派遣
- ・専門知識の向上とスキルアップのための研修を開催

(5) 地震・豪雨被災者や地域住民への支援

- ・輪島市内の高齢者施設で褥瘡ケアを実施
- ・被災地での健康サロンや体操教室、災害ボランティア活動を実施
- ・浮腫ケア看護相談室を開設し、地域住民の健康維持をサポート

項目別評価の状況



項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計
教育	3	16	0	0	19
研究	2	2	0	0	4
地域貢献	1	3	0	0	4
グローバル化	0	1	0	0	1
計	6	22	0	0	28

業務運営の改善・効率化に関する目標

- 1 **ガバナンス機能の強化**
 - ・学長のリーダーシップを発揮できる学内運営体制とするため、将来構想委員会及び運営連絡会議を開催
- 2 **事務組織等の整備と効率化**
 - ・広報業務を教務学生課に集約して一体的に情報を発信
- 3 **両大学間連携の推進**
 - ・両大学の合同研究発表会、FD研修会、意見交換会を開催
- 4 **大学の将来を見据えた教員の採用**
 - ・県の寄附講座「災害実践看護学」の令和7年度開設に向けて、災害専門看護師を含む3名の専任教員の登用を決定

財務内容の改善に関する目標

- 1 **外部研究資金の獲得**
 - ・外部研究資金情報を収集し、情報提供や説明会を開催
 - ・外部研究資金獲得額 181,932千円（113件）

自己点検評価及び情報提供に関する目標

- 1 大学への評価を活用した取り組み**
 - ・ 認証評価機関の所見等を踏まえ、大学院課程におけるポリシーを改定
- 2 大学の活動に関する情報発信**
 - ・ ホームページで講義動画の配信やオープンキャンパス等の情報を発信

その他業務運営に関する目標

- 1 良好な教育研究環境の整備**
 - ・ 計画に基づくトイレの洋式化や照明のLED化
 - ・ 看護スキルスラボの整備や講義室のコンセント・モバイルバッテリーの増設など、DXの推進
 - ・ 図書館入口ゲートや監視カメラの更新
- 2 全学的な安全衛生管理体制の整備**
 - ・ 災害時の安否確認において、大学・学生が双方向で情報伝達できるよう学内システムを改修
 - ・ 情報把握の迅速化のため、教職員の安否確認方法を電話連絡網からスマートフォンやパソコンによる一斉確認に変更

4. 看護学部看護学科

4.1 理念・目標

4.1.1 教育理念

人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性ととも、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する。

4.1.2 教育目標

1. 豊かな人間性と倫理観を備えた人材の育成
人間の生命、生活を尊重し、人の痛みや苦しみを共に分かち合える温かい心、豊かな人間性と倫理観を備えた人材を育成する。
2. 看護学に求められる社会的使命を遂行し得る人材の育成
看護専門職として必要な知識、技術を修得し、人々の健康と生活に関わる諸問題に対して、科学的な根拠に基づく判断力と問題解決能力及び看護学研究に関する思考力と創造性を涵養し、看護学に求められる社会的使命を遂行し得る人材を育成する。
3. 調整・管理能力を有する人材の育成
保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協力して行われる看護実践を通して、調整・管理能力を有する人材を育成する。
4. 国際社会でも活躍できる人材の育成
国際的な視野から、健康問題や看護問題を思考、判断し、国際社会でも活躍できる人材を育成する。
5. 将来の看護リーダーの役割を担う人材の育成
社会状況の変化を踏まえ、看護が担うべき役割を展望し発展させるため、自らの研鑽を重ねながら、その資質向上に努め、看護学の発展に寄与し、将来の看護リーダーとなることができる人材を育成する。

4.1.3 アドミッション・ポリシー（求める人材）

看護とは、「様々な健康レベルの人々が、その人らしく生活できるよう援助する仕事」です。そのため、専門的な知識・技術はもちろん、命を大切にする心や人間としての豊かさが求められます。

本学では以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を広く求めます。

1. 大学で学ぶ上で必要とされる基礎学力を身につけている。
2. 人間や生命に関心を持ち、保健・医療・福祉分野で活躍・貢献したいという目的意識を持っている。
3. 周囲の人と協力して物事を進めることができる。
4. 他者の意見に耳を傾け、自分の考えを表現できる。
5. 自己学習・自己啓発を継続する意欲がある。

4.1.4 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

本学では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる知識・技術などを修得できるように、人間科学領域の科目と看護専門領域の科目を体系的に編成しています。教育内容、教育方法、教育評価について以下のように定めています。

〈教育内容〉

学生が大学での学修に適応するための科目を初年次より配置する。加えて、人間科学・健康科学・看護学の科目間の連携を図り、それらを統合して学べるように科目を配置する。

看護専門領域に「健康・疾病・障害の理解」「看護の基本」「看護援助の方法」「看護の実践」「看護の発展」の科目を配置する。また、人間の成長、発達、健康の維持増進から終末に至る健康問題を科学的に評価し、生活・療養の場に応じた看護の必要性を学べるように設定する。

さらに、様々な状況に対応できる能力、多職種と連携・協働しながら看護の専門性を発揮できる能力、将来を切り開いていく能力を統合・発展させるための科目を段階的に学べるように設定する。

〈教育方法〉

幅広く総合的に看護を学ぶことができるよう、積極的に人々の生活の場に出向いたり、アクティブ・ラーニング、異学年交流等を活用した講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を行う。

個々の学習深度や能力に応じた指導を行うため、個別学習やレポート課題を課し、フィードバックを行う。

学生のより積極的な学習ニーズに応えるため、外部の客観的評価試験や外部の開講科目（放送大学、シティカレッジ等）を活用する。

学年進行に沿って、学修を統合的に積み重ねることができるよう履修指導を行う。

〈教育評価〉

各科目の学習目標の達成度を評価し、その基準は授業計画に示す。加えて、本学の履修規程・学則に基づいて総合的に評価する。

4.1.5 ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

教育理念を基に本学の教育課程に沿って研鑽に努め、指定する卒業単位を修得することで、下記の能力・資質を修得・涵養し、それらを総合的に活用できる人材を養成します。

1. 看護の基盤となる豊かな人間性や倫理観と教養を身につけている。
2. 看護職として専門分野における学問内容の知識・技術を修得している。
3. 人間の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価し、的確な判断ができる。
4. 人々の健康維持と増進、予防、また健康障害から回復過程等、全ての健康段階を連続的に捉え、生活に根ざした支援の必要性を理解できる。
5. リーダーシップを身につけ、自ら多職種と連携・協働することができる。
6. 国際化及び社会の医療ニーズの変化に対応し、生涯を通して自己を高めることができる。

4.2 学部学生の入学・在学・卒業の状況

(1) 入学の状況

①入学定員・収容定員

単位 (人)	
入学定員	収容定員
80	320

②試験実施日

実施日	
推薦入試・社会人入試	令和 6年11月16日 (土)
一般入試前期日程試験	令和 7年 2月25日 (火)
一般入試後期日程試験	令和 7年 3月12日 (水)

③受験状況等

単位 (人、倍)						
	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率	入学者数
推薦入試	30	65	65	30	2.2	30(26)
社会人入試	若干名	1	1	1	1	1(1)
一般入試前期	40	76	72	42	1.7	41(38)
一般入試後期	10	177	54	16	3.4	16(14)

() の数字は内数であり女性の数を示す

(2) 在学の状況 (令和7年3月1日現在)

単位 (人)						
学 年		1年次	2年次	3年次	4年次	計
在学者数	男性	9	5	6	5	25
	女性	76	78	79	79	312
	計	85	83	85	84	337

(3) 卒業の状況

①卒業者数 第22期生

単位 (人)

区 分	計	入学年度別卒業生数	
		令和2年度以前 入 学 者	令和3年度 入 学 者
卒業生数	83(78)	5(5)	78(73)

() の数字は内数であり女性の数を示す

②卒業後の進路状況 第22期生 (令和7年3月31日現在)

単位 (人)

区 分	県 内		県 外		合 計		
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
就 職	看護師	44	53.1%	19	22.9%	63 (60)	76.0%
	国公立病院 (独立 行政法人を含む)	41	49.5%	6	7.2%	47 (44)	56.7%
	上記以外の病院	3	3.6%	13	15.7%	16 (16)	19.3%
	保健師	3	3.6%	5	6.0%	8 (6)	9.6%
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0 (0)	0.0%
	計	47	56.7%	24	28.9%	71 (66)	85.6%
進 学	大学院博士前期課程	3	3.6%	0	0.0%	3 (3)	3.6%
	養護教諭特別別科	1	1.2%	1	1.2%	2 (2)	2.4%
	その他	0	0.0%	4	4.8%	4 (4)	4.8%
	計	4	4.8%	5	6.0%	9 (9)	10.8%
未 定		3	3.6%	0	0.0%	3 (3)	3.6%
合 計		54	65.1%	29	34.9%	83 (78)	100.0%

() の数字は内数であり女性の数を示す。 割合は、総数83人を100%としたもの

③主な就職先 第22期生 (令和7年3月31日現在)

県内	県外
石川県立中央病院	富山県立中央病院
金沢大学附属病院	福井県済生会病院
JCHO金沢病院	福井赤十字病院
国立病院機構金沢医療センター	一宮西病院
公立松任石川中央病院	名古屋市立大学附属西部医療センター
やわたメディカルセンター	三井記念病院
公立穴水総合病院	東京臨海病院
公立宇出津総合病院	三宿病院
珠洲市総合病院	自治医科大学附属病院(栃木)
町立宝達志水病院	湘南鎌倉総合病院
石川県	済生会横浜市東部病院
金沢市	横浜医療センター
	川崎幸病院
	滋賀県淡海医療センター
	神戸大学医学部附属病院
	静岡市
	東京都
	佐久市(長野県)
	松本市(長野県)
	南箕輪村(長野県)

4.3 教育・履修体制

本学の教育は、人間科学領域の5学科目群と看護専門領域の5講座に属する教員が担当します。

領域	学科目群又は講座	科目群	教育内容
人間科学領域	人間形成系群	健康体力科学	自己の健康・体力づくりを生涯にわたり実践していくための理論と方法を修得させるとともに、看護の対象者の健康獲得を目指すための知識と技術について教授する。
	人文科学系群	哲学	哲学・心理学的な思考を通して、人間の本質と存在の意義について理解を深めるとともに、看護職者として悩める人を理解し援助するための知識と方法、態度について教授する。
		心理学	
	社会科学系群	社会学	人々の生活を支える社会のしくみと人間と社会環境との関わりについて理解を深めさせるとともに、社会科学的視点から保健・医療・福祉・看護が抱える諸問題について教授する。
	自然科学系群	人間工学	人々の生活と環境との関わりや人間と環境との共生について理解を深めさせるとともに、人間の日常生活行動や看護現場での諸問題について人間工学的側面から教授する。
	国際・情報科学系群		英語
情報科学			
看護専門領域	健康科学講座	機能・病態学	人間の生命現象や身体の構造・機能と心身の健康の保持・増進、疾病・障害の発症と回復のしくみに関する理論と知識、技術を科学的根拠に基づいて系統的に教授する。
		保健・治療学	
	基礎看護学講座	基礎看護学	「看護とはなにか」という看護の概念・本質と看護の基本となる理論と知識・技術、及び看護職者として必要な態度について教授する。
	母性・小児看護学講座	母性看護学	ライフサイクルのうち、妊娠・分娩・出産から思春期にわたる母子とその家族に特徴的な発達課題と健康問題を踏まえ、看護援助に必要な知識や理論と実践の方法について教授する。
		小児看護学	
	成人・老年看護学講座	成人看護学	ライフサイクルのうち、成人期から老年期にわたる対象に特徴的な発達課題と健康問題を踏まえ、看護援助に必要な知識や理論と実践の方法について教授する。
		老年看護学	
	地域・在宅・精神看護学講座	地域看護学	地域で生活する個人・家族・特定集団・地域住民全体を対象とした地域看護の特徴を踏まえ、活動の場(学校、職場、在宅、地域全体)とその対象の特性に応じた看護援助、及びライフサイクル各期のメンタルヘルスの課題や精神的な健康問題をもつ対象への看護援助に必要な知識や理論と実践の方法を教授する。
在宅看護学			
精神看護学			

4.4 委員会活動

4.4.1 常設委員会

4.4.1.1 教務委員会

委員長：美濃 由紀子 教授

委員：北村教授（副委員長）、松本（智）准教授（副委員長）、垣花教授、戸部教授、塚田教授、桜井教授、市丸准教授、木田准教授、中嶋講師、桶作講師

委員補助：後藤助教、西助教、川俣助教、瀧澤助教

オブザーバー：川島学部長

事務局：河端教務学生課長、西野主任主事

活動内容：

<前年度までの課題>

1. 令和4年度から導入したカリキュラム移行にともなう新・旧カリキュラムの学生への同質の学修機会提供の必要性
2. 成績評価基準についての見直し
3. 異学年交流の機会を増やすための取り組みの必要性
4. 教育におけるDXの導入の準備と体制づくり
5. 臨床教授等との連携と実習記録のDX化への準備

<今年度の目標・改善点・年度計画>

1. 令和4年度から導入したカリキュラムの学修効果等の評価を行う。
2. 新たに導入する成績評価基準について評価を行う。
3. 国内外の活動参加や異学年交流の機会を確保する。
4. 教育のDX推進として、電子教科書・ペーパーレスによる授業を円滑に運営する。
5. 実習の教育指導のため、臨床教授制度を継続する。また、教員・実習指導者の指導力の向上のため、研修会等を開催する。実習記録の電子化のため、臨地実習先と協議する。

<今年度の活動実績・評価>

教務の所掌業務に関して、以下の事項を審議し、活動を行った。

1. カリキュラム移行にともなう新・旧カリキュラムの学生への同質の学修の機会の提供と履修指導の実施
2. 随時試験・定期試験の時間割と試験監督の決定
3. 時間割、教室の配置
4. 非常勤講師の任用
5. 成績判定・修得単位および卒業要件の判定
6. 石川コンソーシアムのシティカレッジの科目提供と受講科目の成績判定
7. 臨床教授等の称号付与、臨床教授等との意見交換会の実施
8. 特別講義の実施

9. フィールド実習に関する教員および学生配置と発表会の実施
10. ヒューマンヘルスケア科目の「防災士取得コース」新設
11. ヒューマンヘルスケア科目に関する教員および学生配置と発表会の実施
12. 卒業研究に関する教員および学生配置と卒業研究発表会の実施
13. 令和6年度の第Ⅳ段階実習の全体調整と令和7年度看護学実習計画・実習暦・学生配置

－評価－

1. 令和4年度から新たに2年次学生に導入した「臨床推論・臨床判断演習」の学修効果や達成度について、3年次の実習を担当した教員に学生の看護実践の判断力（アセスメント力）に関するヒアリングを実施した。科目導入による評価はR6年度のみでは難しいため、経年的な調査の実施が課題として見出された。
2. 令和6年度から新たに導入した成績評価基準にもとづいて判定された前期・後期の成績は、S評価の割合が偏ることなく分布が均等となり評価の妥当性が高まった。
3. ヒューマンヘルスケア科目に、これまでの「地域活動コース」に加え、後期から「防災士取得コース」を新設したところ履修者は令和5年度末の53名から86名と増加した。防災士研修受講については、かほく市との包括連携提携を結び、協力と助成を受けることが可能となった。本学から53名の学生防災士が誕生した。後期の成果発表会では、震災ボランティア体験による多くの学びの報告が出され、地域貢献につながっていた。また、4年ぶりに渡航できた国際看護論演習Ⅰ（アメリカ看護研修）は3・4年生20名が受講するなど、異学年による学生の学修機会が確保・拡充した。
4. 1・2年生がペーパーレス授業の対象学年となった。入学当初に情報ガイダンスを実施、その後も必要に応じて情報端末の機器の使用について学生支援を実施した。情報端末機器の使用における学生対応については、教務学生課、DX推進委員会と連携しながら体制整備に努めた。ペーパーレス試験実施については、不正予防対策としてDX委員会と連携し、監視ソフトの試用と評価、導入に向けた準備を進めた。また、教員を対象としたペーパーレス試験方法に関する研修会を実施した。「教育のDX化」を進める中、教員の教育スキルの向上が見られ、講義・定期試験のDX化は非常勤講師も含め実施された。令和6年度定期試験では41/45科目で情報端末／PCによる試験が実施された。
5. 教員・実習指導者の指導力の向上のための研修会の取り組みとして、臨床教授との意見交換会を実施した。臨床教授等は13施設55名が参加し、学内教員40名と合わせ計95名が参加した。来年度のⅣ段階実習に向けて、これまでの基礎実習の実習記録DX化から得られた知見を共有し、各実習施設の準備状況などを確認した。臨床教授と教員とで意見交換を行うことで、看護学実習のDX化の必要性について理解を深めることができた貴重な会となった。2年次対象の基礎看護学実習Ⅱにおける実習記録の電子化を実施した。学生からはDX化によって記録が書きやすくなったこと、指導者からは、記録が見やすくなった等の意見が聞かれた。

<次年度以降に向けた課題・発展>

1. 令和4年度から導入したカリキュラムの学修効果等の評価を引き続き行う。
2. 令和6年度から導入した成績評価基準について点検を行う。

3. 国内外の活動参加や異学年交流の機会を確保する。
4. 電子教科書・ペーパーレスによる授業を円滑に運営する。臨地実習にDXを導入する。また、シミュレーション教育を強化する。
5. 実習の教育指導のため、臨床教授制度を継続する。教員・実習指導者の指導力の向上のため、研修会等を開催する。
6. 令和6年能登半島地震や奥能登豪雨を踏まえ、災害への対応力を有する看護人材を養成するため、寄附講座「災害実践看護学」を開設する。
7. 新カリキュラムのもとでのフィールド実習の実施に向けて準備・調整を行う。

4.4.1.2 学生委員会

委員長：米田 昌代 教授

委員：今井（秀）教授、大江講師、石井（和）講師、今方講師（前期）

委員補助：嶋助教、西助教

担任代表：1年 佐能講師、2年 大西講師、3年 田村講師 4年 大橋講師

事務局：河端教務学生課長、久保石専門員、西野主任主事

活動内容：

<前年度までの課題>

1. 新担任制度実施において、スムーズな運用になるか、各担任の意見を聴取しつつ、学生相談に費やす時間の推移を評価しながら、課題を抽出していく必要がある。
2. コロナ禍前の学生活動には戻っていないため、学生の主体性を尊重しながらも、活発化していくための学生支援の在り方を考える必要がある。
3. 被災した学生の継続的フォロー

<今年度の目標・改善点・年度計画>

1. 新担任制度1年目として、学生・担任より、意見を聴取し、学生・教員双方にとって、効果的な運用になっているか吟味し、次年度に改善できるところは改善していく。
2. 自治会・大学祭・サークル活動・ボランティア活動に対して、学生の主体性を大切にしながら、活発になるように支援していく。
3. 被災した学生を始め、学修や生活上の悩み等を継続的・総合的に情報を把握し、学生の要望に添いながら、支援していく。

<今年度の活動実績・評価>

1. 新担任制度について

1学年5人体制で4年間継続での担任制度を開始した。年度末のアンケート調査の結果、学生の満足度としては、「満足」、「どちらかという満足」が64.7%であり、「どちらでもない」が33.6%であった。5人体制に変えたことに対する満足度を聞いたため、変えたことに気が付いていない学生が「どちらでもない」を選択し、前年度よりも増加したと考える。「満足」、「どちらかという満足」と回答した学生の理由は安心、充実している、手厚い、心強い、頼れる、関わりのある先生が増える、相談しやすい、4年間同じ先生だと一から関係を築かなくてよいと回答しているが、少数の学生が誰に話せばよいかわからない、話しかけにくいという回答も

みられるため、より一層学生への5人制体制の周知とともに、各担任教員の担当学生の明確化をはかっていく。担任からの5人体制に変わったことに対する意見としては、「よかった」「まあまあよかった」が81.3%であり、8割以上の肯定的意見を得ることができた。理由としては、相談できるメンバーが増えて安心、いろいろな授業での学生の状況が把握しやすい、フォローしあえる等であった。一方、負担感については、役割や学年によって、感じ方が違うため、4年間通しての役割分担となるように、また、学生委員会との行事の役割分担等今後、調整をはかっていく必要がある。対応が困難な学生に関しては、学生部長預かりにしたり、緊急時はチームを作成して対処したことに対する意見は「よかった」「まあまあよかった」が81.3%であり、8割以上が肯定的意見であり、よくなかったという意見はなかった。今後、預かった学生の情報共有の在り方について検討していく必要がある。5人という人数は4年間担当後にすぐ、1年次の担当になる状況も避けられないため、人数の妥当性についても検討していく。

2. 学生の自主的活動の支援について

大学祭においては、第25回看大祭「テーマ: Today is a gift ～楽しめこの瞬間を～」(10月19日)の開催を支援した。模擬店やステージ企画ではかほく市の方々にご参加いただき、約500名の方に来場いただき、盛況であった。学生間の情報共有、案内板の不足、人数の不足等の課題があったため、次年度に引継ぎ、改善していく。

昨年度より、自治会主催で新たな行事が企画され、それを踏襲する形で今年度も実施したが、全ての行事において、準備する時間的余裕がなく、学生の役割分担もうまくできていず、一部の学生に負担が集中するという事態にも陥っていた。学生との連絡がスムーズにとれなかったことも要因としてあるため、次年度は、年度始めに連絡体制の確認、役割分担を明確にし、早期から各担当が準備できるように支援していきたいと考える。異学年交流については支援教員により、スムーズに実施できた。

災害支援に関連したボランティア活動については、後援会費からの通常の助成金に追加し、バス代金を支援した。また、他大学等外部からのボランティア募集に関して、調整をはかった。今年度、教員が関わった自治会活動・異学年交流について以下に示す。

4月 6日 桜ウォーク(自治会主催)

参加人数 学生:50名(自治会:6名)、教員:6名、計:56名

4月11日 新入生歓迎会(自治会主催) 自治会・サークル紹介、ビンゴゲーム

参加人数 1年生85名(全員)、2年生19名(自治会役員15名含む)

3年生1名、計:105名

5月29日 学生大会(自治会主催) 参加人数 学生:157名 委任状156名

6月20日 体育祭(ドッジボール ソフトバレー バトミントン)(自治会主催)

参加人数 学生:39名(自治会:7名)、教員2名、計:41名

6月28日～7月5日 七夕イベント 浅ノ川梅の橋に飾り付け

7月 9日 2年生と3年生の交流会(自治会主催)

参加人数 2年生50名、3年生10名、計:60名

8月 6日 3年生と4年生の交流会(3年生実習調整委員) 進路・実習・就活

参加人数 3年生41名、4年生10名、計:51名

9月25日 県外就職希望の3年生と卒業生のオンライン座談会(担任・さくら会)

卒業生3名 参加人数 3年生10名

11月 7日 1年生と2年生の交流会（自治会主催）基礎 I 実習前対策

参加人数 1年生57名 2年生9名、計:66名

1月15日 大学との座談会（自治会主催）参加人数 自治会役員26名 教職員8名

2月17日 バレンタイン企画（生チョコ作り）（自治会主催）

参加人数 学生:16名（自治会:8名）、教員:4名、計:20名

2月18日 3年生と4年生の交流会（zoom）（運営 3年生 国家試験委員7名）

参加人数 2・3年生延べ42名 4年生9名、計:延べ51名

3月15日 卒業生へのメッセージ集の作成、配布、掲示（自治会主催）

3. 被災した学生を始め、学修や生活上の悩みの把握とその支援について

大学生活に対する在学生アンケートを12月のクラスアワー時に自己点検評価委員会と合同で実施し、84.9%の回答率が得られた。結果から、昨年度と大きな変化はないが、睡眠不足、電子機器の学習以外での使用時間の長さ、アルバイト時間の多さ、課題の多さ、予習・復習・自己学習時間がとれていない、大学の相談先の活用が少ないことが明らかになった。課題については前年度、教員に周知したこともあり、睡眠不足の原因としては、やや減少していた。新年度ガイダンスにて学生にアンケート結果をフィードバックし、自己の生活を振り返ってもらっている。また、進路や将来について悩んでいる学生が3割以上いるという現状から、引き続き、担任を始め、相談窓口の周知を徹底していく。

1月に開催された大学との座談会にて、学生の要望を把握し、要望に応えられるところ（パソコン関連、施設の環境）については回答し、授業で改善してほしいところ（質問しやすい授業方法等）については教員に周知した。大学側からも、大学祭やサークル活動等後援会費を活用して、より活発に活動してほしいことを伝えた。

能登半島地震において、被災した学生については助成できる支援についての情報を随時提供し、希望した学生に対しては面談し、状況の聞き取りを行い、フォローを実施した。9月に発生した奥能登の豪雨災害においても、被災状況を把握し、支援の必要性について確認したが、申し出はなかった。現在、全壊・半壊の被害を受けた学生においては、来年度の授業料の免除は続いているが、引き続き、状況の把握、精神面のフォローを継続していく。

<次年度以降に向けた課題・発展>

1. 新担任制度2年目において、前年度の改善点をふまえて実施後、再び、学生・各担任の意見を聴取し、3年目に向けてこのまま継続できるか検討する。
2. 自治会・大学祭実行委員の活動が教員の働きかけがかなり必要な状況に陥っているため、計画的に実施できるようなシステムを学生とともに考える必要がある。
3. 学修や生活上の悩みの把握はアンケートと懇談会を継続して実施していくとともに、学生への相談窓口情報提供を徹底し、相談しやすい環境の整備に努めていく。

4.4.1.2.1 学生相談部会

部会長：米田 昌代 教授

部会員：河端教務学生課長、小酒養護教諭

心理カウンセラー：橋本カウンセラー

活動内容：

<前年度までの課題>

1. 今年度から相談部会メンバーは縮小され、適宜問題のある学生に関連した担任、科目担当教員等で招集する形式に変更することとなったため、この体制で問題となる学生の早期発見、対応に支障がないかみていく。
2. 「学生のメンタルヘルス危機対応指針」の効果的運用について継続的に取り組む。
3. 障がいがある学生への修学支援の効果的運用と課題の抽出（使用する学生がいた場合）

<今年度の目標・年度計画>

1. 新相談体制（相談部会の縮小、保健室機能の強化、担任・科目責任者との連携）がスムーズに行くように運用し、改善点がないか検討する。
2. 「学生のメンタルヘルス危機対応指針」を含め、保健室を中心としたメンタルヘルスへの対応がスムーズに進むように、保健室養護教諭・スクールカウンセラーと情報を共有し、対策を話し合う。
3. （対象者がいた場合）障がいがある学生への修学支援の効果的運用と課題の抽出の実施

<今年度の活動実績・評価>

1. 新相談体制について

相談部会を縮小し、定期的会議をなくして、問題があるときに関係者を招集する形をとったが、適宜、関係者で情報共有をはかっており、特に問題はみられなかったため、この体制を継続していく。

カウンセリング「ほっとルーム」は、2回/月（第2、4木曜日：13:00～17:00）の定期に開室した。カウンセリングの年間のべ相談件数27件（1年1件、2年15件、3年5件、4年0件、大学院生6件）であった。今年度、オンライン面談の対象者はなかった。また、カウンセラーへの保健室担当者および教員の年間コンサルテーションは29件であった。

2. 保健室を中心としたメンタルヘルスへの対応

新年度ガイダンスの全学集会において、メンタルヘルスセルフケアについての講演を企画し、学生のセルフケアを促すとともに、人に相談する大切さを伝えた。また、養護教諭による「ほっとルーム便り」を年間2回発行し、カウンセリングの周知、学年暦に応じた心身への健康維持に必要な情報等の発信を行った。

相談を受けた学生には、本人が情報共有を許可した教職員間（学生部長、担当教員、学年担任、学生相談部員、保健室担当者、カウンセラー、進路アドバイザー等）で連携し、継続的にサポートした。今年度は悩みの質に関わらず、早期にスクールカウンセラーにつなぐことを心がけた。

今年度も1件、「学生のメンタルヘルス危機対応指針」に基づいて、チームが結成され、迅速に関係者と対策を講ずることができた。現在のところ教員が一人で抱え込むことはなく、保健室養護教諭・スクールカウンセラーと共同し、チームで関わるということに関しては、スムーズな運用ができていていると考える。保健室を中心とした体制とすると、保健室に支援を求めない学生がいるため、そのような学生は保健室・スクールカウンセラー・学部長等と相談しながら学生部長が根気よく個別に関わる体制で進めた。連絡がつきにくくなる学生に対しては保護者へ連絡することの承諾書を活用し、迅速に関わることができた。今後も保健室を中心としながらも、保健室が直接かかわるのが難しいケースに関しては、学生部長が中心となって関わって

いく。チーム結成後や学生部長預かりのケースにおいて、チーム以外の教員への情報伝達が迅速でなかった点もあるため、支障がない程度に当該学生と関わる他の教員との情報共有を図っていく。

3. 障がいがある学生への修学支援について

障がい支援が実施されるまでのプロセスのフローチャート案と修学支援申請書・決定書を活用する学生はいなかった。

<次年度以降に向けた課題・発展>

1. 「学生のメンタルヘルス危機対応指針」を含め、メンタルヘルスへの対応がスムーズに進むように、保健室養護教諭・スクールカウンセラー、関連教職員と情報を共有し、対策について、継続的に取り組む。
2. 障がいがある学生への修学支援の効果的運用と課題の抽出（継続課題 使用する学生がいた場合）

4.4.1.2.2 進路支援専門部会委員会

部会長：米田 昌代 教授

委員：今井（美）教授、米澤教授、戸部教授、松本（智）准教授、寺井准教授、大橋講師、河合助教、牛村助教

活動内容：

<前年度までの課題>

- 1) 3年後期からの就職支援を継続し、県外就職者だけでなく県内施設の魅力も周知するため座談会などを活用する。
- 2) 卒業後の進路に対する意識を低学年から持つよう促すため、キャリア支援を継続する。
- 3) 国家試験対策として希望者を含む強化学習を行うことを継続する。

<今年度の目標・年度計画>

- 1) 希望する進学・就職先の受験・内定ができるよう支援する。
- 2) 国家試験で学生の力が最大限発揮できるよう学習支援や学習環境を調整する。
- 3) 卒業後の進路に対する意識付けを早期から行うため、全学年にキャリア支援を行う。

<今年度の活動実績・評価>

1) 進路支援

- ①4年生への進路支援：8名のアドバイザー教員による担当制で行った。
- ②県外就職希望者への支援：3年後期から進路支援アドバイザーによる支援を行った。
- ③成果：4年生83名中81名の就職・進学先が決定した。

2) 国家試験対策

- ①模擬試験の年間計画立案と実施：4年生が主体となって行った。冬季は、感染対策や大雪に備え、オンライン形式とした。
- ②模試試験結果をもとにした個別支援を進路アドバイザーが行った。
- ③模試試験の成績不良者と希望者20名程度を対象に、強化学習（学習方法の支援、必修問

題、一般・状況設定問題の対策)を提供した。

④国家試験1週間前に、教員が作成した必修問題を用いて試験を実施した。

⑤4年生を対象に、看護師対策補習3回、保健師対策補習2回を行った。

⑥成果：看護師国家試験合格率98.8%、保健師国家試験合格率93.9%であった。

3) 全学年へのキャリア支援

①進路支援セミナー

対面セミナー：今年度の開催は開学記念日ではなく、6月27日に「県内の施設で活躍する先輩の話聞き自分の進路に活かそう！」をテーマに開催した。卒業生5人を講師に招いた。学生196名（1年生55名、2年生60名、3年生80名、4年生1名）が参加した。アンケートの結果、満足度は95%以上で、助産師への進学、看護師・保健師の仕事についての情報、自分が目指している進路先の情報が得られ、今後の進路を決める際の参考にすることができた。

オンライン座談会：3年生の県外就職希望者から県外に就職した学生の話が聞きたいと希望があり、9月25日に県外就職希望の3年生と卒業生の座談会を担任とさくら会が担当し、開催した。卒業生3名を講師に招いた。3年生10名が参加した。

次年度は、6月の進路支援セミナー時に県外就職者も組み込むことを考えていく。

②マイナビ看護学生による講座

【就職支援ガイダンス】

6月27日（木）14時40分～16時10分 講堂 参加者：3年生80名、教員8名

2月20日（木）11時～12時 大講義室 参加者：3年生80名、教員10名

前年度は初回の就職支援ガイダンスを8月に行っていたが、夏季休暇期間に多くの施設で開催されるインターンシップや就職説明会に参加することを推奨するために、今年度は6月の開催とした。全国規模で学生の就職支援をしている外部業者（マイナビ）にガイダンスを依頼することで、県内だけでなく全国の就職活動の動向を学生に伝えられた。

【キャリアデザイン講座】

2月5日（水）13時00分～14時00分 参加者：1年生76名、教員7名

昨年度から導入している低学年から自分のキャリアについて意識してもらうためのキャリアデザイン講座を実施した。自己分析の重要性や低学年からキャリア意識向上の必要性を実感していることがアンケート結果から得られた。

③3年生を対象に低学年模試を実施した。

第1回7月8日（月）13時00分～16時10分 中講義室3 参加者：3年生84名

第2回2月14日（金）9時00分～17時00分 中講義室3 参加者：3年生84名

<次年度以降に向けた課題・発展>

- 1) 増加する県外就職希望者への対応強化：県外就職試験の期日が早まっているため、3年後期からの就職支援を行う必要がある。そのため、次年度の進路アドバイザー（新4年次担任）に1月時点で進路支援・アドバイザーの役割の説明を実施し、県外対応担当者を決定する。
- 2) 県内施設、ストレートマスターの魅力も周知できるように座談会などを活用する。
- 3) 卒業後の進路に対して意識を促進するために、低学年からのキャリア支援を継続する。

4) 国家試験対策として希望者も含む強化学習を継続する。

4.4.1.3 研究推進委員会

委員長：峰松 健夫 教授

委員：小林教授、岩佐教授、亀田教授、米澤教授、大貝教授、松本勝教授

事務局：地藤係主査

活動内容：

<前年度までの課題>

1. 科研費等外部研究費獲得の拡大
2. 研究報告会・交流会等の対面開催

<今年度の目標・改善点・年度計画>

1. 研究ウェルカムセッション

昼休み時間帯を利用して、全教員参加の下、本年度着任の教員（講師以上）がこれまでの研究活動を紹介する。

2. 学内研究助成成果報告会

昨年度末で終了した学内研究助成による研究成果を対面形式のポスターセッションで発表する。

3. 石川県立大学・県立看護大学合同研究発表会

石川県立大学および本学の教員の研究発表、ならびに両大学による共同研究の正解発表を行う。

4. 科研費申請支援

科研費に申請する教員のうち希望者を対象に、申請課題のトピックに関するディスカッション、および申請書のレビューを行う。

5. 研究助成金申請支援

申請締切の近い民間団体等の研究助成金情報の一覧を作成し、定期的に配信する。また、希望者には科研費申請支援と同様の支援を行う。

<今年度の活動実績・評価>

1. 研究ウェルカムセッション

日時：令和6年6月4～5日 12:15～12:55

形式：Zoomによるライブ配信

演題：北村言教授（老年看護学）：褥瘡管理の沿革支援、木田亮平准教授（基礎看護学）：組織心理学と地理空間科学、石井和美講師（基礎看護学）：清拭技術のエビデンス、幅大二郎共同研究講座講師（ウェルビーイング看護学）：糖尿病足潰瘍の治療を促進するインテリジェントバイブレーションドレッシングの開発

2. 学内研究助成成果報告会

日時：令和6年8月2日 13:00～14:00

形式：対面形式によるポスター発表

演題：垣花渉教授（人間科学）：健康と観光を融合したヘルスプロモーションの推進、松本

勝共同研究講座教授（ウェルビーイング看護学）：訪問看護におけるAI/ARを活用した排泄ケア・褥瘡ケア・スキンケア・点滴ケア技術自己学習支援システムの効果検証、松本智里准教授（成人看護学）：コロナ禍でのがん患者の求める支援、大西陽子講師（成人看護学）：従来のモデル人形による演習とVR教材を活用した演習による教育効果の比較―術後観察に焦点を当てて―、河井美佳助教（母性看護学）：母性看護学実習の分娩期の学びに360度カメラとVRゴーグルを導入したことによる効果、今方裕子講師（成人看護学）：臨床で行うリンパ浮腫ケアセミナーへのエコー導入におけるセミナー効果、瀬戸清華助教（基礎看護学）：かほく市を舞台にしたフィールドワーク型探求学習プログラムの作成、岩佐和夫（健康科学）：横紋筋肉腫細胞（TE671）の分化過程における補体制御因子機能の解明、松本智里准教授（成人看護学）：看護師へのアピランスケアの周知プログラムの構築―がん看護に従事する看護師が抱くアピランスケアの目的・意義の認識の実態調査―、日高未希恵講師（在宅看護学）：珠洲市に暮らす高齢者の日常的な身体活動や社会的活動と身体機能との関連、宮本菜々恵助手（老年看護学）：老年看護学教育へのDX導入に向けた認知症教育プログラムの開発―認知症VR導入による教育効果の検証―、松田幸久准教授（人間科学）：選好判断がもたらす快感情と安静状態の定量化

3. 石川県立大学・県立看護大学合同研究発表会

日時：令和6年9月13日 14:00～17:00（合同FD研修会に続けて開催）

形式：対面形式による口頭発表

演題：松田幸久（人間科学）：人の安静状態を定義する～なにもしていない時の心的活動～、宮口和義教授（石川県立大学）：能登半島地震避難所生活者の体力について―高齢者の足部機能に注目して―、今井美和教授（健康科学）：若者のHPV関連疾患を予防するシステムづくり、小柳喬准教授（石川県立大学）：地震にともなう食品産業被害への支援～大学の立場でできること～、峰松健夫教授（成人看護学）：スキンプロッキングを用いた軽度認知障害の同定

4. 科研費申請支援

- A. トピックディスカッション：15名のディスカッションを実施
- B. 申請書レビュー：レビューアー3名で2件の申請書をレビュー
- C. 科研費申請実績：申請課題数29、採択課題数15、採択率51.7%

5. 研究助成金申請支援

令和5年5月以降、毎年研究助成金情報を全教員に発信した。

<次年度以降に向けた課題・発展>

科研費等の申請支援においては、特に准教授の申請および挑戦的研究への申請の支援に重点を置き、さらなる採択率向上に努める。

4.4.1.3.1 学内研究助成専門部会

委員長：垣花 涉 教授

委員：今井（秀）教授、桜井教授

事務局：地藤係主査

活動内容：

本部会は、学内研究助成全般のあり方の検討、学内研究助成に関する申請書類の審査、報告書の評価、予算案の提案を主たる活動とする。

学内研究助成に関する申請書類の審査を1回行った。令和6年4月に令和6年度学内研究助成(研究プロジェクト)の募集を行った。採択件数は10であった(申請10件)。

令和6年5月に1件の令和6年度学内研究助成(研究成果公表)の申請があり、1件承認された。

令和6年4月に1件の令和6年度学内研究助成(学会開催助成)の申請があり、1件承認された。

4.4.1.4 石川看護雑誌編集委員会

委員長：今井 美和 教授

委員：美濃教授、中道准教授、幅講師

委員補助：瀬戸助教、山路助教

事務局：(一)

活動内容：

<前年度までの課題>

本学および附属施設等で実施している人材育成、地域貢献等の事業・活動に関する投稿数の増加を図る。

<今年度の目標・改善点・年度計画>

2023年8月4日に改訂された発行規定、投稿規定に基づき、本学の事業・活動を効果的にアピールする雑誌を発刊する。

<今年度の活動実績・評価>

第22巻では、以下の計9編の原著論文・資料が掲載された：

- ・原著論文1編(修士論文を基にしたもの)
- ・資料8編(内訳：サバティカル研修、地域貢献、被災地支援、教育実践に関する報告、国際学会での知見)

<次年度以降に向けた課題・発展>

雑誌の学術的価値の向上を目指すとともに、人材育成および地域貢献への寄与を強化するため、投稿数の確保に継続的に取り組む。

4.4.1.5 情報システム委員会(含む情報セキュリティ)

委員長：峰松 健夫 教授

委員：市丸准教授、佐能講師

事務局：外主事

活動内容：

<今年度の目標・年度計画>

石川県公立大学法人情報セキュリティポリシーの適切な運用を行うとともに、職員を対象とした情報セキュリティ研修や学生を対象とした啓発活動を行う。また、情報資産管理システムによるソフトウェア・ライセンス及び情報機器の適正な管理に努める。

必要に応じてWiFiアクセスポイントの点検・整備・修繕を実施する。Moodleの運営、管理をサポートする。

<今年度の活動実績・評価>

令和6年4月2-3日、新入生の情報システムガイダンスの実施に協力した。

市丸、佐能は本学LMSであるMoodleの看護大マネージャーとしても管理運営に携わった。また、佐能を中心に学生のMicrosoftアカウントの移行やPCトラブル対応などを行った。

令和6年4月22日、情報システム定例会に参加し、情報システムの管理・更新情報を共有した。

学生の履修状況や成績などの情報を管理し、教員と学生間のコミュニケーションツールとして使用しているキャンパスメイトのバージョンアップに伴い、アカウント移行作業等を行った。

<次年度以降に向けた課題・発展>

学内の情報機器、システムの適切な運用・更新に努める。

4.4.1.6 広報委員会

委員長：平居 貴生 教授

委員：真田学長、石川教授（研究科長）、米田教授（学生部長）、

小林教授（附属図書館長）、塚田教授（附属地域ケア総合センター長）、

紺家教授（附属看護キャリア支援センター長）、垣花教授、中道准教授、

寺井准教授、松本（智）准教授、大江講師、石井（和）講師

中村事務局長、小幡アドミッションアドバイザー

委員補助：千田助教、近藤助教

事務局：久保石専門員

活動内容：

<前年度までの課題>

- 1) 大学ホームページの改修
- 2) SNSを利用した広報の拡充

<今年度の目標・改善点・年度計画>

- 1) 教育、研究、地域貢献への取り組みをホームページやSNS等により、積極的に情報発信をする。
- 2) 大学ホームページの改修の効果について検証する。

<今年度の活動実績・評価>

1. 夏のオープンキャンパス

日時：7月13日（土）

参加者：302名（保護者含む）

参加者数は過去最高水準であった。大学説明会（学長挨拶、学部長による入試制度の説明、学生によるキャンパスライフの紹介）、模擬講義に加え、研究室体験コーナーを設けた。

2. 秋のオープンキャンパス

日時：10月12日（土）

参加者：155名（保護者含む）

大学説明会、キャンパスライフの紹介、模擬講義などを企画した。高大連携委員会と連携して6つの研究ミニイベントを企画した。

3. キャンパスネットIPNU（大学新聞）

1) 第45巻（2024年5月号の編集・発行）

2) 第46巻（2024年11月号の編集・発行）

4. 大学案内、大学院案内の作製

2025大学案内の企画立案・編集を行った。高校訪問、オープンキャンパス、大学院進学説明会などで配布した。

5. ホームページの改修

ホームページのデザインを大幅に変更した。特にスマートフォンからホームページを見やすくするように改修した。

6. 大学コンソーシアム石川：情報発信部会

1) 石川の大学ガイドブック「イシカレ」編集に協力

2) 出張オープンキャンパス事業への協力

3) 「学都石川」高校教員向けキャンパスツアー受け入れ

日時：10月3日（木）

入試委員会と協力して、学内ツアーと説明会を実施した。

7. 教員紹介・研究シーズ集の編集

本学教員の研究分野を分かりやすくまとめた「研究シーズ集」を編纂した。

8. その他の広報活動

1) 大学PRポスターの作製

2) 大学PR動画の作製（オープンキャンパスで放映）

3) 大学公式インスタグラム（フォロワー数は1年間で約2倍）

4) 学生広報委員会の活動をサポート

<次年度に向けた課題・発展>

オープンキャンパスで実施したアンケート結果より、「オープンキャンパスを知ったきっかけはホームページから」と回答した参加者はホームページ改修前と比べて上昇した（2022年秋60.6%→2024年秋70.1%）。また本学学生に対してホームページに関するアンケートを実施した結果、スマートフォンからの見やすさやデザインなどについて良好な評価を得た。また受験時に知りたい情報に「入試情報」、「学生の生活」があることが明らかとなるなど、今後もホームページの改善の余地はあるものの取り組んできた改修に一定の成果が見られた。よって次年度以降は学部・大学院の入学希望者が必要な情報が適切に発信できているかについて検討し、大学ホームページの改修、SNSを利用した情報発信をさらに強化する必要がある。

4.4.1.7 入学試験委員会

委員長：真田 弘美 教授（学長）

委員：紺家教授（副委員長）、川島教授、石川教授、今井（秀）教授、亀田教授、小林教授、平居教授、峰松教授、中村事務局長

事務局：河端教務学生課長、藏谷主任主事、小幡アドミッションアドバイザー

活動内容：

<前年度までの課題>

- 1 学部と大学院共に、受験者増に向けた入試改革と広報活動を図る。
- 2 今年度より実施した学校推薦型選抜の1校当たりの推薦者数の増加の評価をする。
- 3 その他の入試委員会が担当する役割を確実に行う。

<今年度の目標・改善点・年度計画>

- 1 学部と大学院共に、受験者増に向けた広報活動を図る。
- 2 その他の入試委員会が担当する役割を確実に行う。

<今年度の活動実績・評価>

- 1 学部と大学院共に、受験者増に向けた広報活動

1) 学部

- ・アドミッションアドバイザーによる高校訪問に加え、高校での進路ガイダンスや合同進学説明会に入学試験委員を派遣した。
- ・大学説明会及び意見交換会を7月30日に実施し、本学の特徴や入試体制の他に、新たに学生支援体制についても説明内容に加え、本学の教育のDX化を見学できるコースを設けた。参加者は石川県と富山県の高校教諭33名で、前年より4名増となった。
- ・石川コンソーシアムによる「学都石川」教員キャンパスツアー事業を10月3日に実施し、本学の特徴や入試体制について説明し、本学の教育のDX化を見学できるコースを設けた。参加者は、県外の高校教諭22名で、前年より15名増となった。
- ・秋のオープンキャンパスにて高校2年生以下を対象に令和8年度入学試験の変更について説明会を実施した。
- ・前年と比較して志願倍率は、学校推薦型選抜では0.4ポイント上昇、前期日程では0.3ポイント下降、後期日程では4.3ポイント上昇した。総志願者数は319人で、前年より44人増加した。

2) 大学院

- ・博士前期課程において学内選抜と学外選抜を一本化としたが、志願者数は研究コースでは11名、助産コースでは15人となり、総数は前年より13人増加した。
- ・博士後期課程の志願者数は、10名と前年より4人増加した。
- ・大学院進学について、入学時やオープンキャンパスの高校生らに対しても広報を行った。

- 2 その他の入試委員会が担当する役割を確実に行う。

- ・本年度の学部入試、大学院入試また大学入試共通テストにおいて、重大なトラブルはなかった。

- ・受験に際し配慮を希望する志願者の対応を行った。
- ・前年度作成した入試における地震対策マニュアルを改訂した。

<次年度以降に向けた課題・発展>

- 1) 看護学部・大学院志願者増に向けた本学の独自性の創出
- 2) 令和8年度入学者選抜（一般選抜）における利用教科・科目及び個別学力検査等の変更による受験者の変化の評価。
- 3) 大学院における留学生入学の検討。
- 4) その他の入試委員会が担当する役割の確実な実施。

4.4.1.7.1 入学試験実施専門部会

部会長：非公開

部会員：非公開

活動内容：

1. 看護学部入学試験の準備・実施体制およびそれに付随する業務
2. 研究科入学試験の準備・実施体制およびそれに付随する業務
3. 大学入学共通テストの会場準備・実施体制およびそれに付随する業務
4. 看護キャリア支援センターが実施する感染管理認定看護師教育課程入学試験の実施支援

4.4.1.8 自己点検・評価委員会

委員長：真田 弘美 教授（学長）

委員：川島教授（副委員長、学部長）、石川教授（研究科長）、米田教授（学生部長）、
小林教授（図書館長、DX推進委員長）、美濃教授（教務委員長）、
桜井教授（年報編集部会長）、紺家教授（学長補佐、看護キャリア支援センター長）、
塚田教授（地域ケア総合センター長）、臺教授（教員評価部会長）、
松田准教授（IR推進部会長）、北村教授（FD委員長）、
岩佐教授（学長補佐、委員長補佐指名）、中村事務局長

委員長補助：額助教、山路助教

事務局：外主事

委員会開催頻度：5月、7月、11月、1月、3月 計5回開催

活動内容：

<今年度の目標・改善点・年度計画>

- 1) 公立大学評価機構における大学評価（2026年）に向けた本学における取り組みの評価と報告書の作成準備
- 2) 学生委員会、FD委員会、PROG調査の結果評価と学習成果改善に向けた方策を検討
- 3) 単年度教員自己評価の施行と評価
- 4) 教員の研究・教育・社会貢献の報告会開催
- 5) 本学のIR推進部会の活動
 - ・入試形態と成績の関連についてのデータ分析と結果報告
 - ・IRや自己点検評価委員会外からの分析依頼への対応の規則決め

・ IRデータの使用・借用依頼などに対する規則決めと受付体制の構築

6) 年報における個人業績の明確化と大学自己評価としての活用

7) 第3期中期計画における令和6年度計画の実施

<今年度の活動実績・評価>

1) 公立大学評価機構における大学評価（2026年）に向けた本学における取り組みの評価と報告書の作成準備

公立大学評価機構における大学評価に向けた準備委員におお顔合わせを2025年3月6日に行った。ガントチャート、点検評価ポートフォリアの担当者について説明をし、点検評価ポートフォリアの内容の確認と令和1年以降の各分野の資料の確認を指示した。本学での特徴ある取り組みについて議論を行い、DX推進、産学連携、災害実践看護学、地域ケア、キャリア支援センター、フィールド実習が候補として挙げられた。

2) 学生委員会、FD委員会、PROG調査の結果評価と学習成果改善に向けた方策を検討

教育の内部質保証の確保と評価のため、学生委員会・自己評価委員会が主導して在学学生および卒業生アンケート調査を行った。FD委員会は授業アンケート調査を実施し、教授会で内容を開示し各教員へのフィードバックを行った。外部機関によるジェネリックスキルのアセスメントテスト（PROG調査）を本年度も施行した。

3) 単年度教員自己評価の実施と自己評価報告会の実施

教員の評価を数値化し目標設定を明確にするために、自己評価にエフォート率、KGI・KPIを取り入れた単年度教員自己評価を実施した。自己評価の根拠および2024年度の目標設定のためのメンターとの面接、学長評価と面談を実施した。さらに2024年度の研究業績を主とした研究・教育・社会貢献報告会を2025年3月3, 5, 14日に行った。

4) 本学のIR推進部会の活動

IR推進部会におけるデータ分析のため、IR分析室を設置した。学生の同意書を確認を行った後、令和2年度入学性（令和5年度卒業生）のデータを使用し、入試形態と成績の関連についての分析を開始し、解析結果の途中経過の報告とIRデータ分析におけるデータクリーニングや解析解釈の問題点を委員会で共有した。

5) 年報における個人業績の明確化と大学自己評価としての活用

2023年度年報より記載方法の変更を行った。この記載方法に従い、2024年度も講座ごとに業績をまとめるとともに個人業績の明確化を図った。年報の原稿のとりまとめも遅滞なく施行した。

6) 第3期中期計画における令和6年度計画の実施

【3つのポリシーの検証】

① 卒業生へのアンケートにより、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを検証する。

② 時代が求める看護職者の人物像及び入学時の成績評価や情報リテラシー等を調査し、アドミッション・ポリシーを検証する。

- ・ 12月に在学学生に対し学生生活に関するアンケート調査を実施した。アンケート調査の結果、看護学に必要な基礎知識や倫理観の学修達成度並びに講義や実習教育に関する関心度は高く、学生の自己効力感が高いことが確認できたことから、アドミッション・ポリ

シーを継続することとした。

- ・ 2月に卒業生に対しアンケートを実施した。卒業生を対象としたアンケート調査の結果、カリキュラムポリシーに沿った教育がなされ、ディプロマ・ポリシーが求める看護職としての資質や能力を備えて卒業していることが確認できた。

【ディプロマ・ポリシーの在り方の検証】

- ① 卒業生へのアンケート調査等により、ディプロマ・ポリシーに定めた学修成果を把握、評価し、教育内容・方法を必要に応じて見直す。
 - ・ 2月に卒業生に対し行うアンケートを実施した。卒業生を対象としたディプロマ・ポリシーの達成度に関するアンケート調査の結果、卒業生に対する学修成果を確認し、教育内容・方法を継続することとした。
 - ・ 自分の学んでいる内容がディプロマ・ポリシーのどこに該当するのかを明確化するため、各科目のシラバスに該当するディプロマ・ポリシーをチェックする欄を取り入れた。
 - ・ 3月27日に石川県内の医療機関の看護部、看護協会、高等学校校長会の委員等を交えた懇談会を開催し、本学および卒業生に求められる資質に関する聞き取りを実施した。

【時代に即した大学院ポリシーの見直し】

- ① 修了生へのアンケート調査等により、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを検証する。
- ② 大学院の教育理念と時代に即した看護職者、教育・研究者の育成を踏まえ、アドミッション・ポリシーを検証する。
 - ・ 大学院教務委員会により大学院の教育理念と時代に即した看護職者、教育・研究者の育成を踏まえたディプロマ・ポリシーを見直しが行われた。これに伴い、カリキュラム・ポリシーについても検討を行い、新たなカリキュラム・ポリシーを作成した。
 - ・ 大学院教務委員会により大学院の教育理念と時代に即した看護職者、教育・研究者の育成を踏まえたディプロマ・ポリシーを見直した。これに伴い、アドミッション・ポリシーについても検討を行い、新たなアドミッション・ポリシーを作成した。

【ディプロマ・ポリシーのあり方の検証】

- ① 修了生へのアンケート調査等により、学修成果を把握・評価し、教育内容・方法を必要に応じて見直す。
 - ・ 修了生へのアンケートは2025年2月に行った。カリキュラムや研究指導体制に対し満足するとする意見が9割あり、大学院における教育内容・方法を継続することとした。
 - ・ 論文の発表先の調査をおこない、論文の公開をしていくことを確認した。

【アンケートを活用した評価体制の充実化】

- ① 学生への授業評価アンケート、卒業生・修了生・就職先等に対するアンケートの分析結果を教員にフィードバックし、教育の質の向上につなげる。
 - ・ 学生に授業アンケート調査を実施した。授業への満足度は各教科とも8～9割と高かった。一方、一部の教科では「発言の機会が少ない」との意見があったことから該当教員へ周知した。
 - ・ 卒業生・修了生に対するアンケート調査を行った。その結果、在学中の教育・指導に対する満足度が高いことが示された。現在の教育・指導は継続するとともに、さらなる教育の質の向上のため内容等を必要に応じて見直すこととした。

- ・ 学生への他のアンケート調査からは、各教科の課題が多く、睡眠時間が削られている実態が明らかとなった。アンケートの結果の一部は学生にもフィードバックすることとした。

【教員評価制度の活用、適材適所の人事】

- ① 単年での教員自己評価を試行し、教員の職務に対する意識の改善、業績の向上について検証する。
 - ・ R6年度の教員自己評価内容につき准教授以下の教員については講座責任者が面談を行い、その後、教授を含めた教員に対して学長が面談を実施した。
 - ・ R6年度の教員自己評価に基づき、KGIおよびKPIを取り入れの自己目標を設定することで、自己の目標が明確となり、研究・教育・社会貢献における取組みが活性化した。
 - ・ 教員自己評価に対するアンケート調査を行い、教員自己評価の取組みの改善を図った。

【教員へのインセンティブ制度】

- ① インセンティブを与える基準について検討する。
 - ・ 年度内業績および業績目標の達成度が著しい教員に対し学長から表彰をおこなうこととした。インセンティブを与える基準について引き続き検討することとした。

【各評価結果の反映、運営の改善】

- ① 自己点検評価、認証評価機関の大学評価、石川県公立大学法人評価委員会の法人評価を踏まえ、教育研究環境や施設の管理等について、必要に応じて見直す。
 - ・ 自己点検評価、認証評価機関の大学評価、石川県公立大学法人評価委員会の法人評価の向上を図るため、本学の特徴ある教育研究（DX推進、産学連携講座、災害実践看護学設置）の推進や施設（スキルスラボなど）の設置について具体化されたことを確認した。
 - ・ 教員の資質の担保を維持するため、教授・准教授の採用基準を明確にした。

<次年度以降に向けた課題・発展>

- 1) 公立大学評価機構における大学評価（2026年）に向けた本学における取組みの評価と報告書の作成準備
- 2) 学生委員会、FD委員会、PROG調査の結果評価と学習成果改善に向けた方策を検討
- 3) 単年度教員自己評価の施行と評価
- 4) 教員の研究・教育・社会貢献の報告会開催
- 5) 本学のIR推進部会の活動促進
- 6) 年報における個人業績の明確化と大学自己評価としての活用
- 7) 第3期中期計画における令和7年度計画の実施

4.4.1.8.1 教員評価部会

部会長：臺 美佐子 教授

部会員：寺井准教授

活動内容：

本学における教員自己評価は、各教員が教育・研究・社会貢献および管理・運営、教育・研

究支援の活動に関する目標を設定し、所定の様式に基づいて自己評価を行うものである。その後、小講座教授や学長からのフィードバックを受ける仕組みとなっており、教員の主体的な振り返りと成長を支援する制度として位置づけられている。

教員自己評価の目的は、各教員が自身の目標を明確に設定し、年度末における目標達成度の評価を通して、教育・研究・社会貢献等の各活動領域における質の向上を図ることにある。さらに、本学の教員評価規定においても、「教員は評価結果を自己の教員活動に有効に活用し、本学は結果を総合的に判断して大学全体の機能の向上に有効に活用する」と明記されており、自己評価はその具体的な取り組みの一環として実施されている。

また、大学機能評価の観点からも、教員自己評価は、大学全体の教育研究機能の向上を目的とした重要な要素である。本学の中期目標においても、「自己点検・評価の定期的な実施」と「教育研究活動および業務運営の改善への活用」が掲げられており、教員自己評価はこれらの目標達成に資する施策の一つである。

この背景のもと、教員評価部会では、全教員を対象として、規定の書式に基づいた目標の設定と評価、所属長との面談やフィードバックが得られる機会を提供している。特に、これまでの試行的運用から、2024年度からの本運用、運用に関する全教員対象のアンケート調査、アンケート結果に基づく改良を図った。

<前年度までの課題と対応>

教員評価部会では、より有効かつ効率的な教員評価の運用を目指し、教員評価方法の検討と試行的な運用を進めてきた。2024年度からの本試行を経て教員自己評価導入への理解は図れ、周知がなされてきた一方で、教員評価方法について改良の余地があると考えられた。

<今年度の目標・改善点・年度計画>

令和6年度は、エフォート率を活用した単年式の教員自己評価の運用により、年度初めの目標認証および年度末の評価について、自己評価・フィードバックの機会を提供した。しかし、「資料が複数あり煩雑である」「いつ何をどこに出せば良いか分かりにくい」といった声が聞かれており、今後の教員自己評価方法の改良に向けて、改善点を具体化する必要があると考えられた。そこで、全教員を対象として教員自己評価に関するアンケート調査を実施した。

<今年度の活動実績・評価>

令和6年度の目標は、エフォート率を活用した単年式の教員自己評価の改良を図ることであり、全教員を対象とした教員自己評価に関するアンケート調査を実施した。(回答率64.3%)

主な議題として、評価方法の理解不足、資料作成・提出の煩雑さ、評価プロセスの不明瞭さ、公平性および相談窓口に対する心理的安全性の不十分さが挙げられた。

これに対して、評価制度説明会の開催、評価用資料の量の7分の1への縮小、個人情報機密保持の強化と体制の整備を図った。これらの取組の成果として、資料作成・提出に関する問い合わせが減少し、期日内の提出が100%に至った。

<次年度以降に向けた課題・発展>

教員自己評価の運用は継続し、改良後の調査等を図りながら、さらなる改良に努めていく。

また、教員自己評価の単年評価を実施中の段階であるが、今後の複数年評価やインテンシブについて、今後検討を行っていく。

4.4.1.8.2 年報編集部会

部会長：桜井 志保美 教授

部会員：曾山講師、今方講師（前期）

事務局：外主事

活動内容：

<前年度までの課題>

- ・各委員会の活動内容の書式が統一された年報を発刊する。

<今年度の目標・改善点・年度計画>

- ・年報第24巻（令和5年度）の発刊、年報第25巻（令和6年度）の原稿依頼

<今年度の活動実績・評価>

- ・年報第24巻（令和5年度）の発刊。各委員長および講座とりまとめ教員からデータ形式での提出を基本としたことで校正作業が効率化された。
- ・年報第25巻（令和6年度）の発刊にむけた原稿依頼では、業績および委員会活動の原稿が統一されるよう留意事項を見直し、周知した。

<次年度以降に向けた課題・発展>

- ・各委員会の活動内容の書式が統一された年報26巻が発刊される。このほか必要に応じて、年報の内容、原稿依頼の方法等を検討する。

4.4.1.8.3 IR推進部会

部会長：松田 幸久 准教授

部会員：今井（美）教授、市丸准教授、長谷川准教授、佐能講師

事務局：中村局長、河端教務学生課長

活動内容：本格的なIR（Institutional Research）活動を構築するための推進部会

<前年度までの課題>

2024年度では実データの分析とデータバンク化を実現するとともにデータセンターとしての機能を実装することを目的とする。具体的な課題については以下の通りである。

課題1：入試形態と成績の関連についてのデータ分析と結果報告

課題2：IRや自己点検評価委員会外からの分析依頼への対応の規則の策定

課題3：IRデータの使用・借用依頼などに対する規則決めと受付体制の構築

課題4：次年度以降、同意書を取るタイミングと実施者の規則化

<今年度の目標・改善点・年度計画>

今年度ではIR活動の安定的運用を最優先としてその活動を推進することとした。前年度までの課題を考慮し、今年度ではIRの分析用データの収集と整理、IR分析室の整備、IRの分析実施、

1サイクル後の振り返り、を行うことを目標としていた。

<今年度の活動実績・評価>

課題1について

R5年度の4年生（R2年度入学生と留年生）を対象として、入試タイミング別に群分けし、各群の授業別の成績を比較した。この分析はR5年度より取り掛かりのデータ分析として議題に上っていたものであり、R6年度にそれに着手できたことは重要である。

課題2、3について

これらについては本年度中で大きな進展はなかった。

課題4について

1年生の授業を担当している教員がIR推進部会にいるため、そのような教員がいる間は1年生の授業の初回時にIRのための説明と同意を取ることにした。

<次年度以降に向けた課題・発展>

課題1に着手できたことが大きな進展であった。R7年度内にR5年度の4年生のみならず、同意が取れているそのほかの4学年についてのデータも含めて解析を行うこととしたい。また、課題2と3について、関連する他委員会からの協働の要望も語られているためニーズが高い。本課題についてもR7年度内での整備を目指す。

4.4.1.9 FD委員会

委員長：北村 言 教授

委員：桜井教授、大西講師、田村講師

事務局：藏谷主任主事

活動内容：

<前年度までの課題>

1. 学部教育におけるDX化ならびにシミュレーション教育に関連した知識・技術の習得・向上を図る。
2. 授業評価の回収率を上昇させる。

<今年度の目標・改善点・年度計画>

1. 教育のDX化に向けたITリテラシー向上、シミュレーション教育の実施に向けた研修を実施する。
2. 授業評価の実施・回収を、授業が終了するタイミングに合わせて複数回促す。

<今年度の活動実績・評価>

1. FD研修の実施

- 1) ペーパーレス試験などITリテラシー向上のため、2024年7月24日にFD研修「ペーパーレス試験に向けての研修会」を開催し、当日14名の教員の参加があった。さらに、後日に動画視聴も可能とし、当日参加できなかった教員にも情報共有が図れるようにした。
- 2) シミュレーション教育の充実を図るため、先進的なDX教育を実施している福岡女学院大

学の教授を講師に、「シミュレーション教育」のFD研修をR6年8月30日にシミュレーション教育充実化WGと合同で実施し、44名の参加があった。

2. 授業評価

授業評価の平均回収率は、前期64.3%、後期69.0%と上昇した。後期には、回収率が10～20%台という著しく低い科目はなくなった。授業評価のスコアは、全科目の10項目の平均が4.77（5段階評価）と高い値であった。

<次年度以降に向けた課題・発展>

授業評価の回収率のさらなる上昇を図る。

4.4.1.10 ハラスメント委員会

委員長：真田 弘美 教授

委員：岩佐教授、米田教授、中村事務局長、（学長指名）川島教授、大貝教授

ハラスメント相談員：非公表

活動内容：

<前年度までの課題>

- ①2022年4月からのハラスメント防止措置の義務化についての学内への継続的な周知
- ②ハラスメントのないキャンパスの醸成
- ③委員会における性の多様性（ダイバーシティ）の啓発に関する取り組みの充実

<今年度の目標・年度計画>

- ①ハラスメント防止措置として学生・教職員への啓発と研修会の開催（FD委員会と共催）
- ②ハラスメントのないキャンパスの環境整備等を促進するための人員体制の整備
- ③ハラスメント事案が生じた場合の適切な対処
- ④性の多様性を鑑みた学内の啓発活動と環境整備

<今年度の活動実績・評価>

- ①-1) 新学期のガイダンスで学生と教職員にハラスメント防止措置の義務化と相談体制等について周知した。（継続）
- ①-2) 研修会の実施・参加
 - FD委員会と合同ハラスメント研修
 - ・実施方法：eラーニング（アカデミックハラスメントに関連する動画視聴）
 - ・期間：令和7年2月10日（月）～3月2日（日）の3週間
 - ・実績：教職員 75名 全対象受講完了
 - 外部研修への参加、
 - ・令和6年7月31日（水）石川県看護教育機関連絡協議会主催
 - ・テーマ：看護師等養成所におけるハラスメント防止
 - ・実績：参加者：3名（うち、2名はハラスメント委員会委員）
- ②年度開始時と途中で新たなハラスメント委員を2名選出した。委員長指名で川島教授（開始時）、大貝教授（年度途中）を任命した。

③ハラスメント（疑い）として委員長に2件の事案の相談があったが、提訴者から丁寧に聞き取り、環境委整備等により問題の解消が図られ、ハラスメント案件として検討の俎上には載せる必要がないことを確認した。

④性の多様性を鑑みた学内の環境整備に向けて、学内の障がい者対応のトイレを多目的ルームとして使用を拡充するために更衣ができる足台を・机等を9か所に設置した。

<次年度以降に向けた課題・発展>

- ①ハラスメントのないキャンパスの醸成について
- ②ハラスメント事案が生じた場合の適切な対処
- ③性の多様性を鑑みた学内の啓発事業と研修会の開催

4.4.1.11 コンプライアンス委員会

委員長：石川 倫子 教授

委員：平居教授、中村事務局長

事務局：久保石専門員

活動内容：

<前年度までの課題>

研究倫理ガイドラインの変更等は常に生じるので、次年度以降も新たな変更点や課題に対応できるよう研修内容をアップデートしていく必要がある。

<今年度の目標・改善点・年度計画>

研究会の実施など倫理委員会や総務課など関連部署と連携し、教職員のコンプライアンス意識の向上を図る。

<今年度の活動実績・評価>

令和7年3月5日（水）にコンプライアンス委員会・倫理委員会・COI委員会の合同研修会を開催した。内容は以下のとおりである。

1. 研究不正防止に関して 総務課 外主事
2. 利益相反（COI）に関して COI委員長 今井秀樹教授
3. 倫理申請の変更点について 倫理委員長 米澤教授
4. 確認テストの実施 コンプライアンス委員長 石川教授

今年度は、倫理申請時にCOIの申告書も提出することになり、提出方法等の説明も行った。当日に参加できなかった者への配慮として、説明会の内容を録画し、後日に参照できるようにした。説明内容の理解を確認するためのオンライン小テストを実施し、合格者に受講証を発行した。3月末までの合格者は教員・大学院生あわせて93名であった。

<次年度以降に向けた課題・発展>

倫理審査結果とCOI審査結果がスムーズに申請者に結果通知できるようにCOI委員会と倫理委員会とが連携する。利益相反（COI）に関する理解が共有されていないために、これに関する研修を重視する。

4.4.1.12 倫理委員会

委員長：米澤 洋美 教授

委員：小林教授、石川教授、臺教授、松本（勝）教授、大江講師、中嶋講師、
曾山講師

事務局：地藤係主査

活動内容：

<前年度までの課題>

人を対象とした生命科学・医学系研究倫理指針（令和5年一部改訂）に準拠した倫理委員会の運営体制を整えること

<今年度の目標・年度計画>

- ① 人を対象とした生命科学・医学系研究倫理指針（令和5年一部改訂）に準拠した本学業務手順書を整備する。
- ② 倫理委員会構成員に「一般の立場を代表する者」が毎回参加できるよう整備する。

<今年度の活動実績・評価>

① 倫理審査の実施

本年度1年間で一般審査件16件、迅速審査88件で計104件の審査を行った。R5年度は104件であり昨年と同数の審査件数であった。

本年度より倫理委員会構成員に「一般の立場を代表する者」の毎回の参加を必須とし、合わせて「一般の立場を代表する者」新規委員3名の研修をおこなった。

② 倫理審査システムの運用（継続）

- ・本学HPからの倫理審査システムの申請、申請の手引き、申請様式等の整備を行った。
- ・厚生労働省研究倫理報告システムに、審査結果を随時UPした。

③ 倫理継続研修の実施

R7年3月5日に学内教職員向けにコンプライアンス合同説明会を行った。この説明会はコンプライアンス委員会、情報セキュリティ委員会と合同開催であったが、倫理委員長の米澤教授が「次年度の変更点について」と題し25分ほど説明を行った。

④ 業務手順書、教員の異動又は退職時の研究資料等の取り扱いの整備

人を対象とした生命科学・医学系研究倫理指針（令和5年一部改訂）に準拠した本学倫理委員会業務手順書を改訂した（3月）。新たに、教員の異動又は退職時の研究資料等の取り扱いを作成した（3月）。

<次年度以降に向けた課題・発展>

- ・教員の異動又は退職時の研究資料等の取り扱いに関する具体的運用の整備
- ・倫理委員会の審査対象外研究の証明書発行の整備
- ・AIチャットボットを用いた研究倫理申請支援（中期計画推進事業）の実施と周知

4.4.1.13 利益相反マネジメント委員会

委員長：今井 秀樹 教授

委員：今井（美）教授（副委員長）、峰松教授、中村事務局長、藤野弁護士（外部委員）

事務局：久保石専門員

活動内容：

<今年度より開始した委員会活動>

- 1 教職員・学生等（以下「教職員等」）が研究活動又は産学連携活動を含む社会貢献活動等を行う際に生じるおそれのある利益相反の弊害に適切に対応する。
- 2 教職員等より本委員会に提出された研究計画書及び自己申告書の内容について外部委員を含む委員会にて審査する。

<今年度の目標・改善点・年度計画>

- 1 当面は書類にて審査を行うものの、将来的にはweb上での書類提出を原則とすることに移行する。
- 2 その他新たな問題が生じた場合は委員会を招集して対処案を審議する。

<今年度の活動実績・評価>

- 1 審査件数
 - 1) 教職員 32名
 - 2) 学生 0名

<次年度以降に向けた課題・発展>

- 1 書類の提出はすべて電子ファイルで行い、委員会もweb上で実施する。

4.4.1.14 動物実験委員会

委員長：峰松 健夫 教授

委員：岩佐教授、大貝教授、長谷川准教授、市丸准教授

事務局：久保石専門員、外主事

活動内容：

<前年度までの課題>

書類の提出はすべて電子ファイルで行い、委員会もweb上で実施する。

<今年度の目標・改善点・年度計画>

1. 動物実験棟および実験室の適切な管理
2. 動物実験教育の実施
3. 動物実験計画の審査・承認

<今年度の活動実績・評価>

1. 動物実験棟および実験室の適切な管理

- ・動物実験棟：毎週清掃・消毒、白衣のクリーニングを行った
 - ・人間病態学実験室・準備室：必要に応じ清掃を行った
- いずれも適切に管理・運用されている。

2. 動物実験教育の実施

1名が教育を受講し、確認テストに合格した。

3. 動物実験計画の審査・承認

2件の動物実験計画を受け付け、いずれも承認した。

<次年度以降に向けた課題・発展>

1. 動物実験教育の充実
2. 動物実験施設の利用拡大

4.4.1.15 微生物安全管理委員会

委員長：峰松 健夫 教授

委員：小林教授、今井（美）教授、大貝教授、平居教授

事務局：地藤係主査

活動内容：

<前年度までの課題>

微生物等使用・保管施設確認届、およびレベル2微生物等使用・保管届等の受付

<今年度の目標・改善点・年度計画>

1. 微生物等使用・保管施設確認届の受付
2. レベル2微生物等使用・保管届等の受付

<今年度の活動実績・評価>

1. 微生物等使用・保管施設確認届の受付
本年度は申請がなかった。
2. レベル2微生物等使用・保管届等の受付
本年度は申請がなかった。

<次年度以降に向けた課題・発展>

引き続き微生物等使用・保管施設確認届、およびレベル2微生物等使用・保管届等の受付を行い、必要に応じて適正な使用・保管がなされるよう助言を行う。

4.4.1.16 DX推進委員会

委員長：小林 宏光 教授

副委員長：美濃教授

委員：石川教授、紺家教授、峰松教授、松本（勝）教授、佐能講師、
中村事務局長、上村総務課長、河端教務学生課長

事務局：西野主任主事

活動内容：

<前年度までの課題>

学生のPC操作に関する技術的サポート体制の構築

<今年度の目標・年度計画>

- 1) 教育DX化構想（R5年からの4年計画）に従い、本年度は「技術実習のDX化」を中心に計画実施を推進する。
- 2) 来年度(R7年度)の計画である「病院実習のDX化」に向けて、購入物品等の仕様を決定し予算要求を行う。
- 3) 「講義のDX化」に関しては昨年度(R5年度)から実施しているが、電子教科書の運用において生じる様々な問題に対し対応する。

<今年度の活動実績・評価>

年次計画に沿った活動に加え本年度は以下の活動があった。

- 1) 本年度は電子教科書導入から2年目となったが、学生のPC利用のサポートが必要なケースが多くあるため、moodle上に相談窓口を設置するなどする対応を実施した。
- 2) 電子教科書利用教員に対して学生の教科書閲覧動作のデータ提供を開始した。
- 3) PC利用のテスト実施に関して不正防止が問題となったが、これに対応し画面モニタリングシステムの導入を本委員会および教務委員会で検討を行った。来年度からこのシステムが試験実施での利用される予定である。

<次年度に向けた課題・発展>

学生のPC利用の技術的サポートに関しては、本年度も対応処置をとったものの完全な解決には至っていない。来年度は最新のAI技術を応用したサポート体制の構築も計画されているが、継続してより良いサポート体制を模索する必要がある

4.4.1.17 衛生委員会

委員長：中村 博之 事務局長

委員：岩佐教授、室野助教、近藤助教、外主事、小酒養護教諭、中川産業医

活動内容：

<前年度までの課題>

- ・コロナ禍以前と同スペックでの消防訓練の実施
- ・放置傘や破損・放置されたベンチなどの適切な処理

<今年度の目標・改善点・年度計画>

- ① 教職員のストレスチェックを実施し、労働環境の現状把握と改善の検討を継続する。
- ② 職場巡視を実施し、学内の衛生管理が適切性の検討を継続する。

<今年度の活動実績・評価>

1. 職場巡視

職場巡視前に職員からメールにて情報収集を行ったうえで、3回〔6月、12月、3月〕職場巡視を実施し、学内の施設・設備等の安全衛生管理が適切か確認した。

2. 定期健康診断

受診状況を調査し、「職員保健だより（春号）」やメールにて職員に受診を勧奨した。

3. ストレスチェック、長時間労働

法人の指示に基づき、職員のストレスチェックを7月19日～8月2日に実施した。

職員（転任、新任を含む）にリーフレット「自分の時間外労働について考えよう 働き過ぎて疲れていませんか？」（衛生委員会作成）を配布した。

4. 防災訓練

防火管理者の主導のもと、職員及び学生の防災訓練を7月16日に実施した。コロナ禍以前と同内容の訓練をコロナ禍後初めて実施した。地震対応訓練の実施と避難・誘導訓練、初期消火訓練、救護訓練等を行った。

5. 「職員保健だより（春号）（冬号）」の発行

春号では、定期健康診断の受診勧奨について掲載した。冬号では、BE-FASTのコラム、職員健康診断の受信状況について掲載した。

6. その他

- ・腐敗し安全上問題のあったプラザのベンチを撤去・更新した。
- ・錆付き大きくグラついていた屋外ハンドボールのゴールを撤去解体した。

<次年度以降に向けた課題・発展>

来年度はコロナ前同水準の消防訓練に加え、垂直式救助袋の使用訓練を実施する。

4.4.2 特設委員会

4.4.2.1 高大連携委員会

委員長：垣花 涉 教授

委員：川島学部長、臺教授、千原講師、中嶋講師、曾山講師、
小幡アドミッションアドバイザー、藏谷主任主事

活動内容：

<前年度までの課題>

- ・今年度新規に立ち上がった委員会

<今年度の目標・改善点・年度計画>

- ・STEAM教育や探究学習で学ぶ高校生の思考力・判断力・表現力を、本学の研究の視点から支援する。そのために、3つの目標に取り組む。
- ・目標1：看護を研究するきっかけを高校生へ提供することにより、本学の大学院への進学も視野に入れた生徒を発掘する。
- ・目標2：高校生の探究学習を支援することにより、自分なりの視点で深くしらべ、自分なりの意見を持つ態度やマインドを養う機会を生徒へ提供する。
- ・目標3：学会で発表する機会を高校生へ提供することにより、早くからの学術的体験をと

して学問をする心構えを養う。

<今年度の活動実績・評価>

- ・研究ミニイベントの開催：オープンキャンパス開催時において、さまざまな分野で活躍する本学教員の研究に触れる機会を高校生へ提供した。今年度は、7月13日午前に7名の教員が、10月12日午前に9名の教員がイベントに関わった。両イベントに75名の高校生が参加した。
- ・探究学習の支援：本学教員が県内高校の「総合的な探究の時間」の特別講師を務め、高校生の探究リテラシーの育成に関わった。今年度は、3名の教員が7つの特別講師を務め、約550名の高校生と関わった。
- ・学会での発表の提供：本学が主催する学会において、高校生が探究活動の成果を報告する機会を提供した。今年度は、11月2日に開催された「第12回看護理工学会学術集会」において、県内高校の9チームが学会参加者の前でポスター発表を行った。

<次年度以降に向けた課題・発展>

- ・上記の活動に対する高校側の満足度は、いずれも極めて高いものであった。そのために、次年度も高校生の探究学習を、本学の強みである研究力の観点から支援し、研究を志す高校生へ本学への入学を促したい。

4.5 2024度 卒業研究論文題目一覧

領域または科目群	氏名	論文題目
人間科学領域 (18人)	橋本 佳奈 山口 琴音 山口 茉桜 和田 朱音	高齢者体験キット着用が歩行動作に与える影響
	加藤 月菜 中島いまり 山崎 瑛仁	能登半島地震に対する学官民連携による健康支援活動とその効果
	光澤早弥花	スモールチェンジ活動を取り入れた身体活動の実技授業が大学生の運動習慣に及ぼす影響
	荒井 理那	輸液ポンプの輸液管理演習におけるMRゴーグルを用いた演習方法の開発
	下野 愛夏 松浦 吏歩 寺井 萌	ウィリアム・ラスボーンの手簡作（フローレンス・ナイチンゲール宛）の転写・内容解釈・史的意義の考察 －石川県立看護大学附属図書館所蔵手簡と照らし合わせて－
	宮崎可奈子	フローレンス・ナイチンゲール著『カサンドラ』にみる社会構造に基づくジェンダー観
	高橋 愛結 浜辺 麻由 又吉 志織	避難所施設における室温の変化 －8月～10月の調査結果－
	田中 佐和	西田幾多郎の海水浴と当時の健康意識についての考察
	山下 茉莉	西田幾多郎のパン食に関する文献調査
	健康科学領域 (12人)	古川日菜多
大野 一葉 根布 琴音 濱本未咲桜 吉田茉唯里		アルクチゲニンは褐色脂肪形成リプログラミングを制御する
菅原 柊生		自然災害を被災した方が抱えている不安や要望の明確化による継続的な支援の考察

領域または科目群	氏 名	論 文 題 目
健康科学領域 (12人)	九尾 夏凜 高橋 麗奈 長岡 有花	骨格筋の補体制御因子 (CD59) の発現について —筋・神経筋接合部破壊を制御し重症筋無力症の新規治療に繋げる研究—
	池田 莉奈 大場 葉月 林 ゆりな	喫煙率に影響する生活時間について —都道府県別データを用いた検討—
基礎看護学 (7人)	菰池 真麻 矢口 実夏	看護管理に関する教育を受けた看護師長が認識する組織マネジメント実践
	首田 真希 新木 伶奈 安田 陽毬	看護師・看護学生・理学療法士が歩行動作の自立を判断する際の着眼点
	江口 優実 武村 莉子	異なる水温で作製したシャボンラッピング法が皮膚洗浄度、皮膚温、皮膚水分量、快適性に及ぼす影響
母性看護学 (7人)	上島 美紅	思春期女子のHPVワクチン接種促進に関する父親への介入研究: スコーピングレビュー
	田中 陽	思春期男子のHVPワクチン接種促進に関する親への介入研究: スコーピングレビュー
	岩山 和心	早期流産を経験した女性とその家族への支援に関するスコーピングレビュー
	今本 愛香 星澤 結菜	妊娠前の葉酸サプリメント摂取促進に向けた教育方法のマッピングレビュー
	甲楽城ひかる 向井 天海	助産師養成学校における妊産褥婦のメンタルヘルスケアに関する教育の現状～助産師養成学校のシラバス分析から～
小児看護学 (6人)	伊藤 永遠 岩崎 淳奈 白井 明音 高波 愛可 寺田 綾咲 林 怜依奈	看護系大学生のためのセルフ・コンパッションプログラムの開発と形成評価

領域または科目群	氏 名	論 文 題 目
成人看護学 (16人)	西出 彩香	健常成人を対象とした振動器内蔵エアマットレスを用いた下腿局所低周波振動の血流増加持続効果の検証
	浅田 夏菜	看護師へのアピアランスケアの周知プログラムの構築 —がん看護に従事する看護師が抱くアピアランスケアの目的・意義の認識の実態調査—
	岩崎 真優	多職種連携による周術期の疼痛緩和に関するスコーピングレビュー
	岡部 静空	終末期がん患者のリンパ浮腫ケアに対する圧迫療法の実践 —多職種による語りから—
	高道 菜緒	褥瘡悪化を予測するポイントオブケア検査におけるATP液相化方法の開発
	石川 圭菜 大端 愛美 山本 えり	化学療法誘発性末梢神経障害予防に向けた手部冷却法による血流速度・皮膚温度・苦痛の比較：実験研究
	児玉 瞳 津田 詩音 椿原 由華	医療従事者を対象としたリンパ浮腫エコーアセスメントe-learning教育プログラムの効果：一群前後比較試験
	細川 和愛 森 夏希	車中泊における体圧分散方法の検討および加振機能付きクッションを用いた血流促進効果の検証
	井口 夏希 今町 優花 桜井 菜摘	段ボールベッドにおける体圧低減方法と加振による血行促進の検討
	老年看護学 (9人)	久保のどか 武田 明莉
菊 奏璃 武田 朋子 松浦 万紀		認知症VR映像視聴による看護学生への学習効果
石政 結子		病棟看護師チームの身体拘束回避に至る意思決定プロセスと影響要因 —複線径路・等至性モデルを用いた質的研究—
尾田 和揮 久保川力有 西森 筒哉		医療・看護ケアを要する在宅で過ごす不全療養者の下大静脈径の評価

領域または科目群	氏 名	論 文 題 目
地域看護学 (3人)	提坂 真帆 佐藤 萌香 竹野 遥菜	地域在住高齢者のeスポーツ体験における効果検証
在宅看護学 (2人)	加藤 ゆい 八日市遥奈	高齢者の生きがいやQOLの関連要因に関する研究
精神看護学 (3人)	和泉 理子 松原 夢愛 宮坂 佳鈴	統合失調症患者に関する映画の視聴が疾患・対象理解に及ぼす影響 －精神疾患患者との接触経験の有無に焦点をあてて－

5. 大学院・看護学研究科

5.1 理念・目標

5.1.1 博士前期課程（修士）

5.1.1.1 教育理念

「人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性ととも、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する」という本学の教育理念を受け継ぎ、深化・発展させる。看護を取り巻く状況が高度化・複雑化・専門化する中であって、より質の高い効果的な看護を構築・提供するために、学際的で深い科学的知識と高度の研究能力を有して看護学教育・研究・実践に携わることのできる教育者・研究者・高度専門職業人を育成し、看護学の一層の確立と看護実践の発展に努める。

5.1.1.2 教育目標

1. 看護学教育を支える教育・研究職の育成

本課程では、学部で蓄積された看護学に関する成果を、さらに深化・発展させることによって時代と地域の要請に応えるため、看護学分野における学術上の先端的役割を担うとともに、知識の体系化と看護技術の開発を積極的に推進し、看護学の学問体系の構築に貢献する教育・研究職の人材を育成する。

2. 高度な専門的知識・技術・実践能力を備えた看護職者の育成

実践現場において当面する種々の問題について、体系的、継続的に研究を行い、合理的に問題解決できる人材や、看護職に対する指導・相談、関係する職種間の総合的調整能力、ケアの環境条件を積極的に改革していく役割を担う人材の養成が求められている。そうした要請に応えるため、専門看護師（CNS:Certified Nurse Specialist）の養成を図り、もって地域の看護の発展に一層寄与する高度専門職業人を育成する。

3. 女性の一生を通じた性と生殖に関わる健康を推進できる助産師の育成

時代の流れや社会情勢に高い関心と洞察力を持ち、多様化する女性の生き方や家族のニーズ、専門化・複雑化する助産に対応できる人材や、保健・医療・福祉に携わる多職種と積極的に連携・協働し、継続的に援助を推進できる人材の養成が求められている。そうした要請に応える助産師の養成を図るとともに、助産学の発展に寄与する専門職業人を育成する。

4. 生涯にわたって研鑽できる看護職の知的交流の場づくり

日々進歩・発展する医療技術と看護環境の変化に機敏に対応し、看護の知識と技術の向上を図るため、看護の実践現場と教育・研究の場の交流を活発にし、地域が要望する質の高い看護サービスの提供を図っていく。そのためには、学部の社会人入学に加えて、卒業後の継続教育、社会人の再教育の場を提供する必要がある。本課程は、このような向上心旺盛な学部卒業生や社会人の受け皿としての機能を持ち、看護現場のより一層の質の向上のために寄与することを目指す。

5.1.1.3 アドミッション・ポリシー（求める人材）

本学の看護学研究科では、入学者選抜試験を実施し、以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を幅広く求めています。

1. 幅広い基礎学力を有し、かつ希望する専攻分野の基礎知識を有する人
2. 人間や社会に対して広く興味を持ち、豊かな人間性と高い倫理観を有する人
3. 看護学を通じて地域社会及び国際社会に貢献する意志を有する人
4. 専門看護師コース志望者は、対応する分野の実務経験を有し、専門看護師の資格取得を志す人
5. 助産実践コース志願者は、助産師の免許取得を志す人

5.1.1.4 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

博士前期課程では、より卓越した看護実践能力と高い研究能力を有し、看護学の研究や教育、看護実践・管理に携わることのできる研究者・教育者・高度看護実践者を育成する。研究コースに加え、専門看護師コースと助産実践コースを設け、次のような教育課程を編成している。

1. 広い視野で看護を学ぶための学際的な科目から構成されている「共通科目A」、科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を育成するための「共通科目B」、各研究教育分野におけるより深い専門性を学ぶ「看護専門科目」を置いている。
2. 国際的な視野を持ち、より効果的な看護を探究し提供していくために、海外の招聘教員による国際看護を学ぶ科目を置いている。
3. 論文作成にあたっては、研究計画の中間報告や複数教員による、組織的で計画的な研究指導体制をとっている。
4. 専門看護師コースでは、特定分野におけるケアとキュアを融合した看護実践力、保健医療福祉チーム内の調整力などの育成をめざし、看護実践力の高い専門看護師とタイアップして日本看護系大学協議会で認定された専門看護師教育を展開している。
5. 助産実践コースでは、助産師免許取得に必要な科目のみならず、多職種と連携してハイリスクに対応でき、多様な年代の性と生殖に関わる健康課題に応えられる専門的知識・技術や倫理的態度を育成する科目を置いている。

5.1.1.5 ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

所定の単位を修得し、次のような研究能力や看護実践能力を有する者に修士（看護学）の学位を授与する。

1. 看護学に寄与する修士論文の作成を通して、学際的で深い科学的知識を基にした体系的な研究方法を修得している。
2. 専門看護師コースでは、1に加えて特定の看護分野における高度な知識と技術を修得している。さらに、総合的な判断力をもって組織的に問題解決をはかる能力を身につけている。
3. 助産実践コースでは、1に加えて専門化・複雑化する助産分野に対応できる助産実践能力と助産管理の基盤となる能力を修得している。さらに、女性のライフサイクル全般の性と生殖に関わる健康課題に応える能力を身につけている。

5.1.2 博士後期課程（博士）

5.1.2.1 教育理念

「人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性ととも、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する」という本学の教育理念を受け継ぎ、深化・発展させる。看護を取り巻く状況が高度化・複雑化・専門化する中であって、より質の高い効果的な看護を構築・提供するために、学際的で深い科学的知識と高度の研究能力を有して看護学教育・研究・実践に携わることのできる教育者・研究者・高度専門職業人を育成し、看護学の一層の確立と看護実践の発展に努める。

5.1.2.2 教育目標

1. 看護学や看護実践の発展に寄与する教育者・研究者の育成

看護・保健・医療・福祉を取り巻く環境の変化や地域の要請に対応することができる高度で専門的な知識・技術と、総合的判断力、リーダーシップを備えた看護職を養成する。また、これまで蓄積された経験知や実践知に基づいてより効果的な看護ケアプログラムを開発していくとともに、健康に関する人々の反応や看護援助にまつわる専門的知識を系統的に理解し、諸科学の知見と関わらせながら看護学をさらに体系化し、かつ現代社会の変化や趨勢に照らして看護が果たすべき役割を発展的、科学的、体系的かつ原理的に探求していくことができる教育者・研究者を育成する。

2. 科学的な理解に基づいて看護をデザインできる研究者の育成

地域社会並びにそこで生活するあらゆる健康レベルの人々やその家族に対して総合的なヘルスケアをデザインするために、高度な理論・方法など学際的な知識体系を修得・活用して新しい看護実践方法、環境、用具等の開発を行なう。さらに、それらの実践の場における有用性の検証を図り、実践に活かせるエビデンスを明らかにできる研究者を育成する。

3. 対象の特性を踏まえた看護を実践できる研究者の育成

効果的な看護ケアプログラムの開発、あるいは対象者個々の個別性を踏まえ、その人たちが帰属する地域の文化的特性を踏まえた看護援助の開発、エビデンスに基づいた看護援助法の確立をめざした高度の研究を継続的に推進していくことのできる研究者を育成する。

5.1.2.3 アドミッション・ポリシー（求める人材）

入学者選抜試験を実施し、以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を幅広く求めています。

1. 実務経験を有し、看護学への探求心を有する人
2. 看護学研究に対する高い動機と学びに必要な基礎的研究能力を身に付け、自立して学修する姿勢を有する人
3. 看護学や看護実践の発展に寄与する意志を有する人
4. 看護学を通じて地域社会及び国際社会に貢献する意志を有する人

5.1.2.4 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

博士後期課程では、看護学や看護実践の発展に寄与する研究者・教育者を育成するために、教育課程においては次のような点を重視している。

1. 広い視野で看護学の学的基盤を見据え、看護実践のもととなる原理を解明する能力や人々の健康ニーズに役立てる能力を身につけるために、研究計画の中間報告や複数教員による組織的、かつ計画的な研究指導体制をとっている。
2. 学位論文の審査にあたっては、他の大学院等の教員を審査委員に加える等、論文の質の向上と客観性の確保に努める。

5.1.2.5 ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

所定の単位を修得し、看護学や看護実践の発展に向け、学位論文において新しい知見を産出し、自立した研究活動に必要な能力を有する者に博士（看護学）の学位を授与する。

5.2 大学院生の入学・在学・修了の状況

1. 入学の状況

1) 入学定員・収容定員

課 程	単位 (人)	
	入学定員	収容定員
博士前期課程	15	30
博士後期課程	3	9

2) 試験実施日

	実施日
博士前期課程・後期課程入学試験	令和 6年 8月 4日 (日)
博士前期課程・後期課程入学試験 (第2次募集)	実施なし

3) 受験状況等

課 程	単位 (人、倍)					
	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率	入学者数
博士前期課程	10	11	10	10	1.0	10(7)
博士前期課程 (2次)	実施なし	-	-	-	-	-
博士前期課程助産	5	15	15	5	3.0	5(5)
博士前期課程助産 (2次)	実施なし	-	-	-	-	-
博士後期課程	3	10	9	6	1.5	6(4)

() の数字は内数であり女性の数を示す

2. 在学の状況 (令和7年3月1日現在)

課 程	単位 (人)		
	1年次	2年次	計
博士前期課程	11(9)	13(11)	24(20)

課 程	1年次	2年次	3年次	計
	博士後期課程	5(5)	6(6)	8(7)

() の数字は内数であり女性の数を示す

3. 修了の状況

1) 修了者数と修了後の進路状況（令和7年3月31日現在）

単位（人）

課 程	修了者数	修了後の進路
博士前期課程第18期生	7(6)	医療機関
博士後期課程第17期生	1(0)	教育機関

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

2) 修了後の進路状況（令和7年3月31日現在）

(1) 博士前期課程（第18期生）

単位（人）

区 分	単位（人）		合計 人数
	県内 人数	県外 人数	
就 職 医 療 機 関	3	4	7(6)
研 究 機 関	0	0	0(0)
教 育 機 関	0	0	0(0)
保 健・福 祉 機 関	0	0	0(0)
合 計	7	4	7(6)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

単位（人）

区 分	単位（人）		合計 人数
	県内 人数	県外 人数	
進 学 大学院博士後期課程	0	0	0(0)
そ の 他	0	0	0(0)
合 計	0	0	0(0)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

(2) 博士後期課程（第17期生）

単位（人）

区 分	単位（人）		合計 人数
	県内 人数	県外 人数	
就 職 医 療 機 関	1	0	1(0)
研 究 機 関	0	0	0(0)
教 育 機 関	0	0	0(0)
保 健・福 祉 機 関	0	0	0(0)
未 定	0	0	0(0)
合 計	1	0	1(0)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

5.3 大学院教務学生委員会

委員長：石川 倫子 教授

委員：桜井教授、亀田教授、平居教授、大貝教授、木田准教授

事務局：河端教務学生課長、久保石専門員

活動内容：

<前年度までの課題>

近年、博士前期課程および博士後期課程の入学生数が増えており、学習環境の改善や教務全般をより効率的に運営する工夫が必要である。

<今年度の目標・改善点・年度計画>

1. 大学院生との懇談会やアンケートを実施し修学支援ならびに学修環境の改善を図り、所定の年限で大学院を修了できるようにする。
2. 大学院教育懇談会や修了生アンケート等を行い、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの見直しを検討する。
3. ストレートマスターを推進するために、学部生に対して大学院でのキャリア形成を啓発する。また、早期に大学院進学相談会の開催を行う。

<今年度の活動実績・評価>

1. 大学院生の修学支援ならびに学修環境の改善について

- 1) 修士論文・博士論文に関する検討

- (1) 随時審査、博士論文発表会のスケジュールの検討

今年度より、博士後期課程学位論文審査に随時審査を導入した。4月に1名が随時審査の申請を行い、12月14日に学位審査に合格し博士号を取得した。今回の実施から、審査期間等に課題があり、①審査期間は3年在籍する見込みの者と同様な期間にする、②期日までに判定が出ない場合、審査委員会は年度を超えて最大で1年間審査を継続することができるなど、スケジュール等の見直しを行った。

- (2) 剽窃について

科学研究の信用を守るために博士論文の剽窃を防ぎ、論文の質を保証する。そのために、ツールを用いて剽窃確認を行うことを研究科委員会にて再確認した。

- (3) 倫理申請について

院生が実施する研究の倫理を保障するために、本学以外で倫理審査（一括審査）を受けた場合の倫理審査の扱いを検討し、いずれの場合も本学で実施の許可を得ることとした。

- (4) 録音について

修士論文の審査会についても院生の学修効果から録音を行うこととした。

- 2) 修士論文・博士論文発表会での教育的支援

博士前期課程の中間報告会を4月11日（木）13:00～16:00に開催し76名が参加した。また、博士後期課程の中間報告会を7月10日（水）13:00～15:15に開催し68名が参加、修士論文・博士論文発表会を2月20日（木）9:00～12:35に開催し85名が参加した。いずれも評価委員の教員や他分野の教員から教育的な助言がなされたとともに活発な意見交換が行われたことで院生の研究に関する理解が深まった。

3) 入学生増加に伴う院生室の配置について

博士前期課程および博士後期課程の院生を合わせて50名以上になるため、博士前期課程と博士後期課程の院生の交流も考慮した院生の配置とした。また、県外の院生のパソコンや棚の利用頻度が少ないため、共有スペースで学修できる環境を作った。

2. 次世代の研究者および看護教育者、高度看護実践者の育成について

1) 懇談会やアンケートの実施による情報収集

大学院修了生が在職する病院等の看護部責任者と大学院教育懇談会を開催し、修了生の活躍の実態や今後の高度看護実践者育成への要望を話し合った。また、大学院生との懇談会、修了生へのアンケート調査、前期博士課程在籍者に対する資格取得のニーズ調査を実施した。

2) ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの見直し

1) の実態を参考に、大学院教務学生委員3名と前年度の大学院教務学生委員2名で構成するワーキングを8月に立ち上げ、次世代にはどのような研究者および看護教育者、高度看護実践者の育成が必要かを幾度も検討を重ねた。2月14日の研究科委員会にてディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの改正案が承認された。

3. ストレートマスターの推進

ストレートマスターを推進するために、①新年度ガイダンスにて、4月21日（日）に開催した大学院進学相談会に参加するよう促した。その結果、令和5年度より学部生の参加が増加した。②12月に行われた3年生のクラスアワーにて大学院進学について説明した。

<次年度以降に向けた課題・発展>

次世代の研究者および看護教育者、高度看護実践者の育成のためのカリキュラムの見直しを行う。また、所定の年限で大学院を修了できない者が生じてきているため、指導体制の見直しを行う。

5.4 2024年度 修士論文題目一覧

分野	氏名	修士論文題目	指導教授
看護管理学	北山 玲子	COVID-19患者専用病棟の看護師長がチームを創るためにとった行動	石川 倫子
地域・精神・保健学	岩田 一花	注意欠如多動症疑いをもつ児の養育者の経験 中学校入学前に焦点を当てて	米澤 洋美
成人看護学	加藤 克典	スキنبロットティングで採取したタウリンの液相測定法による高齢者の高張性脱水の同定	峰松 健夫
助産看護学	上田 芽依	思春期男子のHPVワクチン接種に対する母親の接種意向とその関連要因	亀田 幸枝
助産看護学	小浦 紗耶	現在の母親の産後1ヶ月時点での授乳方法決定に関連する要因	米田 昌代
助産看護学	牧野凜々香	多胎育児支援のモデル地区における地域連携の活性化の要因を探る質的記述的研究	米田 昌代
助産看護学	大西 李来	HPVワクチン未接種者のキャッチアップ接種意向に関連する要因および接種者の反応	亀田 幸枝

5.5 2024年度 博士論文題目一覧

氏名	学位論文題目	指導教授
近藤 考朗	退院先の選択時における認知症高齢者と家族の意向が不一致に至る実態	川島 和代

6. 教員の業績

6.1 学長

所属（大講座等）・職位	老年看護学講座・教授	氏名	真田 弘美
評価領域	個人の記載		
研究業績 書籍（著書）	<p><u>真田弘美</u> 監修，石澤美保子・玉井奈緒 編集，終末期の褥瘡，1-177，南山堂，東京，2025.3</p> <p><u>真田弘美</u>：第1章 わが国における褥瘡の取り組み，A. 褥瘡対策の変遷，終末期の褥瘡，石澤美保子・玉井奈緒 編集，<u>真田弘美</u> 監修，2-5，南山堂，東京，2025.3</p> <p><u>真田弘美</u> 監修，松本勝・野村岳志・河本敦夫 編著：ポケットエコーで看護力アップ ポイントオブケア看護エコー 第1版，1-198，照林社，東京，2024.9</p>		
学術論文	<p><査読有></p> <p>Shinkawa M, Mugita Y, Takahashi T, Haba D, <u>Sanada H</u>, Nakagami G: A novel skin temperature estimation system for predicting pressure injury occurrence based on continuous body sensor data: A pilot study. Clin Biomech (Bristol), 122, 106413, 2024.1</p> <p>Haba D, Itabashi M, Tamai T, Tobe H, <u>Sanada H</u>, Nakagami G: Effectiveness of Vibration Therapy for Hard-to-Heal Wounds in Clinical Study: A Scoping Review. Chronic Wound Care Management and Research. 11, 1-12, 2024.2</p> <p>Muta M, Takahashi T, Tamai N, Suzuki M, Kawamoto A, <u>Sanada H</u>, Nakagami G: Pelvic floor muscle contraction automatic evaluation algorithm for pelvic floor muscle training biofeedback using self-performed ultrasound. BMC Womens Health, 24(1), 219, 2024.4</p> <p>Misawa N, Matsumoto M, Tsuda M, Tamura S, Yoshihara T, Ashikari K, Kessoku T, Ohkubo H, Higurashi T, <u>Sanada H</u>, Kato M, Nakajima A: Diagnostic Ability of Ultrasonography Compared with Computed Tomography for Assessing Rectal Feces. J Anus Rectum Colon, 8(2), 126-131, 2024.5</p> <p>Sano Y, Matsumoto M, Akiyama K, Urata K, Matsuzaka N, Tamai N, Miura Y, <u>Sanada H</u>: Evaluating Accuracy of Rectal Fecal Stool</p>		

注1) 本学の教員の氏名の下にはアンダーライン

注2) 本学の学生・院生（卒業・修了生含む）の氏名の下にはアンダーラインかつ氏名の前にアスタリスク（*）

Assessment Using Transgluteal Cleft Approach Ultrasonography. Healthcare (Basel), 12(13), 1251, 2024.6

Kessoku T, Matsumoto M, Misawa N, Tsuda M, Miura Y, Uchida A, Toriumi Y, Onodera T, Arima H, Kawamoto A, Sugama J, Matsushima M, Kato M, Manabe N, Tamai N, Sanada H, Nakajima A: Expert Consensus Document: An Algorithm for the Care and Treatment of Patients with Constipation Based on Ultrasonographic Findings in the Rectum. Diagnostics (Basel), 14(14), 1510, 2024.7

Abe-Doi M, Murayama R, Takahashi T, Matsumoto M, Tamai N, Nakagami G, Sanada H: Effects of ultrasound with an automatic vessel detection system using artificial intelligence on the selection of puncture points among ultrasound beginner clinical nurses. J Vasc Access, 25(4), 1252-1260, 2024.7

Astrada A, Nakagami G, Sanada H: Challenges in Biofilm Identification in Diabetic Foot Infections: Review of Literature. Int J Low Extrem Wounds, 15347346241273112, 2024.8

Yamamoto A, Kessoku T, Ogata T, Jono T, Takahashi K, Tanaka K, Suzuki K, Takeda Y, Ozaki A, Kasai Y, Okubo N, Iwaki M, Kobayashi T, Misawa N, Yoshihara T, Suzuki A, Fuyuki A, Hasegawa S, Imajo K, Kobayashi N, Matsumoto M, Tamai N, Sanada H, Oyamada S, Ichikawa Y, Nakajima A: A Handheld Ultrasound Device Can Predict Constipation with Rectal Fecal Retention in a Palliative Care Setting. Diagnostics (Basel), 14(15), 1626, 2024.8

Oe M, Jais S, Sari N, Sanada H, Sasongko A, Haryanto H: Effects of diabetes-related foot ulcer depth on healing days, cost, and quality of life: A prospective observational study. Health Sci Rep, 7(8), e2273, 2024.8

松本勝, 大西陽子, 下橋和也, 杉浦裕愛, 山本翔子, 大橋史弥, 峰松健夫, 真田弘美, 紺家千津子: 初学者を対象とした非対面での膀胱エコー教育による技術習得度に対する効果検証: 対面教育・遠隔ライブ教育・VRオンデマンド教育の比較. 看護理工学会誌, 12, 1-9, 2024.9

Muta M, Takahashi T, Tamai N, Sanada H, Nakagami G: Development of an e-learning program for biofeedback in pelvic floor muscle training for adult women using self-performed ultrasound: An observational study. Jpn J Nurs Sci,

21(4), e12609, 2024.10

Kunimitsu M, Minematsu T, Koudounas S, Sanada H, Nakagami G: Relationship Between Dysbiotic Wound Microbiota and Critical Colonization: Involvement of FOXP3-Positive Cells in Rats. *Ann Plast Surg*, 93(5), 617-623, 2024.11

Horinouchi A, Mugita Y, Tomida S, Takizawa C, Haba D, Sanada H, Nakagami G: Incontinence-Associated Dermatitis-Like Skin Changes Induced by the Application of Absorbent Pads Containing Bacteria and Artificial Urine in Rats. *Exp Dermatol*, 33(11), e70013, 2024.11

Tamai N, Minematsu T, Ikeda M, Mugita Y, Sanada H: Effects of improved hypoallergenic fabrics in medical wigs in patients with breast cancer with chemotherapy-induced alopecia: a randomised clinical trial. *BMJ Support Palliat Care*, 14(e3), e2563-e2570, 2024.12

Takahashi T, Higashimura S, Ninomiya T, Fujimura S, Sugimoto N, Horai T, Abe T, Kitamura A, Matsumoto M, Nakagami G, Sanada H: The Long-Term Use of Communication Robots by Users of Visiting Healthcare Services: Development of an Integrated Vital Signs Measurement System. *Cureus*, 17(1), e77635, 2025.1

Iwahira Y, Nakagami G, Morita K, Sanada H: Effect of radiation timing on the capsular contracture of implant-based breast reconstruction: A retrospective cohort study. *Medicine (Baltimore)*, 104(6), e41438, 2025.2

Takahashi T, Nakagami G, Murayama R, Abe M, Sanada H: Ultrasonography-observed subcutaneous edema immediately after peripheral intravenous catheter placement is a factor in subsequent catheter failure. *Journal of Infusion Nursing*. In Press.

Takahashi T, Nakagami G, Murayama R, Abe M, Matsumoto M, Sanada H: Automated ultrasonographic detection of thrombus and subcutaneous edema due to peripheral intravenous catheter. *Journal of the Association for Vascular Access*, In Press.

Tsuchiya H, Abe M, Tomida S, Higashimura S, Haba D, Minematsu T, Sanada H, Nakagami G: Development and evaluation of a rapid skin taurine measurement device using skin blotting for the early detection of dehydration. *V Japan Journal of Nursing Science*, In Press.

<p>その他の原稿</p>	<p><雑誌掲載等></p> <p>松田樹一, <u>真田弘美</u>: 100年時代を生きる 地域とつながり、自然と生きる、を楽しむ, わらいふ2024年春号, 16, 56-63, 2024.4</p> <p><u>真田弘美</u>: 活躍する県人 県立看護大 真田学長へ県が要請 高齢者の床擦れケアに支援チーム 被災地や金沢の1.5次避難所へ支援チーム, 加能人, 2024年4月号, 7, 2024.4</p> <p>岸本尚, <u>真田弘美</u>: 100年時代の看護とモノづくり 地球上の笑顔の回数を増やしていく, わらいふ2024年夏号, 17, 2024.6</p> <p>更家悠介, <u>真田弘美</u>: 100年時代を幸福に生きるために 運動と栄養と口腔ケアが大切 自立する高齢者の幸福な生き方とは?, わらいふ2024年秋号, 18, 40-47, 2024.9</p> <p>神野正博, <u>真田弘美</u>: 復興への緊急対談「能登半島地震から一年 能登の医療と看護は、私たちが守る!」, わらいふ2024年冬号 vol. 19, 2024.12</p> <p>秋富慎司, <u>真田弘美</u>: 能登の医療と看護に今、必要なことは?～「災害関連死」を防ぐために～, わらいふ2025年春号vol. 20, 2025.3</p> <p><u>真田弘美</u>: 書籍紹介「くすりがわかる 作用機序×使い方×観察・ケア」(南山堂), 日経メディカル, 2024.5</p> <p><u>真田弘美</u>: 書評「看護教員のためのデジタルツール活用法 [Web動画付] 動画で学んでオンライン授業の質向上!板谷 智也 著」, 医学界新聞, 医学書院, 3561, 14, 2024.5</p> <p><u>真田弘美</u>: 創設者の言葉, 看護理工学会10周年記念誌, 看護理工学会, 3-4, 2024.8</p> <p>神野正博, <u>真田弘美</u>: 復興への緊急対談「能登半島地震から一年 能登の医療と看護は、私たちが守る!」, わらいふ, 2024年冬号, 19, 20-29, 2024.12</p> <p><u>真田弘美</u>: 活躍する県人 県立看護大・<u>真田弘美</u>学長 「世界トップ2%」科学者に スタンフォード大、看護学で国内唯一選出, 加能人, 2025年新年号, 7, 2025.1</p>
<p>学会発表 (研究発表・ 招聘講演, パネリスト, 基調講演等)</p>	<p><特別講演></p> <p><u>真田弘美</u>: 特別発言, シンポジウム4「令和6年能登半島地震 褥瘡ケア支援」, 第26回日本褥瘡学会学術集会, 姫路, 2024.9, 日本褥瘡学会誌, 26(3), 311, 2024.9</p> <p><u>真田弘美</u>: ケアイノベーションで看護の未来を拓く, 特別講演, 第24回東邦看護学会学術集会, WEB開催, 2024.12, 東邦看護学会誌, 22(1), 21, 2024.12</p> <p><u>真田弘美</u>: 無いなら創る看護ケアのイノベーション, 特別講演2, 第203回医療情報システム研究会, 大阪 (ハイブリッド), 2025.2</p>

<一般口演の研究発表>

真田弘美：ナースングケアイノベーション，セッション4「医療×AIの未来 Japan Healthへの課題」，パネルディスカッション，Japan Health プレ・セミナー 2024，大阪，2024.9

松本勝，真田弘美：看護管理：エコーを活用したアセスメントによる排便管理，シンポジウム，第32回日本意識障害学会，愛知，2024.7，Journal of Japan Coma Society:JJCS，32(1)，78，2024.7

松本勝，真田弘美：看護理工学によるケアイノベーション：便秘エコーシステムの開発と遠隔支援，パネルディスカッション1 日本遠隔医療学会・日本在宅ケア学会・看護理工学会ジョイント企画 デジタルヘルスの未来に貢献する、看護ケアイノベーション，第28回日本遠隔医療学会学術集会，岡山，2024.11，日本遠隔医療学会学術大会プログラム・抄録集 28，64，2024.11

幅大二郎，仲上豪二郎，真田弘美：局所低周波振動刺激による難治性創傷治癒促進の新戦略と将来展望，シンポジウム2（日本リハビリテーション医学会合同企画）リハビリテーション専門職者の褥瘡ケアへの関わり，第26回日本褥瘡学会学術集会，兵庫，2024.9，日本褥瘡学会誌，26(3)，309，2024.9

松本勝，玉井奈緒，真田弘美：看護領域におけるPOCUSの活用と課題，シンポジウムPoint Of Care 1，日本超音波医学会第97回学術集会，神奈川，2024.5，超音波医学，51 (Suppl)，S439，2024.5

紺家千津子，石井光子，峰松健夫，臺美佐子，松本勝，北村言，真田弘美：令和6年能登半島地震：褥瘡ケア支援システムの構築と運営，シンポジウム2，第12回看護理工学会学術集会，石川，2024.11，第12回看護理工学会プログラム・抄録集，55，2024.11

真田弘美：褥瘡対策2023，特別講演，第20回日本褥瘡学会近畿地方学術集会，奈良，2023.5，日本褥瘡学会誌，26(1)，60，2024.2

堀之内愛，麦田裕子，富田早苗，滝沢知大，幅大二郎，真田弘美，仲上豪二郎：失禁関連皮膚炎の予防における尿吸収パッドの効果検証のためのラットモデル確立と病態確認，理事会企画 5 日本創傷・オストミー・失禁管理学会助成採択演題，第33回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会，山口，2024.5，日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌，28(2)，119，2024.5

加藤克典，高松楓佳，野村風花，米澤洋美，塚田久恵，金子紀子，室野奈緒子，嶋雅奈恵，長谷川陽子，大貝和裕，額奈々，瀧澤理穂，大西陽子，今方裕子，松本勝，松本智里，臺美佐子，紺家千津子，真田弘美，峰松健夫：スキンプロテイングによる軽度認知障害スクリーニング法の開発：アミロイドβの検出と軽度認知障害同定精

	<p>度, 第12回看護理工学会学術集会, 石川, 2024. 11, 第12回看護理工学会学術集会プログラム・抄録集, 71, 2024. 11</p> <p>北村言, 松本勝, 高橋聡明, 麦田裕子, 島田宗太郎, 平岡桃重, 仲上豪二郎, <u>真田弘美</u>: エコーによる膀胱内尿量計測の新卒訪問看護師へのVRを用いた教育,, 第12回看護理工学会学術集会, 石川, 2024. 11, 第12回看護理工学会学術集会プログラム・抄録集, 111, 2024. 11</p> <p>石井光子, 紺家千津子, 峰松健夫, 臺美佐子, 松本勝, 北村言, 大貝和裕, 長谷川陽子, <u>真田弘美</u>: 令和6年能登半島地震における褥瘡ケア支援部会の活動から見えたこと, シンポジウム「令和6年能登半島地震を経て今取り組んでいる事ー復興に向けて共に進んでいくためにー」, 第31回石川県看護学会, 石川, 2024. 11</p> <p>Kato K, Minematsu T, Takizawa C, Tomida S, Kato Y, Oda Y, Hirata Y, Wakizaka M, Hasegawa Y, Ogai K, Nakagami G, Konya C, <u>Sanada H</u>: The promotion of critically colonized wound healing by cleansing with Soforo-fine bubbles, 2024 Wound Healing Society, Florida, 2024. 5, Wound Repair and Regeneration, 32(4), 2024. 7</p> <p>長谷川陽子, 紺家千津子, 石井光子, 峰松健夫, <u>真田弘美</u>: 1.5次避難所の褥瘡患者における栄養学的特徴と課題, 第24回北陸PEG・在宅栄養研究会, 石川, 2024. 10, 第24回北陸PEG・在宅栄養研究会抄録集, 2024. 10</p> <p>二宮恒樹, 藤村幸代, 杉本直輝, 高橋聡明, 東村志保, 北村言, 松本勝, 仲上豪二, <u>真田弘美</u>: 訪問系サービスにおけるコミュニケーションロボットPALROの取組-バイタルサイン測定機器連動システムの開発-, 第41回日本ロボット学会学術講演会, 宮城, 2023. 9, 日本ロボット学会学術講演会予稿集(CD-ROM), 2023. 9</p>
<p>研究助成金・ 研究費等の獲得</p>	<p><科学研究費></p> <p><u>真田弘美</u>, 峰松健夫, 仲上豪二郎, 大貝和裕, 紺家千津子: 滲出液エクソソームマーカー検出人工リポソームの開発: 創傷アセスメントの新たな展開研究代表者, 2022-2025, 挑戦的研究(開拓).</p> <p>本学教員が分担者</p> <p>仲上豪二郎, <u>真田弘美</u>, 小嶋良輔, 酒井崇匡, 野村征太郎, 峰松健夫, 秋下雅弘, 佐久間一郎: 滲出液中老化細胞を標的とした選択的創傷治癒促進セノリティクス, 2023-2026, 学術研究助成基金助成金基盤研究(A).</p> <p>大江真琴, 大桑麻由美, <u>真田弘美</u>, 岡本成史, 野口博史, 四津里英: 糖尿病足潰瘍治癒過程モニタリングスケールを用いた糖尿病足潰瘍</p>

マネジメントの確立, 2023-2026, 学術研究助成基金助成金基盤研究(B).

天木伸子, 鎌倉やよい, 百瀬由美子, 真田弘美, 三浦由佳, 西岡裕子: 要介護高齢者の嚥下後誤嚥を予防する咽頭残留除去ケアプログラムの開発, 2023-2025, 学術研究助成基金助成金基盤研究(C).

三浦由佳, 須釜淳子, 紺家千津子, 真田弘美, 野口博史: 睡眠中の誤嚥予防と安楽保持に最適な姿勢を促すロボティクスクッションの開発, 2023-2024, 学術研究助成基金助成金挑戦的研究(萌芽).

玉井奈緒, 峰松健夫, 真田弘美, 高橋聡明: スマートセンサーとAIによるがん性皮膚潰瘍においモニタリング・ケアシステムの開発, 2022-2025, 学術研究助成基金助成金基盤研究(B).

三浦由佳, 真田弘美, 松本勝, 玉井奈緒, 河本敦夫, 長谷剛志, 小路和幸: 在宅でのエコーを用いた嚥下視える化データベースに基づく介入の肺炎予防効果の検証, 2022-2025, 学術研究助成基金助成金基盤研究(B).

紺家千津子, 真田弘美, 須釜淳子, 松本勝, 大橋史弥: 介護保険施設のリモート支援による最良な皮膚障害予防・管理実装モデルの構築, 2022-2025, 学術研究助成基金助成金基盤研究(B).

土井麻里, 村山陵子, 真田弘美: 繰り返し抗がん剤投与を行う血管を温存する末梢静脈カテーテル留置技術の実装, 2022-2024, 学術研究助成基金助成金基盤研究(C).

津田裕子, 紺家千津子, 真田弘美, 大橋史弥: 革新的な観察手技によるおむつ内皮膚障害のアセスメントツールの開発と検証, 2022-2024, 学術研究助成基金助成金基盤研究(C).

玉井奈緒, 松本勝, 真田弘美, 高橋聡明, 仲上豪二郎: セルフエコーとAIケアリコメンデーションによる骨盤底筋訓練サポートシステムの開発, 2022-2024, 学術研究助成基金助成金挑戦的研究(萌芽).

渡邊直美, 鎌倉やよい, 三浦由佳, 真田弘美, 深田順子, 坂上貴之: 喉頭摘出者の食道発声トレーニングプログラムの構築と効果の検証, 2021-2024, 学術研究助成基金助成金基盤研究(C).

大場美穂, 真田弘美, 野村美香, 大江真琴, 峰松健夫, 竹原君江, 小林珠実, 土井英子: 透析患者に対するテーラーメイドケアを目指した非侵襲的な皮膚生理機能評価方法の開発, 2021-2024, 学術研究助成基金助成金基盤研究(C).

大江真琴, 真田弘美, 土屋紗由美: インドネシアにおける糖尿病足潰瘍予防プロトコルの実装研究, 2021-2024, 学術研究助成基金助成金国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B)).

松本勝, 須釜淳子, 河本敦夫, 三浦由佳, 真田弘美, 小路和幸, 仲上豪二郎, 玉井奈緒: 訪問看護師のための超音波検査技術遠隔学習

	システムの構築と在宅での実装, 2021-2024, 学術研究助成基金助成金基盤研究(B).
学内研究助成金	
研究助成金	
その他受賞等 受賞, 特許, 臨床活動	新田汐里, 峰松健夫, 富田早苗, 戸部浩美, 前田智徳, 真田弘美 : ドライスキン由来の痒み易知覚モデルラットにおける表皮及び真皮乳頭層でのC繊維数の増加, 受賞, 2024年看護理工学会学会賞, 2024. 11
社会貢献・地域貢献 公開講座 他団体との連携事業 国際交流 非常勤講師等 看護研究指導 学会や学外団体での活動	<p><u>社会貢献</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本学術会議：連携会員 2020. 10 ～現在 ：看護分科会委員 2020. 10 ～現在 ・国立研究開発法人科学技術振興機構：創発的研究支援事業アドバイザー 2023. 4 ～ 2026. 3 ・国立研究開発法人科学技術振興機構：次期戦略的イノベーション創成プログラム (SIP) 「統合型ヘルスケアシステムの構築」に係る検討タスクフォース 業務アドバイザー 2023. 4 ～現在 ・国立長寿医療研究センター：長寿医療研究費評価委員会 委員 2023. 4 ～ 2025. 3 ・公益社団法人長寿科学振興財団：長寿科学関連国際派遣事業 審査委員 2024. 5 ～ 2027. 3 <p><u>学会や学外団体での活動</u></p> <p>学外団体活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京大学：名誉教授 2022. 6 ～現在 ・一般社団法人次世代看護研究所：代表理事 2019. 6 ～現在 ・学校法人藤田学園：理事 2022. 4 ～ 2025. 3 ・株式会社アデランス：名誉アドバイザー（医療関連）2022. 10 ～ 2024. 11 ・テルモ生命科学振興財団：研究開発助成（海外）選考委員 2023. 4 ～ 2025. 3 ・株式会社タイカ：アドバイザー 2022. 6 ～ 2025. 6 ・ニチバン株式会社：独立社外取締役 2022. 6 ～ 2025. 6 ・株式会社ケーブ：学術顧問 2023. 4 ～ 2024. 3 <p><u>学会活動</u></p>

- ・日本糖尿病教育・看護学会：評議員 2024.9～2028定時社員総会まで
- ・一般社団法人日本創傷・オストミー・失禁理事会：監事 2017.6～現在
：評議員 2009.5～2025.3
- ・看護理工学会：監事 2019.10～現在
- ・日本褥瘡学会：評議員 1999.4～現在
- ・日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会：評議員 2002.2～現在
- ・一般社団法人日本老年看護学会：評議員（代議員） 2013.6～2028.6
- ・一般社団法人日本創傷治癒学会：名誉会員 2022.11～
- ・日本老年泌尿器科学会：名誉会員 2022.6～
- ・American Academy of Nursing：Fellow of American Academy of Nursing（FAAN） 2019.10～
- ・一般社団法人聖路加看護学会：評議員 2020.6～2024.6
- ・一般社団法人ライフサポート学会：理事 2016.6～現在
- ・一般社団法人日本医工ものづくりコモンズ：理事 2022.6～2026.5
：特別顧問 2024.6～2026.6
- ・日本医療経営実践学会：理事 2012.7～現在
- ・一般社団法人日本在宅ケア学会：在宅ケアイノベーション研究研修委員会委員2022.7～2024.社員総会終了後時
- ・一般社団法人日本がん看護学会：代議員 2023.2～2025年代議員選挙まで
- ・一般社団法人日本摂食嚥下リハビリテーション学会：評議員 2023.9～2025.7
- ・国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会：監事 2023.4～

講演会・セミナー

- ・真田弘美：MROラジオ「シゴトのツボ」, 2024.4
- ・真田弘美：「最新の褥瘡対策」, 第15回福井医師会地域包括ケア勉強会 in 福井, 2024.6
- ・真田弘美：「ナーシング・イノベーション」, 明祥株式会社 第61期決算報告会, 2024.6
- ・真田弘美：褥瘡対策2024, 令和6年度東海北陸ブロック交流会及び福井県訪問看護ステーション連絡協議定例会, 2024.11
- ・真田弘美：「看護×モノづくり」, かほく市商工会新春経営講演会, 2025.1
- ・真田弘美：褥瘡(ジョクソウ)医療の発展を牽引 影響力のある「世

界トップ2%」の科学者に選出! 真田弘美先生に聞く, FM軽井沢ラジオ大学, 2025.1

- 真田弘美: Technology to Tackle Pressure Injuries, Medical Frontiers, NHK World JAPAN, 2025.2
- 真田弘美: 未来の看護 ～次世代のナースをどう育成するか, 石川県看護連盟、石川県看護協会合同研修会, 2025.2
- 真田弘美: ナーシング・イノベーション2025, 福井大学博士後期課程開設記念特別講演会, 2025.3

新聞掲載等

- 真田弘美: 床擦れケアの看護師養成, 北國新聞朝刊, 2024.4
- 真田弘美: 「被災者のために活躍」 県立看護大、101人が入学, 北國新聞朝刊, 2024.4
- 真田弘美: ここに残り 命と向き合う, 朝日新聞朝刊, 2024.4
- 真田弘美: 知見生かし人材づくりを, 北國新聞朝刊, 2024.4
- 真田弘美: 災害時に役立つ知識を地域貢献する人材育成, 朝日新聞, 2024.5
- 真田弘美: ひと 能登半島地震の被災地にある石川県立看護大学の学長, 朝日新聞朝刊, 2024.06
- 真田弘美: 能登半島地震被災地における褥瘡ケア支援, エキスパートナースweb, 2024.6
- 真田弘美: 災害看護師を育成 県立看護大に新講座来年度開設, 北国新聞朝刊, 2024.08
- 真田弘美: 「世界トップ2%」科学者に選出 県立看護大・真田学長 看護大・障害評価で国内唯一, 北國新聞朝刊, 2024.12

国際交流

Editorial Board

- international World Journal, Editorial Advisory Board 2023.10～
- Journal of World Care, Editorial Advisor 2003.10～
- Journal of Gerontology & Geriatric Research, Editorial Board Member 2012～現在
- Chronic Wound Care Management and Research (New Zealand), Editor (Honorary editorial board 2013.5～
- Journal of Tissue Viability, Editorial Board 2018.4～
- Advances in Skin and World Care, Editorial Board 2018～
- Nursing Outlook, Reviewer

地域貢献

- ・河北地区日中友好協会：顧問 2022.4～
- ・石川県ユニセフ協会：第6期評議員 2022.4～2024.3
- ・独立行政法人地域医療機関機能推進機構金沢病院：地域連絡協議会委員 2023.4～2025.3
- ・北陸公衆衛生学会：北陸公衆衛生学会理事 2022.4～
- ・第37回JAPANTENT：開催委員会参事 2024.6～事業終結まで
- ・石川県医療計画推進委員会：委員 2022.12～2026.11
- ・石川県医療計画推進委員会 医療従事者確保対策部会（石川県地域医療対策協議会）：看護職員部会委員 2023.7～

非常勤講師等

- ・東京大学大学院医学系研究科：非常勤講師 2024.4～2025.3
- ・石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター：皮膚排泄ケア概論 2024.4～2025.3

その他

- ・米国スタンフォード大学とElsevier社による世界トップ2%科学者リストへの選出

6.2 人間科学領域

所属（大講座等）・職位	人間科学領域 教授	氏名	小林 宏光
	人間科学領域 教授		垣花 渉
	人間科学領域 准教授		松田 幸久
	人間科学領域 講師		工藤 義信
	人間科学領域 講師		中嶋 優太
	人間科学領域 講師		佐能 唯

評価領域	個人の記載
研究業績 書籍（著書）	
学術論文	<p>< 査読有 ></p> <p>石井和美, *松本美晴, 小林宏光: 圧力測定フィルムを用いた清拭圧測定の有用性とその活用. 看護理工学会誌 (印刷中)</p> <p>*三輪早苗, 小林宏光: 心的時間測定の咀嚼・嚥下機能への応用. 石川看護雑誌, vol. 22, 1-6.</p> <p>垣花渉, *中嶋いまり, *山崎瑛仁: 能登半島地震後における住民と看護学生の協働による健康支援活動のプロセスとその影響. 地域活性研究, 22, 131-140, 2025.3</p> <p>Hirose, M., Ogawa, K., Yamashita, H., Nagasaki, N., & Matsuda, Y: Quantitative evaluation of problem-based learning outcomes on student pharmacists' patient care process in Japan. Pharmacy Education, 24(1), 583-589. https://doi.org/10.46542/pe.2024.241.583589, 2024. 9</p> <p>広瀬雅一, 松田幸久, 他5名: 改訂モデル・コアカリキュラムに準拠した薬局実務実習への理解と受入意欲の向上を指向したワークショップの効果. 薬学教育, 7, 247-258, 2024. 11</p> <p><u>Kudo Y</u>: Book of the Knight of La Tour Landry. Sauer MM, Watt D, McAvoy LH: The Palgrave Encyclopedia of Medieval Women's Writing in the Global Middle Ages. Palgrave Macmillan, Cham. 2024.10</p> <p>中嶋優太: 若き西田幾多郎の生の倫理—新資料「倫理学講義ノート」—におけるギュイヨー受容. 哲学研究, 第611号, 京都哲学会, 京都, 57-79, 2024. 2</p>

	<p><査読無></p> <p>藤本元啓, <u>垣花渉</u>, 馬場智一, 東俊之: 高校の「総合的な探究の時間」を大学はどのように支援できるのか—初年次教育の将来を見据えて—. 初年次教育学会誌, 17, 28-32, 2025. 3</p> <p>*<u>中嶋いまり</u>, <u>垣花渉</u>: 令和6年能登半島地震における被災者と災害ボランティアをつなぐコーディネーターの役割: 経験から得た復興への新たな知見. 石川看護雑誌, 22, 55-60, 2025. 3</p> <p><u>松田幸久</u>: 宝達志水町における祭礼行事のアーカイブ作成活動. 石川看護雑誌, 22, 23-28, 2025. 3</p> <p><u>松田幸久</u>, 高橋愛結, 浜辺麻由, 又吉志織: 災害時の避難所施設における温湿度計測の展開—計測時の道具の開発を中心として—. 石川看護雑誌, 22, 49-54, 2025. 3</p>
<p>その他の原稿</p>	<p><u>垣花渉</u>: (巻頭言) 2025年の初年次教育を想う～探究を「楽しむプロセス」のすすめ. 初年次教育学会誌, 17, 1-2, 2025. 3</p> <p><u>垣花渉</u>, *<u>中嶋いまり</u>, *<u>山崎瑛仁</u>, *<u>加藤月菜</u>, <u>光澤早弥花</u>: 被災高齢者等の健康管理, 2024年度大学・地域連携アクティブフォーラム, 金沢, 2025. 2, 令和6年度地域課題ゼミナール支援事業成果報告集, 55-60, 2025. 2</p> <p><u>中嶋優太</u>: 「論理講義ノート」(A08) 後半について/翻刻本文「論理講義ノート」. 西田幾多郎未公開ノート研究資料化 報告7 2023. 前田印刷株式会社出版部, 金沢, 39-103, 2023. 3</p>
<p>学会発表 (研究発表・ 招聘講演, パネリスト, 基調講演等)</p>	<p><u>小林宏光</u>, <u>橋本佳奈</u>, <u>山口琴香</u>, <u>山口茉桜</u>, <u>和田朱音</u>, <u>豆野友香</u>, <u>木下采香</u>, <u>陣出奈瑠</u>, <u>舩岡怜奈</u>: 高齢者体験キット着用が歩行動作に与える影響. 看護理工学会第12回学術集会, かほく市, 2024. 11</p> <p>*<u>松本美晴</u>, <u>立石礼望</u>, <u>小林宏光</u>, <u>橋口暢子</u>: 静脈の視認性と触知性が採血時の触診における触動作に及ぼす影響. 看護理工学会第12回学術集会, かほく市, 2024. 11</p> <p>*<u>荒井理那</u>, <u>佐能唯</u>, <u>千原裕香</u>, <u>小林宏光</u>: 輸液ポンプの輸液管理演習におけるMRゴーグルを用いた演習方法の開発, 第12回看護理工学会学術集会, かほく市, 2024. 11</p> <p><u>小林宏光</u>: 看護デザインと人間工学. 看護理工学会第12回学術集会, かほく市, 2024. 11</p> <p><u>澤田忠幸</u>: <u>垣花渉</u>: 1年次の大学適応感ならびにキャリア意識と3年次の汎用的技能の習得度との関連, 大学教育学会第46回大会, 関西国際大学, 2024. 6, 大学教育学会第46回大会発表要旨集録, 121-</p>

122, 2024

垣花涉, 瀬戸清華, 澤田忠幸: 自己調整学習方略を取り入れた大学生へのフィットネス教育がもたらす体力の変容, 大学教育学会第46回大会, 関西国際大学, 2024. 6, 大学教育学会第46回大会発表要旨集録, 157-158, 2024

成田秀夫, 山本啓一, 吉村充功, 菊地滋夫, 垣花涉: 2030年の初年次教育を構想する—激変する入学者選抜の現状に初年次教育はどのように対処すべきか, 初年次教育学会第17回大会, 東京家政大学, 2024. 8, 初年次教育学会第17回大会発表要旨集, 29, 2024

藤本元啓, 垣花涉, 馬場智一, 東俊之: 高校の「総合的な探究の時間」を大学はどのように支援できるのか—初年次教育の将来を見据えて—, 初年次教育学会第17回大会, 東京家政大学, 2024. 8, 初年次教育学会第17回大会発表要旨集, 30-33, 2024

渡邊淳子, 垣花涉: 「前のめり型」授業を創出するための学生参画の試み, 初年次教育学会第17回大会, 東京家政大学, 2024. 8, 初年次教育学会第17回大会発表要旨集, 50-51, 2024

吉村光輝, 黒田篤史, 池田幸應, 垣花涉: 令和6年能登半島地震報告, 地域活性学会第16回大会, 名古屋市立大学, 2024. 9, 地域活性学会第16回大会研究発表予稿集, 20, 2024

垣花涉: 能登半島地震における住民と看護学生の協働によるコミュニティ創出のプロセスとその効果, 地域活性学会第16回大会, 名古屋市立大学, 2024. 9, 地域活性学会第16回大会研究発表予稿集, 131-134, 2024

松田幸久: 選好判断がもたらす快感情と安静状態の定量化. 学内研究所生成果報告会. 2024. 8

松田幸久: 人の安静状態を定義する～何もしないでいる時の心的活動～. 令和6年度石川県立大学・石川県立看護大学合同FD研修会・研究発表会. 2024. 9

広瀬雅一, 高根浩, 佐藤英治, 松田幸久, 他2名: 教育用電子薬歴ソフトの開発と授業・演習における実践事例. 第43回広島県薬剤師会学術大会. 2024. 10

Kalas L, Miles LS, Tokunaga S, Kanno M, Kudo Y: Reflective Roundtable in Honor of Liz Herbert McAvoy and Naoë Kukita Yoshikawa (2), 59th International Congress on Medieval Studies, Virtual Session, 2024. 5

工藤義信: ピーター・イドリー『息子への教え』における女性読者, 西洋中世学会第16回大会, 富山, 2024. 6

	<p><u>工藤義信</u>：2通のナイチンゲール書簡，第12回看護理工学会学術集会，かほく，2024. 11</p> <p>山本伸裕，森下直貴，水野友晴，川口淳，<u>中嶋優太</u>：『哲学会雑誌』から見る明治期日本哲学の展開と伝統的思想基盤の関係，東アジア文化交渉学会，第16回国際学術大会，あわら温泉 清風荘，福井，2024, 5（コメンテーターとしてシンポジウムへ参加）</p> <p>森下直貴，山本伸裕，服部伸裕，<u>中嶋優太</u>：日本の文化伝統を「医学哲学」に導入する試み—21 世紀の医療倫理の新たな枠組みの構築のために—，第43回日本医学哲学・倫理学会大会，滋賀医科大学，滋賀，2024, 11, 3（シンポジウム）</p> <p><u>中嶋優太</u>：西田幾多郎新資料研究の現在，西田幾多郎没後八十周年記念シンポジウム，京都大学，京都，2025, 1, 25</p> <p>荒井理那，<u>佐能唯</u>，千原裕香，<u>小林宏光</u>：輸液ポンプの輸液管理演習におけるMRゴーグルを用いた演習方法の開発，第12回看護理工学会学術集会，かほく市，2024. 11</p>
<p>研究助成金・ 研究費等の獲得</p>	<p><科学研究費補助金> 本学教員が研究代表者 本学教員が分担者</p> <p><科学研究助成基金助成金> 本学教員が研究代表者</p> <p><u>工藤義信</u>：ピーター・イドリー教訓詩の伝播の実態を探るテキスト批評・人物研究・古写本学的分析，R3～R7，学術研究助成基金助成金基盤研究（C）</p> <p><u>工藤義信</u>：イドリー写本の制作条件をめぐる物質的側面からの追究と中流社会階層の書物文化の考察，R7～R9，学術研究助成基金助成金国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）</p> <p><u>中嶋優太</u>：西田『善の研究』前後の新資料からみた自由論 その形成の背景と発展の可能性，2023-2024，科学研究費助成研究活動スタート支援</p> <p><u>中嶋優太</u>：西田『善の研究』前後の新資料からみた人格論，2024-2028，科学研究費助成基金基盤研究（C）</p> <p>本学教員が分担者 <u>林聡太郎</u>，<u>松田幸久</u>，他3名：脊椎損傷者における屋外活動時での適</p>

	<p>正な体温維持に効果的な実用的対策の確立, 2023-2027, 基盤研究 (C)</p> <p>徳永聡子, 菅野磨美, 工藤義信: 中世イギリス文学における古典期聖女伝のテキスト伝播と受容の研究, R6 ~ R9, 学術研究助成基金助成金国際共同研究加速基金 (海外連携研究)</p>
学内研究助成金	<p>松田幸久: 選好判断がもたらす快感情の解明 ~眼球運動が導くリラックス効果についての検証~, 2024年度学内研究助成</p>
研究助成金	<p>本学教員が研究代表者</p> <p>垣花渉, *中嶋いまり, *山崎瑛仁, *加藤月菜, 光澤早弥花: 被災高齢者等の健康管理, R5, 公益社団法人大学コンソーシアム石川 地域課題研究ゼミナール支援事業 (300千円)</p> <p>松田幸久: 知恵と科学に基づいた避難所施設の安全性・利便性向上の検討. 2024-2027, 2024年度地域課題研究ゼミナール支援事業助成金</p> <p>本学教員が分担者</p>
その他受賞等 受賞, 特許, 臨床活動	<p>垣花渉: テレビ出演, NHK金沢「穴水町 避難所生活長期化 高齢者の健康づくり」, 2024. 4</p> <p>松田幸久ゼミ: 公益社団法人大学コンソーシアム石川地域課題研究ゼミナール支援事業奨励賞, 2025. 2</p> <p>工藤義信: 受賞, 日本中世英語英文学会奨励賞, 2024. 12</p> <p>中嶋優太: テレビ特集「能登半島地震をめぐる“モヤモヤ”語り合う場を」, NHK富山「NEWS富山人」2024, 7, 17</p>
社会貢献・地域貢献 公開講座 他団体との連携事業 国際交流 非常勤講師等 看護研究指導 学会や学外団体での活動	<p><委嘱状や依頼文書等が来たもの></p> <p>小林宏光: 論文査読, Journal of Physiological Anthropology</p> <p>小林宏光: 論文査読, International Journal of Environmental Research and Public Health</p> <p>小林宏光: 論文査読, Sensors (MDPI) (2回)</p> <p>小林宏光: 論文査読, 日本生理人類学会誌</p> <p>小林宏光: 非常勤講師, 「人間工学」講義担当, 高岡看護専門学校, 2024. 4-9</p>

小林宏光：千葉大学環境健康フィールド科学センター倫理審査委員，
2024. 4-2025. 3

小林宏光：かほく市デジタル田園都市構想総合計画推進会議 議長
2024. 10-2025. 3

小林宏光：第3次かほく市総合計画審議会 議長 2024. 10-2025. 3

垣花渉：健康長寿の秘訣“スモールチェンジ”招待講演，かほく市
健康レッスン，2024. 6

垣花渉：ウォーキングを楽しむために“つけたい”こと 招待講演，
津幡町スポーツ講習会，2024. 6

垣花渉：自律的な学習へ動機づける双方向性コミュニケーション授
業の実践 招待講演，大学コンソーシアム石川「高大連携セミナー
2024」，2024. 10

松田幸久：自己と他者のコミュニケーションスタイルに気づき、考え、
生かしてゆく，石川県青少年健全育成羽咋郡・市ブロック会議（宝
達志水町），2024. 7

松田幸久：学術雑誌「心理学の諸領域」編集委員会編集幹事

工藤義信：慶應義塾大学通信教育部「中世英文学史」科目指導員

工藤義信：公益財団法人尚志社 北陸地区奨学生選考委員

Kudo Y：Annotated Chaucer Bibliography日本国内出版文献解題報
告担当

中嶋優太：西田哲学会理事

中嶋優太：日本倫理学会主題別討議委員会

中嶋優太：日本エンドオブライフケア学会第7回学術集会企画運営委
員

中嶋優太：医学哲学・倫理学会2024年度年次大会実行委員

中嶋優太：哲学カフェ進行「震災後、モヤモヤすることは？」2024
年度能登高校第1回鳳雛ゼミ のとこうてつがくカフェ，石川県立能
登高校，2024, 10, 5

第12回看護理工学会学術集会 実行委員

<委嘱状や依頼文書等が来ていないもの>

垣花渉：初年次教育学会 理事

垣花渉：日本体力医学会 学会評議員

垣花渉：地域活性学会 北信越支部副支部長

垣花涉：星稜高校「総合的な探究の時間」講師，2024.4～7
垣花涉：石川県立羽咋高等学校「総合的な探究の時間」講師，2024.7
垣花涉：石川県立野々市明倫高等学校「総合的な探究の時間」最終発表会 講評，2024.12
垣花涉：令和6年度 羽咋・羽咋工業高校 探究・課題研究合同発表会 講評，2025.1
垣花涉：石川県国民健康保険団体連合会介護サービス苦情処理委員会 委員
垣花涉：かほく市空家等対策審議会 委員長
垣花涉：「健康サポート科学」非常勤講師，富山県高岡看護専門学校，2024.6～7

<委嘱状や依頼文書等が来ていないもの>

垣花涉：2024年度 初年次教育実践交流会 in 北陸 実行委員長，2024.9
垣花涉：2024年度 第2回初年次教育実践交流会 in 北陸 実行委員長，2025.2
垣花涉：健康長寿の秘訣“スモールチェンジ”，かほく市いきいきステーション公開講座，2024.9
垣花涉：シティーカレッジ授業「石川の市町、かほく市」授業コーディネーター，石川県政記念しいのき迎賓館（金沢市），2024.12
垣花涉：「ウォーキング事業」講師，津幡町笠谷地区，2024.10
垣花涉：「介護予防事業」講師，津幡町中条地区老人会，2024.11

松田幸久：温度・湿度からみる家の特徴を知ろう！，令和6年度石川県立看護大学による地域公開講座（かほく市），2024.11

6.3 健康科学講座

所属（大講座等）・職位	健康科学講座・教授	氏名	岩佐 和夫
	健康科学講座・教授		今井 秀樹
	健康科学講座・教授		今井 美和
	健康科学講座・教授		平居 貴生
	健康科学講座・准教授		市丸 徹

評価領域	個人の記載
研究業績 書籍（著書）	<p>岩佐和夫（分担執筆）：クエスチョンバンク 第113回看護師国家試験解説書. メディックメディア, 東京, 2024. 4</p> <p>岩佐和夫（監修）：Year Note 2026. メディックメディア, 東京, 2025. 3</p> <p>岩佐和夫（監修）：看護師・看護学生のためのレビューブック2026 J章 脳・神経疾患 2025. 3</p>
学術論文	<p><査読有></p> <p>中道淳子, 磯光江, 北山礼子, 今井秀樹：笑いヨガによる高齢アルツハイマー病患者のストレス状態と認知機能の変化 —唾液アミラーゼ活性値を指標として—. 看護科学研究, 24, 23-31, 2025</p> <p>今井美和, 亀田幸枝：HPVワクチンキャッチアップ接種事業対象女性の接種行動を促進する因子. 思春期学, 42(2), 313-325, 2024</p> <p>今井美和, 荒勢りら, 加藤玲音, 羽生心愛, 亀田幸枝：HPVワクチンキャッチアップ接種意向の関連要因：若年成人女性を対象としたインターネット調査. 厚生指標, 70(8), 16-24, 2024</p> <p><査読無></p> <p>岩佐和夫：重症筋無力症の新規病態:補体制御因子CD59による治療への可能性, BIO Clinica 40(2), 73-74. 2025</p>
その他の原稿	
学会発表（研究発表・招聘講演, パネリスト, 基調講演等）	<p>岩佐和夫, 古川裕, 吉川弘明, 野崎一朗, 小松潤史, 篠原もえ子, 小野賢二郎：重症筋無力症患者の外来でのステロイド使用状況の報告, 第36回日本神経免疫学会学術集会, 富山, 2024. 10, Neuroimmunology 29(1), 272,</p> <p>Hiroaki Yoshikawa, Yumi Adachi, Yosikazu Nakamura, Nagato Kuriyama, Hiroyuki Murai, Yoshiko Nomura, Yasunari Sakai,</p>

Kazuo Iwasa, Yutaka Furukawa, Akitaka Higashi, Makoto Matsui, Satoshi Kuwabara: Neuroimmunology Taskforce Factors influencing the severity of myasthenia gravis: Comparison of studies in 2006 and 2018, 第65回日本神経学会学術大会/第19回アジア・オセアニア神経学会議 (AOCN2024), 東京, 2024.5, 臨床神経学 64巻 suppl: S261

Kazuo Iwasa, Karin Kuo, Rena Takahashi, Yuka Nagaoka, Miwa Imai, Takao Hirai: Myoblast differentiation induced expression of complement regulatory proteins and CD59 expression on the membrane of myotubes was the uniquely clustering pattern. AOMC-JMS 2024: Joint Conference of the 22nd Annual Meeting of Asian and Oceanian Myology Center and the 10th Annual Meeting of Japan Muscle Society, Nara, September 2024, Program and Abstract, 390

牛村春奈, 今井秀樹, 日高未希恵, 室野奈緒子, 山路朋子, 桜井志保美: 高齢女性における 基本チェックリスト判定と口腔関連QOLとの関連, 第29回日本在宅ケア学会学術集会, 鎌倉, 2024.8.

Momoka Masuda, Chiho Goto, Hideki Imai, Mayumi Ohnishi, Masahiro Umezaki: Associations of the Dietary Inflammatory Index with Disability and Subjective Health among Japanese Older Adults in Japan, 55th Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health (APACPH) Conference 2024, Busan, South Korea, 2024.10

Minako Kato, Hideki Imai, Hitomi Nakamura, Keiko Fujita: Survey of attitudes toward image reading by nursing students and nurses in their first to third year of hospital employment, 28th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS). Seoul, Korea, 2025.2

今井美和, 亀田幸枝: HPVワクチンキャッチアップ接種事業対象者の接種行動関連要因, 第43回日本思春期学会総会・学術集会, 神戸, 2024.8, 思春期学, 43(1), 110-111, 2025.4

亀田幸枝, 今井美和: HPVワクチン未接種女性におけるキャッチアップ接種意向の関連要因, 第43回日本思春期学会総会・学術集会, 神戸, 2024.8, 思春期学, 43(1), 111, 2025.4

その他の発表

	<p>吉川弘明, 足立由美, 栗山長門, 村井弘之, 本村政勝, 横田隆徳, 畑中裕己, 鶴沢顕之, <u>岩佐和夫</u>, 古川裕, 東昭孝, 桑原聡: 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) が重症筋無力症の発症に及ぼした影響 一. 厚生労働省難病患者データ及び小児慢性特定疾病児童等データの解析—令和6年合同班会議, 東京, 2025. 1, 厚生労働省難治性疾患政策研究班 (神経免疫班) AMED難治性疾患実用化研究班 令和6年合同班会議抄録集, 2025. 1</p> <p>吉川弘明, 足立由美, 中村好一, 栗山長門, 村井弘之, 野村芳子, 酒井康成, <u>岩佐和夫</u>, 古川裕, 松井真, 東昭孝, 桑原聡: 重症筋無力症の治療における年齢階層別検討 (50歳未満と50歳以上) —全国疫学調査2006と2018のデータセットの比較— 厚生労働省難病患者データ及び小児慢性特定疾病児童等データの解析—令和6年合同班会議, 東京, 2025. 1, 厚生労働省難治性疾患政策研究班 (神経免疫班) AMED難治性疾患実用化研究班 令和6年合同班会議抄録集, 2025. 1</p> <p>Takao Hirai, <u>Kazuo Iwasa</u>, <u>Hideki Imai</u>: Nuclear receptor ROR α negatively regulates brown adipogenesis reprogramming in C2C12 myoblasts, 第130回日本解剖学会/第102回日本生理学会/第98回日本薬理学会合同大会 合同大会, 千葉, 2025. 3</p> <p><u>Kazuo Iwasa</u>, Karin Kuo, Rena Takahashi, Yuka Nagaoka, <u>Miwa Imai</u>, <u>Takao Hirai</u>: Myoblast differentiation induced expression of complement regulatory proteins and CD59 expression on the membrane of myotubes was the uniquely clustering pattern, Joint Conference of the 22nd Annual Meeting of Asian Oceanian Myology Center and 10th Annual Meeting of Japan Muscle Society (AOMC-JMS 2024), Nara, 2024. 9</p>
<p>研究助成金・ 研究費等の獲得</p>	<p><科学研究助成基金助成金></p> <p>本学教員が研究代表者</p> <p><u>今井秀樹</u>: 看護学生・看護師を対象とした画像読影学習法の開発, R6 ~ R8, 基盤研究(C)</p> <p><u>今井美和</u> (赤祖父美和), <u>亀田幸枝</u>, <u>河合美佳</u>, 奥寺浩樹: 思春期男子のHPV関連疾患予防のための親への啓発プログラムの開発, R6 ~ R9, 基盤研究(C)</p> <p><u>平居貴生</u>: 生物時計システムと運動器疾患に着目したフレイル診断法の確立と高齢者ケアへの応用, R6 ~ R9, 基盤研究(B)</p>

	<p>本学教員が分担者</p> <p>金子美千代, <u>今井秀樹</u>ほか：地域の死生観に基づく尊厳ある意志決定支援モデルの開発, R6～R8, 基盤研究(C)</p> <p>横山淳美, <u>今井秀樹</u>ほか：中山間地域在住高齢者に向けた遠隔診療ケアモデルの実践的研究, R6～R8, 基盤研究(C)</p>
学内研究助成金	<p><u>岩佐和夫</u>：疾患治療に向けた補体制御因子発現メカニズムの解明, 2024年度学内研究助成</p> <p><u>平居貴生</u>：末梢時計の新規生物作用と交感神経制御に関する基盤研究. 2023-2024, 学内研究助成</p>
研究助成金	<p>本学教員が研究代表者</p> <p>本学教員が分担者</p>
その他受賞等 受賞, 特許, 臨床活動	<p><u>市丸徹</u>：資格取得, 防災士, 2024.12</p>
社会貢献・地域貢献 公開講座 他団体との連携事業 国際交流 非常勤講師等 看護研究指導 学会や学外団体での活動	<p><委嘱状や依頼文書等が来たもの></p> <p><u>岩佐和夫</u>：講演「認知症の予防、介入、ケア2024」, 金沢市医師会もの忘れ健診症例検討会, 金沢健康プラザ大手町東館大研修室&WEB配信, 2025.2.28</p> <p><u>岩佐和夫</u>：講演「実臨床における重症筋無力症治療」, ジルビスク・リスティエゴ発売講演会 in 石川. 2024.4.10 金沢</p> <p><u>岩佐和夫</u>：講演「抗AChR抗体陽性重症筋無力症への抗FcRn抗体フラグメント製剤の使用経験-製剤の使い分けに関する考察-」, 金沢Neurology先端セミナー, 2024.8.28 金沢</p> <p><u>岩佐和夫</u>：講演「重症筋無力症治療における糖質コルチコイド薬を考える」, 第170回日本神経学会東海北陸地方会イブニングセミナー. 2024.11.16 金沢</p> <p><u>岩佐和夫</u>：指導会議「北陸エリア重症筋無力症アドバイザーボード」. 2024.11.19 オンライン</p> <p><u>岩佐和夫</u>：講演「かわる神経免疫疾患の治療ー重症筋無力症、視神経脊髄炎を中心としてー」, 第94回日本内科学会北陸支部生涯教育講演会. 2025.3.9 金沢</p> <p><u>岩佐和夫</u>：金沢大学教育教員, 金沢大学医学類4年生系統講義「末梢神経障害」, 2025.1.17</p> <p><u>岩佐和夫</u>：加賀脳卒中地域連携協議会 理事</p>

岩佐和夫：金沢市医師会 生涯教育委員会、認知症健診精度委員会
岩佐和夫：日本神経学会 代議員
岩佐和夫：日本神経免疫学会 評議員
岩佐和夫：日本神経感染症学会 評議員
岩佐和夫：日本神経学会ガイドライン委員会
岩佐和夫：神経内科懇話会 世話人
岩佐和夫：石川脳血管障害研究会 世話人
岩佐和夫：金沢大学附属病院 臨床診療従事者（脳神経内科）
岩佐和夫：国立病院機構医王病院 嘱託医・看護研究指導
岩佐和夫：小松ソフィア病院 脳神経内科嘱託医

今井秀樹：長崎大学医学部非常勤講師
今井秀樹：羽咋市国民健康保険運営協議会委員
今井秀樹：羽咋市情報公開及び個人情報保護審査委員会委員
今井秀樹：羽咋市広域圏事務組合情報公開及び個人情報保護審査委員会委員
今井秀樹：環境省化学物質の内分泌かく乱作用に関連する報告の信頼性評価作業班班員

今井美和：組織ハズオン，第12回看護理工学会学術集会 2024.11.2
今井美和：日本病理学会 学術評議員
今井美和：石川県奨学生選考審査会委員
今井美和：石川県公害審査会委員
今井美和：石川県環境審議会専門委員

平居貴生：公益社団法人大学コンソーシアム石川情報発信専門部会
部会長
平居貴生：かほく市食育推進連絡会委員
平居貴生：大学コンソーシアム石川の公開講座「骨と健康」（計7回）

市丸徹：金城大学 病理学 非常勤講師 2024.9～2025.2
西本壮吾，市丸徹：金城大学 生理学実習 非常勤講師 2024.9～
2025.2

<委嘱状や依頼文書等が来ていないもの>

岩佐和夫：FMかほく なるほどインタビュー 2024.8.19
岩佐和夫，牛村春奈(企画)

講演1：金沢大学大学院 脳神経内科学教授 小野賢二郎先生
演題目：「レビー小体病（パーキンソン病）のバイオマーカーと治療

の可能性」

講演2： 国立病院機構 仙台西多賀病院院長 武田 篤先生

演題目：「パーキンソン病とはどんな病気か？治療の進歩と災害に備え日常生活で気をつけること」

リハビリ教室： KMCパーキンソン病体操研究会のスタッフによるリハビリ教室

地域ケア総合センター事業，第6回パーキンソン病いきいきリハビリ教室（石川県立図書館，金沢市）． 2024. 9. 7

岩佐和夫，牛村春奈(企画)

講演1： 北陸大学 理学療法科 教授 大畑光司先生

演題目：「パーキンソン病における歩行障害とその対策—練習方法とリハビリテーションロボットの紹介—」

講演2： 金沢大学 臨床薬学研究室 助教 石田奈津子先生

演題目：「パーキンソン病と向き合うためのくすりの話」

リハビリ教室： KMCパーキンソン病体操研究会のスタッフによるリハビリ教室

地域ケア総合センター事業，第7回パーキンソン病いきいきリハビリ教室（しいのき迎賓館，金沢市）． 2025. 3. 20

今井美和：若者のHPV関連疾患を予防するシステムづくり，石川県立大学との合同発表会，2024. 9. 13

平居貴生：食品技術研究者ネットワーク幹事

市丸徹：地域ケア事業「能登のいきがづくり応援事業」，能登町白丸公民館，食事会・茶話会，2024. 9. 18

市丸徹：地域ケア事業「能登のいきがづくり応援事業」，能登町白丸公民館，白丸公民館まつり，2025. 3. 2

6.4 基礎看護学講座

所属（大講座等）・職位	基礎看護学講座・教授	氏名	石川 倫子
	基礎看護学講座・准教授		寺井梨恵子
	基礎看護学講座・准教授		木田 亮平
	基礎看護学講座・講師		南條 裕子
	基礎看護学講座・講師		田村 幸恵
	基礎看護学講座・講師		石井 和美
	基礎看護学講座・助教		瀬戸 清華
	基礎看護学講座・助教		千田明日香
	基礎看護学講座・臨時助手		浅谷 純菜

評価領域	個人の記載
研究業績 書籍（著書）	
学術論文	<p><査読有></p> <p>金谷和可菜，高橋真美，加藤克典，<u>石川倫子</u>：COVID-19流行期の臨地実習における看護学生の手指衛生および手荒れ予防行動と手荒れに関する実態. 看護実践学会誌，88-94，36(2)，2025.3</p> <p>燕真理子，丸岡直子，<u>石川倫子</u>：教育担当者がスタッフ看護師を新人看護師教育に巻き込むためにとる行動. 看護実践学会誌，36(1)，1-12，2024.9</p> <p><u>Kida, R.</u>, Fujitani, K., & Matsushita, H. : (2024). Impact of collaborative leadership, workplace social capital, and interprofessional collaboration practice on patient safety climate. <i>Journal for Healthcare Quality: Official Publication of the National Association for Healthcare Quality</i>, 46(5), 268-275.</p> <p><u>Kida, R.</u>, Ogata, Y., & Nagai, S. : (2024). Uneven distribution of stressful working conditions among Japanese nurses: a secondary analysis of nurses with and without children. <i>Industrial Health</i>, 62(3), 195-202.</p> <p>Ishii, K., Takemura, Y., & <u>Kida, R.</u> : (2024). Relationship among group learning, individuals' and groups' internalization of evidence-based practice, and nurses' sustainment of the practice: a cross-sectional study. <i>Journal of Health Organization and Management</i>, 38(5), 705-723.</p>

	<p>Takahashi T, Oyama Y, Sakuramoto H, Tamoto M, Sato M, <u>Nanjo Y</u>, Hosoi S, Unoki T : Nurses' Attitudes, Practices, and Barriers to Assessing Symptoms of Discomfort in Mechanically Ventilated Patients: A Cross-Sectional Study. SAGE open nursing, 2024</p> <p><u>石井和美</u>, <u>松本美晴</u>, <u>小林宏光</u> : 圧力測定フィルムを用いた清拭圧測定の有用性とその活用. 看護理工学会誌, 12, 141-146, 2025</p> <p><u>宮永葵子</u>, <u>杉森千代子</u>, <u>松井希代子</u>, <u>石井和美</u> : フィジカルアセスメントの授業におけるゲーミフィケーション活用の効果, 日本看護学会誌, 19(2), 122-127.</p> <p><査読無></p> <p><u>石川倫子</u>, <u>瀬戸清華</u>, <u>千田明日香</u>, <u>寺井梨恵子</u>, <u>田村幸恵</u> : 住み慣れた街で生ききるための在宅療養移行支援に向けての研修活動ー奥能登4病院とともに歩んだ6年ー. 石川看護雑誌, 22, 7-13, 2025. 3</p>
<p>その他の原稿</p>	<p><u>木田亮平</u> : (2025). 巻頭シリーズ 臨床と研究をつなぐ-若手研究者から看護管理学の発展に向けて・2 看護職がいきいき働ける持続的な組織・看護提供体制を目指して-幅広い視点による多様なアプローチ. 看護管理, 35(2), 95-100.</p> <p><u>田村幸恵</u> : 北里大学看護学部同窓会会報 (第28号) 寄稿</p>
<p>学会発表 (研究発表・ 招聘講演, パネリスト, 基調講演等)</p>	<p><u>北山哲也</u>, <u>石川倫子</u> : 2年目看護師が自己目標を達成するためにとる行動, 第28回日本看護管理学会学術集会, 名古屋, 2024. 8, 第28回日本看護管理学会学術集会ポケットプログラム集, P80, 2024</p> <p><u>日向千恵子</u>, <u>石川倫子</u>, <u>千田明日香</u>, <u>瀬戸清華</u> : 若手看護師がキャリア発達における課題を乗り越えるプロセス, 第28回日本看護管理学会学術集会, 名古屋, 2024. 8, 第28回日本看護管理学会学術集会ポケットプログラム集, P83, 2024</p> <p><u>酒井和彦</u>, <u>石川倫子</u>, <u>千田明日香</u> : 新人看護師教育における実地指導者が行うOn the Job Trainingの実施状況と関連要因, 第28回日本看護管理学会学術集会, 名古屋, 2024. 8, 第28回日本看護管理学会学術集会ポケットプログラム集, P80, 2024</p> <p><u>寺井梨恵子</u>, <u>石井和美</u>, <u>千田明日香</u>, <u>瀬戸清華</u>, <u>中嶋知世</u> : Timed up and Go Test観察時の看護師・看護学生・理学療法士の視点の特徴ーテキストマイニングによる分析, 日本看護研究学会第50回学術集</p>

会, 奈良, 2024. 8

木田亮平, 北村言, 森田光治良, 磯部環: 施設における認定看護管理者の有無と病棟の看護師充足度および在宅復帰率との関連. 第28回日本看護管理学会学術集会, 名古屋, 2024. 8

木田亮平, 石川倫子: 令和6年能登半島地震での災害関連死の特徴および起因となった生活上の要因: 新聞記事をもとにした分析. 第30回日本災害医学会学術集会, 名古屋, 2025. 3

中部真央, 田中政任, 原広司, 木田亮平: 魅力ある学会のあり方と期待~若手会員の声. 第62回日本医療・病院管理学会学術総会, 和光市, 2024. 10 (シンポジウム)

森田光治良, 矢坂泰介, 木田亮平, 北村言, 磯部環, 高橋好江, 池田真理, 仲上豪二郎: 心不全認定看護師配置の患者転帰に対する効果検証: DPCデータベースを用いた後ろ向きコホート研究. 第44回日本看護科学学会学術集会, 熊本, 2024. 12

南條裕子: 一般病棟におけるEarly Warning Systemの実装プロセスからみるEBPの実装に関する研究の実際と課題. 第20回 日本クリティカルケア看護学会学術集会 (シンポジウム: クリティカルケア看護における実装研究~これまでとこれから~), 2024. 6

南條裕子: 皮膚を守れるか? NPPマスクから皮膚を守るぞ! 第46回呼吸療法医学会学術集会 (シンポジウム: 呼吸関連デバイスによる合併症対策を標す) 2024. 6

新川都, 関根彩里, 丹羽若菜, 千田明日香, 中嶋知世, 瀬戸清華, 田村幸恵: 壮年期の慢性心不全患者が働きながら自己管理する中で体験した困難と対処. 日本看護研究学会第50回学術集会, 奈良, 2024. 8. 24, 第50回学術集会プログラム集, 42, 2024

垣花涉, 瀬戸清華, 澤田忠幸: 自己調整学習方略を取り入れた大学生へのフィットネス教育がもたらす体力の変容. 大学教育学会第46回大会, 神戸, 2024. 6, 大学教育学会第46回大会発表要旨集録, 157-158, 2024

Seto K., Senda A., Ishii K., Tamura Y., Nanjo Y., Terai R., Ishikawa N.: Support for the continuation of education in a school affected by the 2024 Noto Peninsula Earthquake, The 8th International Research Conference of World Society of Disaster Nursing, Hyogo, 2024. 8, WSDN2024 Abstract Book, 220, 2024

<p>研究助成金・ 研究費等の獲得</p>	<p><科学研究費補助金> 本学教員が分担者</p> <p><科学研究助成基金助成金> 本学教員が研究代表者</p> <p><u>石川倫子</u>, <u>藤内美保</u>, <u>寺井梨恵子</u>, <u>田村幸恵</u>, <u>瀬戸清華</u>, <u>千田明日香</u>: 診療看護師(NP)が患者・家族の症状マネジメント力を高める教育支援モデルの開発, 2023年度～2025年度, 基盤研究(C)</p> <p><u>木田亮平</u> (代表: 70万): 専門的教育を受けた看護管理者の配置と患者アウトカムとの関連の検証, R4, 科研費(若手研究)</p> <p><u>南條裕子</u>: 集中治療後の移行期ケアガイドの開発 科学研究費補助金若手研究(2024～2026年)</p> <p><u>田村幸恵</u>, <u>木森佳子</u>, <u>小林宏光</u>: 在宅療養患者への看護師による携帯エコーを使用した心不全評価の臨床的意義, 2020～2023, 学術研究助成基金助成金基盤研究(c)</p> <p><u>田村幸恵</u>, <u>小林宏光</u>, <u>石井和美</u>, <u>松本美晴</u>: 慢性心不全の増悪時に看護師が携帯エコーで内頸静脈を測定することの有用性, 2024～2026, 学術研究助成基金助成金基盤研究(c)</p> <p><u>石井和美</u>: 清拭による皮膚ダメージの可視化と皮膚を傷つけないケア技術の考案, R5～R8, 日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究(C)</p> <p><u>瀬戸清華</u>: ALS患者・家族のピアサポートの様相とピアサポート支援プログラムの試案の作成. R2～R6延長, 学術研究助成基金助成金若手研究</p> <p>本学教員が分担者</p> <p><u>林静子</u>, <u>任和子</u>, <u>丸岡直子</u>, <u>石川倫子</u>, <u>後藤彰彦</u>, <u>林篤司</u>: VR学習システムを活用した看護技術教育プログラムの開発と評価, R2～R6, 科学研究費補助金基盤研究(B)</p>
<p>学内研究助成金</p>	<p><u>寺井梨恵子</u>, <u>紺家千津子</u>, <u>峰松健夫</u>, <u>松本勝</u>, <u>佐能唯</u>, <u>千原裕香</u>, <u>大橋史弥</u>, <u>河合美佳</u>, <u>額奈々</u>, <u>室野奈緒子</u>, <u>高濱圭子</u>, <u>牛村春奈</u>: 大学生の主体的な学習を促進する教育DX導入の有効性の評価, 2023～2024年度</p>

<p>研究助成金</p>	<p>本学教員が研究代表者</p> <p>本学教員が分担者</p>
<p>その他受賞等 受賞, 特許, 臨床活動</p>	<p><u>寺井梨恵子</u> : 資格取得, 防災士, 2024. 5</p>
<p>社会貢献・地域貢献</p> <p>公開講座</p> <p>他団体との連携事業</p> <p>国際交流</p> <p>非常勤講師等</p> <p>看護研究指導</p> <p>学会や学外団体での活動</p>	<p><委嘱状や依頼文書等が来たもの></p> <p><u>石川倫子</u> : 日本看護管理学会 評議員</p> <p><u>石川倫子</u> : 日本看護管理学会 専任査読委員</p> <p><u>石川倫子</u> : 第28回日本看護管理学会学術集会口演発表座長</p> <p><u>石川倫子</u> : 第28回日本看護管理学会学術集会査読者</p> <p><u>石川倫子</u> : 日本看護学教育学会 評議員</p> <p><u>石川倫子</u> : 日本看護学教育学会 専任査読者</p> <p><u>石川倫子</u> : 日本看護学教育学会第34回学術集会査読者</p> <p><u>石川倫子</u> : 日本看護研究学会第50回学術集会査読者</p> <p><u>石川倫子</u> : 看護実践学会 理事</p> <p><u>石川倫子</u> : 看護実践学会 専任査読委員</p> <p><u>石川倫子</u> : 看護実践学会 第18回看護実践学会学術集会企画委員</p> <p><u>石川倫子</u> : 金沢医科大学病院特定行為研修部門運営委員会委員</p> <p><u>石川倫子</u> : 金沢医療センター特定行為研修管理委員会委員</p> <p><u>石川倫子</u> : 北陸大学薬学部「看護学」非常勤講師</p> <p><u>石川倫子</u>, <u>木田亮平</u>, <u>寺井梨恵子</u>, <u>田村幸恵</u>, <u>石井和美</u>, <u>南條裕子</u>, <u>瀬戸清華</u>, <u>千田明日香</u> : 2024年度石川県看護教員現任研修非常勤講師, 石川県, 2024. 7. 6, 8. 10, 9. 21, 11. 2</p> <p><u>石川倫子</u> : 認定看護管理者教育課程 (セカンドレベル) 非常勤講師, 石川県看護協会, 2024. 8. 7, 8. 16</p> <p><u>石川倫子</u> : 金沢医科大学病院特定行為研修 (OSCE) 非常勤講師, 金沢医科大学病院, 金沢医科大学病院, 2023. 9. 18</p> <p><u>石川倫子</u> : 新人看護職員研修 教育担当者研修講師, 石川県看護協会, 2024. 10. 7</p> <p><u>石川倫子</u> : 能登北部研修「在宅療養移行支援: 事例検討会」講師, 石川県看護協会能登北部地区, Web開催, 2024. 10. 26</p> <p><u>石川倫子</u> : 臨床看護マネジメント学会学術集会長講演座長, 臨床看護マネジメント学会, 金沢医科大学病院, 2025. 2. 9</p> <p><u>石川倫子</u> : 大学認証評価FD研修「看護教育のためのパフォーマンス評価」講師, 新潟県立看護大学, 2025. 3. 10</p> <p><u>寺井梨恵子</u> : かほく市介護認定審査員</p> <p><u>寺井梨恵子</u> : 北陸大学薬学部, 「看護」講義, 2024. 10. 11/10. 18</p>

寺井梨恵子：金城大学公衆衛生看護学専攻科，「地域と看護」講義，2024. 5. 31

寺井梨恵子：かほく市，かほく市いきいきシニア活動推進事業 令和6年度 生涯現役フォーラム「風水害24」，2024. 10. 30

寺井梨恵子：一般社団法人 日本臨床看護マネジメント学会，第16回日本臨床看護マネジメント学会学術研究大会，令和6年 能登半島地震復興支援に関する展示，2025. 2. 9

木田亮平：「看護研究」講師・アドバイザー，東京都立多摩総合医療センター，2024. 4～2024. 11

木田亮平：「看護研究」講師・アドバイザー，公立能登総合病院，2024. 5，2024. 2

木田亮平：日本医療・病院管理学会事業委員

木田亮平：講演「就業継続可能な働き方の現状と課題」，令和6年度赤十字医療施設東部ブロック看護部長会，2025. 1（招待講演）

南條裕子：日本集中治療医学会 評議員

南條裕子：第52回日本集中治療医学会学術集会査読委員

南條裕子：第52回日本集中治療医学会学術集会座長 2025. 3. 14

南條裕子：第31回JSEPTIC看護部会、診療看護師ワーキンググループ合同セミナー明日からもっとできる！クリティカルケアの合併症予防ケア2024. 11. 23

南條裕子：札幌市立大学大学院 講義EBPの実装に関する研究の実際と課題. 2025. 3. 17

田村幸恵：北陸大学薬学部「看護学」非常勤講師

田村幸恵：研究指導・講評，JCHO金沢病院，2024. 11. 7，2025. 3. 13

石井和美：看護実践学会 査読委員

石井和美：公立能登総合病院 看護研究指導・講評

瀬戸清華：令和6年度かほく市介護認定審査会委員

瀬戸清華：令和6年度宝達志水町介護認定審査会委員

瀬戸清華：南加賀保健福祉センター管内令和6年度小児慢性特定疾病児童等の保護者交流会「つながる 一発信しよう、誰かのために。受け取ろう、自分のために一」講師，2024. 11. 22

瀬戸清華：石川中央保健福祉センター管内令和6年度小児慢性特定疾病児童等の保護者交流会「慢性疾患をもつ子どもの子育ての工夫」講師，2025. 2. 19

<委嘱状や依頼文書等が来ていないもの>

寺井梨恵子：風水害24体験会, 石川県立看護大学, 2024. 7. 18

寺井梨恵子：石川県災害ボランティアコーディネーター活動, かほく市災害ボランティアセンター, 受付業務・一般ボランティア, 2024. 4. 13/10. 7

寺井梨恵子：かほく市災害ボランティアセンター中間報告会, 2024. 5. 14

寺井梨恵子：かほく市七窪公民館防災訓練参加・講評, 2024. 5. 26

寺井梨恵子：かほく市災害対策関係者会議, 2024. 7. 25

寺井梨恵子：かほく市宇気地区防災訓練参加・講評, 2024. 10. 6

寺井梨恵子：石川県災害ボランティアコーディネーター活動, 能登町災害ボランティアセンター, ニーズ受付, ボランティア受付・資材管理・帰着報告・ボランティア実施報告入力等, 2024. 4. 27/8. 11/10. 5

寺井梨恵子：石川県社会福祉協議会, 炊き出し, コンセールのと, 2024. 6. 30

寺井梨恵子：地域ケア事業「災害につよいまちづくり」, 珠洲市宝立町復興さくらまつり, 血圧測定・傾聴, 2024. 4. 21

寺井梨恵子, 石井和美, 南條裕子：地域ケア事業「災害につよいまちづくり」, 穴水町仮設住宅団地, 炊き出し, 2024. 6. 16

寺井梨恵子, 河合美佳：地域ケア事業「災害につよいまちづくり」, かほく市ほっこりカフェ (被災者カフェ), 2024. 7. 31/9. 30

寺井梨恵子, 河合美佳, 武山雅志, 曾根志穂：地域ケア事業「災害につよいまちづくり」, 能登町まつなみ第一団地, 健康サロン, 血圧測定・傾聴・クラフト, 2024. 11. 23/2025. 1. 25

寺井梨恵子：地域ケア事業「災害につよいまちづくり」, さわやか交流館プルート, 穴水町, 炊き出し, 2025. 3. 2

木田亮平：日本医療・病院管理学会若手会員の会世話人.

南條裕子：東京大学医学部附属病院 救急・集中治療科 届出研究員

南條裕子：レスピラトリーケアナーシングカンファレンス 監事

南條裕子：東京大学医学部附属病院看護職現任研修ラダーV看護研究 研究指導者

田村幸恵：能登半島地震ボランティア, 能登半島支援チーム (任意団体), 七尾市, 2024. 6. 29, 6. 30

田村幸恵：ラジオ出演, FMかほく「月曜なるほどインタビュー：早

期発見！かくれ心不全」, 2024. 2. 17

瀬戸清華：令和6年能登半島地震被災地におけるフェーズに応じた避難者等への健康支援：珠洲市こころの復興マルシェ 2024. 5. 26, 家屋状況調査2024. 8. 19

瀬戸清華：かほく市社会福祉協議会令和6年度ボランティア交流広場実行委員

6.5 母性看護学講座

所属（大講座等）・職位	母性看護学講座・教授	氏名	亀田 幸枝
	母性看護学講座・教授		米田 昌代
	母性看護学講座・講師		曾山 小織
	母性看護学講座・講師		桶作 梢
	母性看護学講座・助教		河合 美佳
	母性看護学講座・助教		野沢ゆり乃
	母性看護学講座・臨時助手		原 真佑子

評価領域	個人の記載
研究業績 書籍（著書）	<p>亀田幸枝：分担著，編著 細尾萌子，小田初美，副島和美，倉本孝子：助産師教育に活かすパフォーマンス評価ワークブック 導入のための初めの一步，担当部分：第Ⅱ部 事例編 2-2 分娩介助実習のルーブリックの事例(53頁-61頁) 総ページ数200頁，2024. 6. 12, 創元社(大阪)</p>
学術論文	<p><査読有></p> <p>今井美和，亀田幸枝：HPVワクチンキャッチアップ接種事業対象女性の接種行動を促進する因子，思春期学，42(2)，313-325，2024</p> <p>今井美和，荒勢りら，加藤玲音，羽生心愛，亀田幸枝：HPVワクチンキャッチアップ接種意向の関連要因 若年成人女性を対象としたインターネット調査，厚生学，70(8)，16-24，2024</p> <p>曾山小織：葉酸の補足と妊娠間隔に関する産科医療者からの産後の保健指導の実態と女性の意識．母性衛生，65(4)，694-701，2025. 1</p> <p>*島田明日華，桶作梢，濱耕子：日本における父親の育児時間に関連する要因についての文献検討．看護実践学会，36(2)，51-62，2025. 3</p> <p><査読無></p> <p>亀田幸枝，濱耕子，米田昌代，曾山小織，河合美佳，野沢ゆり乃，西村未来：周産期のシミュレーション教育で使用するルーブリックの作成と教育実践報告，石川看護雑誌，Vol. 22，15-22，2025</p> <p>曾山小織：受胎以前の葉酸サプリメント摂取促進．メディカル・サイエンス・ダイジェスト，51(2)，45-46，2025. 1</p>

<p>その他の原稿</p>	<p><u>米田昌代</u>：寄稿 特別シンポジウムその2「毎日の母乳育児の取り組みこそが防災の原点」1) 石川、富山県の分娩施設・そのときどうしたか アンケート調査からみる の発表を担当して、日本母乳の会 ニュースレター No. 89, 2024</p>
<p>学会発表（研究発表・ 招聘講演、 パネリスト、 基調講演等）</p>	<p><u>亀田幸枝</u>, <u>今井美和</u>：HPVワクチン未接種女性におけるキャッチアップ接種意向の関連要因, 第43回日本思春期学会総会・学術集会, 神戸, 2024.8, 思春期学, 43(1), 111, 2025.4</p> <p><u>今井美和</u>, <u>亀田幸枝</u>：HPVワクチンキャッチアップ接種事業対象者の接種行動関連要因, 第43回日本思春期学会総会・学術集会, 神戸, 2024.8, 思春期学, 43(1), 110～111, 2025.4</p> <p><u>米田昌代</u>：SNS・オンラインを活用した周産期喪失を経験した家族のセルフヘルプグループ・サポートグループの活動の実態と課題, 第38回日本助産学会学術集会, オンライン抄録集p70</p> <p><u>米田昌代</u>：シンポジウム1-2 災害と母乳育児について考える その2 “毎日の母乳育児の取り組みこそが防災の原点 石川、富山県の分娩施設・そのときどうしたか アンケート調査からみる, 第32回母乳育児シンポジウム, 2024.8</p> <p>*<u>尾田朋香</u>, <u>米田昌代</u>：若年女性の緊急避妊薬使用に対する助産師の認識とスイッチOTC化への支援に対する考え：10～20代女性の緊急避妊薬使用支援経験のある助産師への半構造化面接, 第38回日本助産学会学術集会, オンライン抄録集p64</p> <p><u>菅朱弥</u>, <u>水口眞理</u>, <u>米田昌代</u>：大切な人を失った哀しみに折り合いをつけるために必要なもの～グリーンケアカフェを振り返る～, 第7回日本エンドオブライフケア学会第7回学術集会抄録集, p87</p> <p>*<u>中橋奈智</u>, <u>曾山小織</u>, <u>河野向日葵</u>：特別養子縁組をした養親が子育てしやすい環境を整える過程－複線径路等至性モデリングによる一事例の分析－, TEAと質的探究学会第3回大会抄録集, 10, 2024.5.</p> <p><u>河野向日葵</u>, <u>曾山小織</u>, *<u>中橋奈智</u>：特別養子縁組をした養親が夫婦で協同して子への真実告知を行う過程－複線径路等至性モデリングによる一事例の分析－, TEAと質的探究学会第3回大会抄録集, 11, 2024.5</p>
<p>研究助成金・ 研究費等の獲得</p>	<p><科学研究助成基金助成金> 本学教員が研究代表者 <u>亀田幸枝</u>, <u>濱耕子</u>, <u>米田昌代</u>, <u>曾山小織</u>, <u>河合美佳</u>, <u>野沢ゆり乃</u>：周産期の助産実践能力形成を促すルーブリックの開発と有用性（研</p>

	<p>究課題/領域番号 19K10981) 2019-2024, 日本学術振興会科学研究費助成事業 基盤研究(C)</p> <p><u>亀田幸枝</u>, <u>今井美和</u> (赤祖父美和), <u>河合美佳</u>, <u>奥寺浩樹</u>: HPVワクチン接種のジェンダーイコール実現に向けた親への教育コンテンツの開発, R6~9</p> <p><u>米田昌代</u>: 周産期喪失に対するオンラインサポートグループミーティングシステムの開発と評価, 2020-2024, 科学研究費補助金基盤研究 (C) 学術研究助成基金助成金基盤研究(C)</p> <p><u>西村真実子</u>, <u>金谷雅代</u>, <u>千原裕香</u>, <u>米田昌代</u>, <u>曾山小織</u>: 虐待や育児困難に悩む母へのペアレンティングプログラムを活用した継続的支援の評価, 2019-2024, 科学研究費助成事業 基盤研究(C)</p> <p><u>河合美佳</u> 分担者: <u>濱耕子</u>, <u>亀田幸枝</u>, <u>今井美和</u>: 膀胱底の位置の縦断的計測による妊産褥婦の尿失禁リスク予測のための指標の探索, 2023-2026, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)</p>
<p>学内研究助成金</p>	<p><u>桶作梢</u>, <u>美濃由紀子</u>, <u>千原裕香</u>, <u>濱耕子</u>: AYA世代がんサバイバーのセクシュアリティに関する情報共有ツールの活用・教育方法の検討, R6, 石川県立看護大学学内研究助成</p>
<p>研究助成金</p>	<p>本学教員が分担者</p> <p><u>宮口和義</u>, <u>河合美佳</u>, <u>米田昌代</u>, <u>塚田久恵</u>, <u>米澤洋美</u>: 骨盤底筋群の収縮機能に及ぼす履物の影響—草履サンダルによる骨盤底筋フレイル予防の検証—, 石川県立看護大学と石川県立大学との共同研究助成, 2024</p>
<p>その他受賞等 受賞, 特許, 臨床活動</p>	<p>*<u>尾田朋香</u>, <u>米田昌代</u>: 若年女性の緊急避妊薬使用に対する助産師の認識とスイッチOTC化への支援に対する考え: 10~20代女性の緊急避妊薬使用支援経験のある助産師への半構造化面接, 第38回日本助産学会学術集会 優秀演題に選出</p>
<p>社会貢献・地域貢献 公開講座 他団体との連携事業 国際交流 非常勤講師等 看護研究指導 学会や学外団体での活動</p>	<p><委嘱状や依頼文書等が来たもの></p> <p><u>亀田幸枝</u>: 第32回母乳育児シンポジウム 実行委員</p> <p><u>亀田幸枝</u>: 一般社団法人日本助産学会 代議員</p> <p><u>米田昌代</u>: 日本看護学会学術集会 一般演題査読</p> <p><u>米田昌代</u>: 一般社団法人日本看護研究学会 専任査読委員</p> <p><u>米田昌代</u>: 一般社団法人日本助産学会 代議員</p>

第38回日本助産学会学術集会抄録原稿査読

米田昌代：日本母性看護学会 評議員 専任査読委員

第26回日本母性看護学会学術集会一般演題査読

米田昌代：看護実践学会 査読委員

米田昌代：日本看護教育学会 評議員 一般演題査読

米田昌代：公益社団法人大学コンソーシアム運営委員会委員

米田昌代：石川県看護協会第2地区 地区委員

米田昌代，岡本みさ子：令和6年度かほく市子育て支援事業「幼児NP」ファシリテーター，2024.8～9

米田昌代，千原裕香，西村真美子：令和6年度かほく市子育て支援事業「学童期NP」ファシリテーター，かほくくる（かほく市），2024.6～12

米田昌代：第32回母乳育児シンポジウム実行委員，2023.11～2024.8

桶作梢，河合美佳：性教育講座講師，かほく市立小学校（全6校），2024.9～2025.2

松本智里，千原裕香，桶作梢：石川県立中央病院看護研究指導，2024.4～2025.3

<委嘱状や依頼文書等が来ていないもの>

亀田幸枝，米田昌代：第32回母乳育児シンポジウム 査読委員

亀田幸枝：金沢がん哲学外来事務局

米田昌代，曾山小織，桶作梢，河合美佳他：ペリネイタル・グリーンフケア検討会企画・運営，2023.7.20

米田昌代：あかちゃんをお空へみ送った方の自助グループに対するサポート活動，通年

米田昌代，亀田幸枝，曾山小織，河合美佳：学部学生と助産学生・修了生の交流会，石川県立看護大学，2023.9.24

米田昌代：SIDS家族の会 医学アドバイザー

米田昌代：NPO法人ワークライフバランス北陸 副理事長

米田昌代：石川グリーンフケアの会 グリーンフケア・カフェ運営 隔月

あねざきしょうこ，桶作梢，他：石川県がん安心生活サポートハウスつどい場はなうめイベント「あいカフェ」企画・運営，金沢にじのま，2024.11.2

桶作梢，小田波優矢：石川県立図書館・石川県立看護大学連携事業「Sweet Time～こころとからだの性について話そう～Vol.1月経」企

画・運営，石川県立図書館，2025. 2. 27

6.6 小児看護学講座

所属（大講座等）・職位	小児看護学講座・教授	氏名	戸部 浩美
	小児看護学講座・講師		千原 裕香
	小児看護学講座・助教		後藤 亜希
	小児看護学講座・助教		西 真理子
	小児看護学講座・臨時助手		石崎由貴子

評価領域	個人の記載
研究業績	
書籍（著書）	
学術論文	< 査読有 > < 査読無 >
その他の原稿	
学会発表（研究発表・ 招聘講演、 パネリスト、 基調講演等）	<p><u>Yuka Chihara</u>, <u>Hiromi Tobe</u>: High School Students' Thoughts on "Being a Parent Yourself" after Participating in the "Think about Being a Parent Program (TBPP)": A Text Mining Analysis, International Society for the Prevention of Child Abuse and Neglect (ISPCAN) Congress, 2024.8, Sweden</p> <p><u>Hiromi Tobe</u>, <u>Yuka Chihara</u>: Resilience Workshop for parents to improve their emotional resilience and relationships with their children, partner and themselves, International Society for the Prevention of Child Abuse and Neglect (ISPCAN) Congress, 2024.8, Sweden</p> <p>*<u>多田里胡奈</u>, <u>千原裕香</u>, <u>後藤亜希</u>, <u>西真理子</u>, <u>戸部浩美</u>: スコーピングレビューによる日本の学校看護師に関する研究の現状と課題—地域の小中学校と特別支援学校の学校看護師の比較を通して—, 第71回日本小児保健協会学術集会, 2024.6, 札幌</p> <p><u>Mariko Nishi</u>, <u>Hiromi Tobe</u>, <u>Yuka Chihara</u>: Behind the Scenes of Japanese Special Adoption: The Reality of Supporting Birthmothers by Removing Invisible Barriers, 15th International Nursing Conference (INC) & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars(EAFONS), 2025.2, Korea</p> <p><u>多田里胡奈</u>, <u>千原裕香</u>, <u>後藤亜希</u>, <u>西真理子</u>, <u>戸部浩美</u>: スコーピングレビューによる日本の学校看護師に関する研究の現状と課題—</p>

	<p>地域の小中学校と特別支援学校の学校看護師の比較を通して一，第71回日本小児保健協会学術集会，2024.6,札幌,第71回日本小児保健協会学術集会講演集,83,235,2024</p> <p><u>Mariko Nishi</u>, <u>Hiromi Tobe</u>, <u>Yuka Chihara</u>: Behind the Scenes of Japanese Special Adoption: The Reality of Supporting Birthmothers by Removing Invisible Barriers, 15th International Nursing Conference(INC) & 28th East Asian Forum of Nursing Scholars(EAFONS), 2025, Korea, INC2025&EAFONS_Abstract Book, 393</p>
<p>研究助成金・ 研究費等の獲得</p>	<p><科学研究費補助金> 本学教員が研究代表者</p> <p>本学教員が分担者</p> <p><科学研究助成基金助成金> 本学教員が研究代表者</p> <p><u>千原裕香</u>, <u>後藤亜希</u>, <u>西村真実子</u>, <u>金谷雅代</u>: VRによる多様な家庭の子育て疑似体験を活用した子ども虐待防止支援プログラムの開発, 2023-2026, 科学研究費助成事業 基盤研究(C) R6年度直接経費 800千円</p> <p>本学教員が分担者</p> <p><u>金谷雅代</u>, <u>千原裕香</u>, <u>後藤亜希</u>: 学校で医療的ケアを担う看護師への視覚教材等を用いた包括的支援プログラムの構築, 2023-2026, 科学研究費助成事業 基盤研究(C) R6年度直接経費 80千円</p>
<p>学内研究助成金</p>	
<p>研究助成金</p>	<p>本学教員が研究代表者</p> <p>本学教員が分担者</p>
<p>その他受賞等 受賞, 特許, 臨床活動</p>	
<p>社会貢献・地域貢献 公開講座 他団体との連携事業 国際交流 非常勤講師等 看護研究指導 学会や学外団体での活動</p>	<p><委嘱状や依頼文書等が来たもの></p> <p><u>千原裕香</u>, <u>西村真実子</u>: 令和6年度かほく市子育て支援事業「乳児NP」ファシリテーター, 2025.2～3</p>

千原裕香, 後藤亜希, 米田昌代: 令和6年度かほく市子育て支援事業
「学童期NP」ファシリテーター, 2024.6 ~ 2025.2

松本智里, 千原裕香, 桶作梢: 石川県立中央病院 看護研究指導・
講評

戸部浩美, 千原裕香, 西真理子: シティカレッジ「レジリエンス・ワー
クショップ～人生を変える当たり前の魔法～」全7回

<委嘱状や依頼文書等が来ていないもの>

6.7 成人看護学講座

所属（大講座等）・職位	成人看護学講座・教授	氏名	紺家千津子
	成人看護学講座・教授		峰松 健夫
	成人看護学講座・教授		臺 美佐子
	成人看護学講座・准教授		松本 智里
	成人看護学講座・講師		大西 陽子
	成人看護学講座・講師		今方 裕子
	成人看護学講座・助教		瀧澤 理穂
	成人看護学講座・助教		額 奈々
	成人看護学講座・臨時助教		平岡 淳子
成人看護学講座・臨時助手	加藤 克典		

評価領域	個人の記載
研究業績 書籍（著書）	<p>紺家千津子：ストーマケアの基本/ABCD-Stomaケア. 2-5, 90-114, ストーマケアガイドブック. 照林社, 東京, 2024.6</p> <p>紺家千津子, 西澤祐吏：ストーマサイトマーキング部位の確認：腹直筋エコー, ポイントオブケア看護エコー：ポケットエコーで看護力アップ. 113-118. 照林社, 東京, 2024.9</p> <p>紺家千津子：わが国における褥瘡の疫学. 終末期の褥瘡. 7-12, 南山堂, 東京, 2025.3</p> <p>峰松健夫：終末期褥瘡ケアに役立つデバイス：ウンドブロッティング. 真田弘美, 石澤美保子, 玉井奈緒. 終末期の褥瘡. 南山堂(東京). 2025 ポイントオブケア・看護エコー・ポケットエコーで看護力アップ</p> <p>臺美佐子, 山野洋子：リンパ浮腫・慢性浮腫の評価. 83-87. 照林社, 東京, 2025.9</p>
学術論文	<p><査読有></p> <p>Ogai K, Hasegawa Y, Kato K, Takizawa R, Nuka N, Imakata Y, Onishi Y, Matsumoto C, Matsumoto M, Dai M, Konya C, Minematsu T: Validation of liquid-phase method of skin blot samples. Journal of Nursing Science and Engineering, 12: 10-16, 2024</p> <p>松本勝, 大西陽子, *下橋和也, *杉浦裕愛, *山本翔子, 大橋史弥, 峰松健夫, 真田弘美, 紺家千津子：初学者を対象とした非対面での膀胱エコー教育による技術習得度に対する効果検証 対面教育・遠隔ライブ教育・VRオンデマンド教育の比較, 看護理工学会誌, 12:</p>

1-9, 2024

Kato K, Hasegawa Y, Ogai K, Konya C, Minematsu T: Evaluation indicators for chronic dehydration: A scoping review. *Journal of Nursing Science and Engineering*, 11: 263-270, 2024

Hasegawa Y, Kato K, Ogai K, Konya C, Minematsu T: Need for a consensus definition of chronic dehydration: A scoping review. *Drug Discoveries & Therapeutics*. 18(2): 75-79. 2024.

倉園研士, 松原貴子, 紺家千津子, 北村美智, 森岡靖英, 南和寿, 五十嵐中: 便秘症を有する運動器慢性疼痛患者の経済的負担に関する調査. *新薬と臨床*, 74, 259-283, 2025

Oohashi F, *Katano S, *Miya E, Kimori K, Matsui H, Fujino N, Konya C: Reliability of inferior vena cava images visualized by self-monitoring echocardiography. *Journal of Nursing Science and Engineering*, 12(5), 2025

Yonezawa K, Higuchi S, Shimizu S, Minematsu T, Haruna M: Relationship between cytokines and face skin symptoms in newborns in two Japanese cities. *Skin Research and Technology*. 30(10): e70098. 2024. doi: 10.1111/srt.70098. Accepted Sep., Published Oct. 2024

Kunimitsu M, Minematsu T, Koudounas S, Sanada H, Nakagami G: Relationship Between Dysbiotic Wound Microbiota and Critical Colonization: Involvement of FOXP3-Positive Cells in Rats. *Annals of Plastic Surgery*. 93(5):617-623. 2024.11. doi: 10.1097/SAP.0000000000004092.

*窪田晃奈, 松本智里, 美濃由紀子, 峰松健夫, 紺家千津子, 牧野智恵, 江藤真由美, 臺美佐子: 思春期・若年成人 (AYA) 世代造血器がん患者の再発告知後の体験: 2事例へのインタビューによる質的研究. *看護実践学会誌*. 36 (2): 80-87, 2025

Ogai K, Hasegawa Y, Kato K, Takizawa R, Nuka N, Imakata Y, Onishi Y, Matsumoto C, Matsumoto M, Dai M, Konya C, Sanada H, Minematsu T: Optimization of the liquid-phase method for skin blot samples. *Journal of Nursing Science and Engineering*. Accepted Feb. 2025

Tsuchiya H, Abe-Doi M, Tomida S, Higashimura S, Haba D, Minematsu T, Sanada H, Nakagami G: Development and evaluation of a rapid skin taurine measurement device using skin blotting for the early detection of dehydration. *Japan Journal of Nursing Science*. In Press. Accepted Mar. 2025

市川佳映, 峰松健夫: 失禁関連皮膚炎のメカニズム解明とその予防と管理. 日本老年泌尿器科学会誌. 37(2): 9-13. 2024

Dai M., Nakagami G., Kobayashi N., Sato A., Sakuda H., Yoshizawa T., Masujima M., Arai Y., Ueda T., Tsuchiya S., Imakata Y., Nørregaard S, Moffatt C, Sanada H., Sugama J. : Recognition of guidelines and outcome measures for lymphoedema management among healthcare professionals in Japan: A cross-sectional survey. *Lymphoedema. Research and Practice*, in press, 2025 (筆頭著者)

Tasaki A⁺, Dai M⁺, Mawaki A., Koyanagi H., Kobayashi N., Sato K., Takizawa R., Sugama J. : Comprehensive and disease-specific quality of life in Japanese adolescents with primary lymphedema: A case series. *Lymphoedema Research and Practice*, 12 (1), 1-12, 2024. (筆頭著者) ⁺*Equal contributor*

Matsumoto C., Yang R., Okazaki M., Konya C., Dai M. : Feasibility of implementing a remote system for lymphoedema conservative therapy : a case report. *British Journal of Nursing*, 33 (13), 612-620, 2024 (責任著者)

Katayama M., Dai M. : Self-care education for edema control using MOBIDERM[®] in older patients with lower extremity lymphedema: two case studies. *Lymphoedema Research and Practice*, 11 (1), 1-8, 2024 (責任著者)

Jinno M., Dai M., Ito K., Ando, Toyosato-Nishibe S., Akiyoshi M., Noda S., Matsuda H., Tsujii N., Zennami M., Sugama J., Mano K. : Implementation of support meetings for patients undergoing outpatient chemotherapy by a multidisciplinary cancer team. *Fujita Medical Journal*, 2024. DOI <https://doi.org/10.20407/fmj.2024-005> (共同著者)

Mizutani H., Dai M., Jinno M., Nishida H., Kakuya C., Takai A., Saito Y., Hayashi S., Sugama J., Mano K. : Rectal contents and area in cone-beam computed tomography during intensity-modulated radiation therapy for prostate cancer. *Journal of Nursing Science Engineering*. 11, 247-254, 2024 (共同著者)

今方裕子, 牧野智恵, 高地弥里, 時山麻美, 松本智里, 臺美佐子 : 超音波画像診断装置を用いた浮腫観察技術習得のための教育プログラムの評価, *リンパ浮腫管理の研究と実践*, 11(1), 14- 20, 2024 (共同著者)

Ueda T, Tsuchiya S, Dai M., Sugama J, Kobayashi N, Nakagami

	<p>G, Sanada H: Educational needs of health care professionals managing genital edema/lymphedema: Findings from a survey in Japan. Lymphoedema Research and Practice, in press, 2025 (共同著者)</p> <p>*<u>山野洋子</u>, <u>木村雅代</u>, <u>脇和江</u>, <u>雨森結衣</u>, <u>吉田晃宏</u>, <u>牧野優香</u>, <u>松本智里</u>, <u>紺家千津子</u>, <u>臺美佐子</u>: タキサン系薬剤投与後に生じたリンパ浮腫患肢の改善しない皮膚硬化: 症例報告, リンパ浮腫管理の研究と実践, 12(1), 33-40, 2025 (責任著者)</p> <p><u>松本智里</u>, <u>牧野智恵</u>: コロナ禍でがん体験者ががんサロンに抱いた要望-がんサロンの活動休止を経験した体験者の語りから-. Palliative Care Research, 19(4), 299-305, 2024</p> <p><u>Onishi Y</u>, <u>Murai Y</u>, <u>Nakajima E</u>: Framework to elicit consent from lightly sedated mechanically ventilated intensive care patients in nursing practice, Japan Journal of Nursing Science 21(3) 2024.5.2</p> <p><査読無></p> <p><u>紺家千津子</u>: 場を問わない、皮膚・排泄ケアの質保証に向けて, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 28(1): 102-106, 2024</p> <p><u>紺家千津子</u>: 令和6年能登半島地震における褥瘡ケア支援, 皮膚科.7(3): 256-259, 2024</p> <p><u>臺美佐子</u>: 国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会 (ILFJ)における国際的学術活動の軌跡と今後の展望 -第12回 ILFJ学術集会を終えて-. リンパ浮腫管理の研究と実践, in press, 2025</p> <p><u>Dai M</u>: Advancing Nursing Care Through Robotics: Insights Gained from ICRA 2024 on Nursing Robotics and Future Perspectives. 石川看護雑誌(資料 投稿), in press, 2024.11.28</p>
<p>その他の原稿</p>	<p><u>峰松健夫</u>: 皮膚から健康をモニタリングする～看護理工学の挑戦～. 石川自治と教育, 初夏号: 2-11, 2024. 2024年5月10日発行</p>
<p>学会発表 (研究発表・ 招聘講演, パネリスト, 基調講演等)</p>	<p><u>紺家千津子</u>: 場を問わない、皮膚・排泄ケア領域におけるケアの質保証に向けて (理事長講演). 第33回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 下関, 2024.5, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 28(2), 59, 2024.5</p> <p><u>紺家千津子</u>: DESIGN-R2020の採点のコツと活用術 (教育講演). 第26回日本褥瘡学会学術集会, 姫路, 2024.9, 日本褥瘡学会誌,</p>

26(3): 303, 2024.8

紺家千津子, 石井光子, 峰松健夫, 臺美佐子, 松本勝, 北村言, 真田弘美: 令和6年能登半島地震: 褥瘡ケア支援システムの構築と運営 (シンポジウム). 第12回看護理工学会学術集会, かほく市, 2024.11, 看護理工学会学術集会抄録集, 55. 2024.10

紺家千津子: 能登北部地区の特徴と能登半島地震褥瘡ケア支援システムの構築 (シンポジウム). 第26回日本褥瘡学会学術集会, 姫路, 2024.9, 第26回日本褥瘡学会学術集会, 日本褥瘡学会誌, 26(3): 303, 2024.8

*福田未夢, *武田和日子, *黒橋明日加, 今方裕子, 峰松健夫, 臺美佐子, 紺家千津子: シーティングにポジショニングピローの使用による接触圧低減の検討. 第33回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 下関, 2024.5, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 28(2), 242, 2024.5

大貝和裕, 長谷川陽子, 戸部浩美, 加藤克典, 今方裕子, 大西陽子, 松本智里, 松本勝, 臺美佐子, 紺家千津子, 峰松健夫: 非紫外線間接照射のアトピー性皮膚炎改善効果. 第33回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 下関, 2024.5, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 28(2), 229, 2024.5

長谷川陽子, 大貝和裕, 加藤克典, 今方裕子, 大西陽子, 松本智里, 松本勝, 臺美佐子, 紺家千津子, 峰松健夫: I度褥瘡の予後を予測するスキンプロット検査の開発 細菌の影響を受けないATP抽出試薬の検討. 第33回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 下関, 2024.5, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 28(2), 212, 2024.5

加藤克典, *高松楓佳, *野村風花, 米澤洋美, 塚田久恵, 金子紀子, 室野奈緒子, 嶋雅奈恵, 長谷川陽子, 大貝和裕, 額奈々, 瀧澤理穂, 大西陽子, 今方裕子, 松本勝, 松本智里, 臺美佐子, 紺家千津子, 真田弘美, 峰松健夫: スキンプロッキングによる軽度認知障害スクリーニング法の開発: アミロイドβの検出と軽度認知障害同定精度. 第12回看護理工学会学術集会, かほく市, 2024.11, 看護理工学会学術集会抄録集, 71. 2024.10

大貝和裕, *宮崎愛, 長谷川陽子, 戸部浩美, *加藤克典, 瀧澤理穂, 額奈々, 今方裕子, 大西陽子, 松本智里, 松本勝, 臺美佐子, 紺家千津子, 峰松健夫: スキンプロッキングによるアトピー性皮膚炎患者のサイトカイン定量. 第12回看護理工学会学術集会, かほく市, 2024.11, 看護理工学会学術集会抄録集, 116. 2024.10

*今村魁星, 松本勝, 加藤克典, 大西陽子, 額奈々, 峰松健夫, 紺家千津子: 初学者を対象とした非対面での直腸エコー教育による技術

習得度に対する効果検証：対面教育・非対面教育の比較. 第12回看護理工学会学術集会, かほく市, 2024. 11, 看護理工学会学術集会抄録集, 71. 2024. 10

井上沙耶, 大出明日香, 北川敦子, 峰松健夫, 紺家千津子, 松崎恭一, 佐久間敦, 野村義宏: 低タンパク質食餌制限による皮膚脆弱モデルの創製. 第12回看護理工学会学術集会, かほく市, 2024. 11, 看護理工学会学術集会抄録集, 90. 2024. 10

*稲實瑠夏, 長谷川陽子, 大貝和裕, 加藤克典, 今方裕子, 大西陽子, 松本智里, 松本勝, 臺美佐子, 紺家千津子, 峰松健夫: 軽微な組織障害を検出するためのスキンプロットティングを用いたポイントオブATP 検査の妥当性・信頼性の検証. 第12回看護理工学会学術集会, かほく市, 2024. 11, 看護理工学会学術集会抄録集, 121. 2024. 10

*Inami R, Hasegawa R, Ogai K, Kato K, Nuka N, Onishi Y, Matsumoto M, Konya C, Minematsu T: Reliability and validity of skin blot examination for adenosine triphosphate to detect pressure-induced minor tissue damage. 2024 Wound Healing Society. Orlando World Center Marriott (Orlando, Florida). 2024/5/14-18

*Miyazaki M, Ogai K, Hasegawa Y, Tobe H, Kato K, Nuka N, Onishi Y, Matsumoto M, Konya C, Minematsu T: Skin blot examination for changes in systemic cytokine profiles induced by indirect irradiation of ultraviolet-free light on atopic dermatitis patients: an interventional pre-post study. 2024 Wound Healing Society. Orlando World Center Marriott (Orlando, Florida). 2024/5/14-18

Kato K, Minematsu T, Takizawa C, Tomida S, Kato Y, Oda Y, Hirata Y, Wakizaka M, Hasegawa Y, Ogai K, Nakagami G, Konya C, Sanada H: The promotion of critically colonized wound healing by cleansing with Soforo-fine bubbles. 2024 Wound Healing Society. Orlando World Center Marriott (Orlando, Florida). 2024/5/14-18

峰松健夫, 大貝和裕, 長谷川陽子, 脇坂都, 加藤頼子, 尾田友香, 吉田智, 平田善彦: ソホロファインバブルを用いて洗浄したクリティカルコロナイゼーション創における細菌の組織内分布. 第54回日本創傷治癒学会. 一橋講堂 (学術総合センター) (東京都千代田区). 2024/12/5-6

嶋雅奈恵, 米澤洋美, 塚田久恵, 室野奈緒子, 金子紀子, 石原亜美, 角谷美幸, 寺田恵理, 西紅羽, 橋本千愛, 橋本知佳, 宮下春菜, 峰

松健夫, 高松楓佳, 野村風花, 野口博史, 内藤泰男, 井上貴雄, 上田将也, 上野慶太, 石井良平: 地域在住高齢者のeスポーツ体験における効果検証 (第1報). 日本地域看護学会第27回学術集会. JR仙台駅AER (宮城県仙台市). 2024/6/29-30

室野奈緒子, 塚田久恵, 米澤洋美, 嶋雅奈恵, 金子紀子, 石原亜美, 角谷美幸, 寺田恵理, 西紅羽, 橋本千愛, 橋本知佳, 宮下春菜, 峰松健夫, 高松楓佳, 野村風花, 野口博史, 内藤泰男, 井上貴雄, 上田将也, 上野慶太, 石井良平: 地域在住高齢者のeスポーツ体験における効果検証 (第2報) - ストレスへの影響について -. 日本地域看護学会第27回学術集会. JR仙台駅AER (宮城県仙台市). 2024/6/29-30

長谷川陽子, 紺家千津子, 石井光子, 峰松健夫, 真田弘美: 1.5次避難所の褥瘡患者における栄養学的特徴と課題. 第24回北陸PEG・在宅栄養研究会. 石川県地場産業振興センター (石川県金沢市). 2024/10/5

坂本和大, 峰松健夫, 禰屋光男: スキンプロット法による筋損傷マーカーの動態評価と競技現場への応用. 第12回看護理工学会学術集会. 石川県立看護大学 (石川県かほく市). 2024/11/2-3

米澤かおり, 樋口幸, 清水咲月, 峰松健夫, 春名めぐみ: 日本の二地点における新生児の顔の皮膚トラブル症状と皮膚サイトカインの関連. 第12回看護理工学会学術集会. 石川県立看護大学 (石川県かほく市). 2024/11/2-3.

河邊かれん, 青井利哉, 峰松健夫, 中野いずみ, 北川敦子: 維持血液透析患者における皮膚特性の検討 - 皮膚分泌タンパク質Dermokineに注目して -. 第27回日本腎不全看護学会学術集会・総会. 富山国際会議場 (富山県富山市). 2024/11/9-10 大会長賞受賞

峰松健夫: 産学連携とCOI ~研究にまつわるCOIへの対応について啓発します! ~. 第33回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会. 海峡メッセ下関 (山口県下関市). 2024/5/25-26

峰松健夫: バイオとの出会いで広がる看護理工学の多様性 (ダイバーシティ). 第12回看護理工学会学術集会 (石川県かほく市). 2024/11/2-3

石井光子, 紺家千津子, 峰松健夫, 臺美佐子, 松本勝, 北村言, 大貝和裕, 長谷川陽子, 真田弘美: 令和6年能登半島地震における褥瘡ケア支援部会の活動からみえたこと. 第31回石川県看護学会 (石川県金沢市). 2024/11/16

*宮崎梓, 臺美佐子, 紺家千津子: 高齢ストーマ保有者の心理社会的側面におけるQOLに影響する問題: スコーピングレビュー, 第42回

日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会，福島，2025. 2. 8
*岡部静空，*松崎雅，松本智里，横野知江，臺美佐子：終末期がん患者のリンパ浮腫ケアに対する圧迫療法の実践—多職種による語りから—，第13回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会学術集会，神奈川，2024. 10. 5

*浅田夏菜，松本智里，今方裕子，臺美佐子：看護師へのアピアランスケアの周知プログラムの構築—がん看護に従事する看護師が抱くアピアランスケアの目的・意義の認識の実態調査—，第17回看護実践学会学術集会，石川，2024. 9. 14

Qiongai j., Shimizu M., Dai M., Yoshizawa T., Sato K., Otaka Y., Ozeki M., Koyama S., Okochi Y., Nakano N., Suzuki M., Usami M., Sugama J. : Reliability and Validity of the Quality-of-Life Measurement for Limb Lymphoedema. (LYMQOL) for Japanese women with upper extremity lymphedema. 15th INC & 28th EAFONS, Korea, 2025

Dai M. : How about Japan and Asia in general; the Asian treatment paths in chronic (lymph) oedema. (招聘講演) COMPAS (Compression APAC Summit) Meeting. Osaka, 2025, 3. 21. 22.

Dai M. : New methods of assessment in lymphoedema. (招聘講演) COMPAS (Compression APAC Summit) Meeting, Osaka, 2025, 3. 21. 22

牧野智恵，松本智里，中野妃佐恵，瀧澤理穂，*北川寿子：がんゲノムプロファイリングテスト (CGP) を受けた患者の検査結果後の思い，第39回日本がん看護学会学術集会，札幌，2025. 2，第39回日本がん看護学会学術集会抄録，499，2025

牧野智恵，松本智里，中野妃佐恵，瀧澤理穂，*北川寿子：がん遺伝子パネル検査を受ける患者の動機と結果の受け止めの多様な経験。第44回日本看護科学学会学術集会，熊本，2024. 12，第44回日本看護科学学会学術集会WEB抄録集，2024

牧野智恵，松本智里，中野妃佐恵，*北川寿子，瀧澤理穂：がんパネル検査で治療候補薬があったが戸惑いを示した一例，第7回日本エンドオブライフケア学会学術集会，金沢，2024. 10，第7回エンドオブライフケア学会第7回学術集会抄録集，8(2)，2024

松本智里，牧野智恵：コロナ禍のがんサロンにがん体験者が求める支援，第29回日本緩和医療学会学術大会/第37回日本サイコオンコロジー学会総会 合同学術大会，神戸，2024. 6，第29回日本緩和医療学会学術大会/第37回日本サイコオンコロジー学会総会 合同学術大会 WEB版抄録，S509，2024

	<p><u>大西陽子</u>, <u>中島恵美子</u> : 浅い鎮静における人工呼吸器装着患者から同意を引き出す看護実践の構造, 第44回日本看護科学学会学術集会, 熊本, 2024</p> <p><u>額奈々</u>, <u>沖田真依</u>, <u>川島和代</u> : 高齢者の術後せん妄予防のための看護介入に関する文献検討, 第12回看護理工学学会学術集会, 2024.</p> <p><u>額奈々</u>, <u>美濃由紀子</u> : 日本におけるトランスジェンダーへの看護に関する研究の動向と課題, 日本看護研究学会第50回学術集会, 2024</p>
<p>研究助成金・ 研究費等の獲得</p>	<p><科学研究助成基金助成金> 本学教員が研究代表者</p> <p><u>紺家千津子</u>, <u>真田弘美</u>, <u>須釜淳子</u>, <u>松本勝</u>, <u>大橋史弥</u> : 介護保険施設のリモート支援による最良な皮膚障害予防・管理実装モデルの構築, R4 ~ R7, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (B)</p> <p><u>峰松健夫</u>, <u>紺家千津子</u>, <u>禰屋光男</u>, <u>大貝和裕</u>, <u>真田弘美</u>, <u>仲上豪二郎</u> : 車いすアスリートにおける深部損傷褥瘡 (DTI) の早期同定法の確立. R6 ~ R8. 科学研究費基金基盤研究(B)</p> <p><u>臺美佐子</u>, <u>須釜淳子</u>, <u>山下修二</u>, <u>間脇彩奈</u>, <u>三浦由佳</u>, <u>大高洋平</u>, <u>瀬戸孝一</u>, <u>尾関恩</u>, <u>松本智里</u> : リンパ浮腫ケア選定のための超音波検査技術アセスメントと遠隔システムの確立, R5.4 ~ R9, 基盤研究 (B)</p> <p><u>臺美佐子</u>, <u>須釜淳子</u>, <u>山下修二</u>, <u>枋尾巧</u>, <u>藤井匡</u> : リンパ浮腫の蜂窩織炎再発予防に向けたアドバンストスキンケア方法の開発, R5.6 ~ R8.3, 挑戦的研究(萌芽)</p> <p><u>松本智里</u> : 下肢リンパ浮腫患者の足部の外観の特徴と室外用の靴の実態と困難感, R6 ~ R8, 科学研究費助成事業若手研究</p> <p><u>牧野智恵</u>, <u>松本智里</u>, <u>瀧澤理穂</u>, <u>*今方裕子</u> : がん遺伝子パネル検査を受ける患者の体験, R3 ~ R6, 科学研究費助成事業基盤研究(C)</p> <p><u>大西陽子</u> (2,730千円) : 浅い鎮静管理における人工呼吸器装着患者の固有反応の理解とその習得方法に関する研究, R4 ~ R6, 科学研究費助成事業 若手研究</p> <p>本学教員が分担者 <u>北川敦子</u>, <u>野村義宏</u>, <u>佐久間淳</u>, <u>峰松健夫</u>, <u>松崎恭一</u>, <u>紺家千津子</u> : スキンケアを惹起する皮膚脆弱モデルの創出から革新的な予防・治</p>

	<p>癒促進ケア方法の確立, R4 ~ R7, 学術研究助成基金助成金 (B)</p> <p>松井優子, 久村和穂, <u>紺家千津子</u>, <u>大貝和裕</u>: がん患者のアピアランス問題解決のための美容業と患者の互助を促すICTツールの開発, R4 ~ R6, 学術研究助成基金助成金基盤研究 (C)</p> <p>*<u>津田裕子</u>, <u>紺家千津子</u>, <u>真田弘美</u>, <u>大橋史弥</u>: 革新的な観察手技によるおむつ内皮膚障害のアセスメントツールの開発と検証, R4 ~ R6, 学術研究助成基金助成金基盤研究基盤研究 (C)</p> <p>三浦由佳, 須釜淳子, <u>紺家千津子</u>, <u>真田弘美</u>, 野口博史: 大睡眠中の誤嚥予防と安楽保持に最適な姿勢を促すロボティクスクッションの開発, R5 ~ R6, 学術研究助成基金助成金基盤研究挑戦的研究(萌芽)</p> <p><u>真田弘美</u>, <u>峰松健夫</u>, 仲上豪二郎, <u>大貝和裕</u>, <u>紺家千津子</u>: 滲出液エクソソームマーカー検出人工リポソームの開発: 創傷アセスメントの新たな展開, R4 ~ R7, 学術研究助成基金助成金基盤研究挑戦的研究(開拓)</p> <p>*<u>高木良重</u>, <u>紺家千津子</u>, 相良彩乃: 腹壁状況に応じたストーマ装具選択基準の開発と有用性の検証, R6 ~ R8, 学術研究助成基金助成金基盤研究基盤研究 (C)</p> <p>浅野きみ, <u>紺家千津子</u>, 野口美樹, 道合万里子, 中島由香里: 非造影CT画像における乳癌術後リンパ浮腫の予測ツールの開発, R2 ~ R6, 学術研究助成基金助成金基盤研究金基盤研究 (C)</p> <p>村山祐子, <u>臺美佐子</u>: リンパ浮腫患者の弾性ストッキング着用継続に向けたデザインによるアプローチ, R4.4 ~ R7.3, 基盤研究(C)</p> <p><u>今方祐子</u>, <u>松本智里</u>, <u>臺美佐子</u>: 乳がん患者に対するドセタキセル療法中に生じる下肢浮腫の早期発見方法の確立, R4.4 ~ R7.3, 基盤研究(C)</p> <p>*<u>今方裕子</u>, <u>松本智里</u>, <u>臺美佐子</u>: 乳がん患者に対するドセタキセル療法中に生じる下肢浮腫の早期発見方法の確立R6 ~ R8, 科学研究費助成事業基盤研究 (C)</p> <p>牧野真弓, <u>松本智里</u>, 他4名: 認知症患者へ身体拘束を回避した転倒予防ケアを行う看護師チームメンタルモデルの構築, R2 ~ R6, 科学研究費助成事業基盤研究(C)</p>
研究助成金	<p>本学教員が研究代表者</p> <p><u>臺美佐子</u>(代表200千円), <u>松本智里</u>, 山野洋子: 日本がん看護学会地方分科会運営助成金</p>

	<p>松本智里, 臺美佐子, 紺家千津子, 小川佳宏: 下肢リンパ浮腫患者に適した靴の開発: 足部の形状の特徴と靴内の環境に関する実態調査, R6, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会研究助成 (アルケア技術・研究助成)</p>
<p>その他受賞等 受賞, 特許, 臨床活動</p>	<p>河邊かれん, 青井利哉, 峰松健夫, 中野いずみ, 北川敦子: 第27回日本腎不全看護学会学術集会・総会 大会長賞 新田汐里, 峰松健夫, 富田早苗, 戸部浩美, 前田智徳, 真田弘美: 2024年度 看護理工学会 学会賞. 加藤克典, 高松楓佳, 野村風花, 米澤洋美, 塚田久恵, 金子紀子, 室野奈緒子, 嶋雅奈恵, 長谷川陽子, 大貝和裕, 額奈々, 瀧澤理穂, 大西陽子, 今方裕子, 松本勝, 松本智里, 臺美佐子, 紺家千津子, 真田弘美, 峰松健夫: 第12回看護理工学会学術集会 優秀演題賞 長谷川陽子, 紺家千津子, 石井光子, 峰松健夫, 真田弘美: 第24回北陸PEG・在宅栄養研究会 優秀賞</p> <p>軽度認知障害検出マーカー及びその使用. 特願2024-181346, 出願日: 2024/10/16. 出願人: サラヤ株式会社, 発明者: 峰松健夫, 大貝和裕, 長谷川陽子, 平田善彦.</p> <p>Dai M. : JWC Awards 2025, Gold, Compression Therapy for Venous and Lymphatic Disorders. Journal of Wound Care, 2025.</p> <p>山本祥子, 梶愛子, 臺美佐子, 山越亜由美: 受賞, 第12回看護理工学会学術集会, 大会長賞, 下肢リンパ漏管理の難渋症例に対する在宅医療での被覆材使用の有効と課題, 症例報告, 2024</p>
<p>社会貢献・地域貢献 公開講座 他団体との連携事業 国際交流 非常勤講師等 看護研究指導 学会や学外団体での活動</p>	<p><委嘱状や依頼文書等が来たもの> 紺家千津子: 日本創傷・オストミー・失禁管理学会 理事長, 評議員, 将来構想検討委員会委員長, 便秘対策アドホック委員会委員 紺家千津子: 日本褥瘡学会 評議員, 実態調査委員会委員, 在宅褥瘡管理者認定委員会委員, 国際委員会委員 紺家千津子: 日本創傷治癒学会 理事, 評議員, 将来構想検討委員会委員長, 規約委員会委員 紺家千津子: 日本看護科学学会 和文誌専任査読委員 紺家千津子: 看護理工学会 評議員 紺家千津子: 日本老年医学会 代議員 紺家千津子: 日本老年看護学会 代議員 紺家千津子: 日本看護技術学会 代議員 紺家千津子: 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会 評議員,</p>

規約委員

紺家千津子：第34回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会
プログラム委員

紺家千津子：第55回（2024年度）日本看護学会学術集会抄録選考委員

紺家千津子：北越ストーマリハビリテーション講習会 幹事

紺家千津子：北陸ストーマ研究会 世話人

紺家千津子：北陸PEG・在宅栄養研究会 世話人

紺家千津子：日本褥瘡学会中部地方会 世話人

紺家千津子：公益社団法人 日本オストミー協会石川県支部 顧問

紺家千津子：専門的看護実践力研修事業（分野別実践看護師養成研修「がん看護」）「危機理論」講師，金沢大学附属病院，2024. 7. 27

紺家千津子：「看護学：クリティカルケアと周手術期ケア，創傷とその管理方法，臓器移植に関する法的整備と倫理的問題」講義（非常勤講師），北陸大学 薬学部，2024. 11. 1，8，15

紺家千津子：「創傷のアセスメントと管理」講義（非常勤講師），京都橘大学看護教育研究センター 皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程，2024. 9. 11

紺家千津子，石井光子，宮崎梓：専門的看護実践力研修事業（分野別実践看護師養成研修「皮膚・排泄ケア」）企画・運営，石川県立看護大学（WEB開催），2024. 7

紺家千津子：「福祉施設における褥瘡ケアからの気づき」講演，大船中学校が避難所になったら… 想像してみませんか？ 2025. 3. 8

紺家千津子：博論審査，長野県看護大学

峰松健夫：看護理工学会：常任理事、理事、評議員、編集委員長、倫理委員、会則検討委員

峰松健夫：日本創傷治癒学会：理事、教育委員長、関連学会協議委員、財務委員

峰松健夫：日本創傷・オストミー・失禁管理学会：評議員、学会連携委員

峰松健夫：日本褥瘡学会：車いすアスリート支援委員

峰松健夫：石川県立羽咋高校：DXハイスクール事業に係る評議委員

臺美佐子：浮腫ケア看護相談の実施

臺美佐子：THE CLASSI 6月号掲載.

臺美佐子：夢ナビ出演（インタビュー，2024. 5 講義公開，オンライン研究室訪問，動画撮影，2024. 7. 9）

臺美佐子：模擬授業，野々市明倫高等学校2年生，2024. 7. 12

臺美佐子：夏OC研究ミニイベント，2024. 7. 13

臺美佐子：かほく市公開講座 今から始めるむくみケア「美しい肌を育てる」！，2025. 8. 2

臺美佐子：サラヤ勉強会「リンパ浮腫とスキンケア」，2024. 8. 8

臺美佐子：宝達志水町女性の会 今から始めるむくみケア「美しい肌を育てる」！，2025. 8. 20

松本智里：日本運動器看護学会 査読委員

松本智里：日本運動器看護学会 研究プロジェクトメンバー

松本智里：日本運動器看護学会 2025年度学術集会 企画委員

松本智里：日本がん看護学会 査読委員

松本智里：看護実践学会 査読委員

松本智里：「看護学」講義，北陸大学，2024. 11. 22，11. 29

松本智里：石川県立中央病院 研究指導，2024. 6. 19，7. 1，10. 4，2025. 3. 1

臺美佐子，松本智里，*山野洋子，山田博胤，西尾進，松本力三：リンパ浮腫ケア選定をアシストするエコーアセスメント，第8回日本リンパ浮腫治療学会学術集会 ハンズオンセミナー，2024. 9. 15

大西陽子：珠洲市総合病院研究指導・講評，2022. 4～

<委嘱状や依頼文書等が来ていないもの>

紺家千津子：看護師に対するスキンケア教育支援，千木病院、芳珠記念病院、二ツ屋病院，2024

紺家千津子，石井光子，宮崎梓：能登北部褥瘡ケア支援，2024. 4-10 慢性便秘エコー研究会 幹事 2024年10月19日 東京開催

紺家千津子：被災時の日常生活の送り方 スキンケアをどうするのか？（市民公開講座），看護理工学会学術集会

紺家千津子：子どもから高齢者まで、みんなが幸せになる皮膚の健康管理.（市民公開講座），北國健康生きがい支援事業，北國新聞

臺美佐子，松本智里，*山野洋子：リンパ浮腫ケアの新戦略！リンパ浮腫エコーアセスメント，石川県立看護大学リカレント教育事業，石川，2025. 3. 8

臺美佐子，松本智里，*山野洋子：がん看護に活かす！リンパ浮腫のエコーアセスメント，がん看護学会地方分科会，石川，2025. 10. 20

臺美佐子：がん看護に活かす！リンパ浮腫のエコーアセスメント，第39回日本がん看護学会学術集会地方分科会企画，北海道，2025. 2. 23

臺美佐子, 松本智里, *山野洋子, *宮崎梓, 紺家千津子 : がん看護分野のアドバンスセルフケア支援—ワイヤレスエコーで実践するリンパ浮腫エコーアセスメント—, 第44回日本看護科学学会学術集会交流集会, 熊本, 2024. 12. 8

臺美佐子, 松本智里, *山野洋子 : リンパ浮腫エコー, 第1回国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会ハンズオンセミナー, 神奈川, 2024. 10. 6

臺美佐子, 松本智里, *山野洋子 : リンパ浮腫ケア選定をアシストするエコーアセスメント, 第8回日本リンパ浮腫治療学会学術集会ハンズオンセミナー, 徳島・web(ハイブリッド), 2024. 9. 14

第12回看護理工学会学術集会実行委員

初年次教育学会学術集会事務局長

臺美佐子, 松本智里, *宮崎梓, 紺家千津子 : がん看護分野のアドバンスセルフケア支援—ワイヤレスエコーで実践するリンパ浮腫エコーアセスメント—, 第44回日本看護科学学会学術集会 交流集会, 2024. 12. 8

臺美佐子, 松本智里, *山野洋子 : がん看護にエコーを活用! リンパ浮腫ケア選定のためのエコーアセスメント, がん看護学会地方分科会 ハンズオンセミナー, 2024. 10. 20

臺美佐子, 松本智里, *山野洋子 : 国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会 第1回ハンズオンセミナー, 2024. 10. 6

大西陽子 : 第12回看護理工学会 実行委員 (2024. 11. 2 ~ 3)

額奈々 : 日本看護研究学会近畿・北陸地方会 広報委員

額奈々 : 日本ACLS協会 BLS・ACLSインストラクター

額奈々 : 第12回看護理工学会学術集会 実行委員

額奈々 : LGBTQ出張授業

6.8 老年看護学講座

所属（大講座等）・職位	老年看護学講座・教授	氏名	北村 言
	老年看護学講座・准教授		中道 淳子
	老年看護学講座・講師		大橋 史弥
	老年看護学講座・助教		近藤 考朗

評価領域	個人の記載
研究業績 書籍（著書）	<p>北村言：Column 終末期褥瘡ケアに役立つ技術：サーモグラフィ．終末期の褥瘡．真田弘美（監）、石澤美保子、玉井奈緒（編）．南山堂，東京．2025．</p> <p>中道淳子（分担執筆），三重野英子監修：『最新老年看護学 第4版』日本看護協会出版会，2025年度版 7章A：認知症施策の動向と看護（p.304-309）， G4：認知症高齢者の看護の実際；介護老人福祉施設に入所した事例（p.348-350）</p>
学術論文	<p><査読有></p> <p>Ishii K, Takemura Y, <u>Kitamura A</u>: Group-learning activities and nurses internalization of evidence-based practices: secondary analysis of a cross-sectional study in hospital wards. Journal of Nursing Management. 2025 (doi.org/10.1155/jonm/6080964)</p> <p>Takahashi T, Higashimura S, Ninomiya T, Fujimura S, Sugimoto N, Horai T, Abe T, <u>Kitamura A</u>, <u>Matsumoto M</u>, Nakagami G, <u>Sanada H</u>: The long-term use of communication robots by users of visiting healthcare services: Development of an integrated vital signs measurement system. Cureus, 17(1): e77635. DOI 10.7759/cureus.77635, 2025</p> <p>Takizawa C, Qin Q, <u>Haba D</u>, Sasaki S, Kawasaki A, Miyake T, Oba J, <u>Kitamura A</u>, Abe-Doi M, Tomida S, Nakagami G: Relationship between gene expression associated with cellular senescence in cells from discarded wound dressings and wound healing: A retrospective cohort study. Journal of Tissue Viability. 33(4):726-731, 2024</p> <p>Inoue M, Takemura Y, <u>Kitamura A</u>, Isobe T: The process through which nurses providing care to COVID-19 patients recognize professional growth: A Trajectory Equifinality Model. Japan</p>

Journal of Nursing Science. 21(2):e12577, 2024

中道淳子, 渡辺達也 : 認知症高齢者の日常生活における自己選択のための介入方法の検討—認知症対応型共同生活介護事業所でのレクリエーションにおける試み—, 日本認知症予防学会誌, 2025. 掲載決定

中道淳子, 磯光江, 北山礼子, 今井秀樹 : 笑いヨガによる高齢アルツハイマー病患者のストレス状態と認知機能の変化—唾液アマラーゼ活性値を指標として—, 看護科学研究, 24巻, 23—31, 2025. https://doi.org/10.20705/jjnhs.24.0_23

*吉崎彩, 中道淳子, 川島和代 : 老人看護専門看護師が非がん疾患高齢者・家族とのACPを躊躇したときの実践, 日本老年看護学会誌, 29(1), 78-85, 2024

近藤考朗, 川島和代, 中道淳子, 中山詠美, 窪田雅江, 前田郁子, 中島照美, 小幡法子, 福島真弓, 大家理恵 : 地域包括ケア病棟入院を契機とした高齢者の住まいの変化, 日本老年医学会雑誌, 61巻, 3号, 304-311, 2024

*宮本菜々恵, 中道淳子, 森垣こずえ, 川島和代 : もの忘れ外来受診に至った認知機能低下を認めた高齢者の家族の知識と高齢者への受診までのアプローチ 家族と本人へのインタビューから, 日本老年看護学会誌, 29(1), 50-59, 2024

*米山真理, 中道淳子, 川島和代 : 在宅におけるレビー小体型認知症の人と家族への認知症看護認定看護師の看護実践—家族による相談を受けて関わった事例の分析—, 看護実践学会誌, 2025. 掲載決定
Oohashi F., *Katano S., *Miya E., Kimori K., Matsui H., Fujino N., Konya C. : Reliability of inferior vena cava images visualized by self-monitoring echocardiography, Journal of Nursing Science and Engineering, 12(5) 2025

松本勝, 大西陽子, *下橋和也, *杉浦裕愛, *山本翔子, 大橋史弥, 峰松健夫, 真田弘美, 紺家千津子 : 初学者を対象とした非対面での膀胱エコー教育による技術習得度に対する効果検証 : 対面教育・遠隔ライブ教育・VRオンデマンド教育の比較, 看護理工学会誌, 12:1-9, 2024

< 査読無 >

中道淳子 : 特集[災害支援経験から学ぶ災害への備え]令和6年能登半島地震直後の老年看護学実習を振り返って, 日本老年看護学会誌, 29(1), 11-15, 2024

中道淳子 : 共生社会の実現を推進するための認知症基本法施行後に

	<p>における外来看護の役割 -サバティカル研修報告-, 石川看護雑誌, 22巻, 35-41, 2025</p> <p>西山みどり, 内ヶ島伸也, 加藤真紀, 中筋美子, <u>中道淳子</u>, 西村知子, 濱吉美穂, 日向園恵: 令和5年度災害支援検討委員会企画 宮城県名取市閑上地区被災地見学研修会報告, 日本老年看護学会誌, 29(1), 121-125, 2024</p>
<p>その他の原稿</p>	
<p>学会発表 (研究発表・ 招聘講演, パネリスト, 基調講演等)</p>	<p>Inoue M, Isobe T, <u>Kitamura A</u>, Takemura Y: Perceptions held by nurses providing care to patients with COVID-19 regarding support, recognition, and appreciation from society and people other than their respective institution's staff: A qualitative study. East Asian Forum of Nursing Scholar, Soul, Korea, 2025.03</p> <p>Ishii K, <u>Kitamura A</u>, Takemura Y: Gap between the recognition of significance and workplace conditions regarding factors for the sustainment of evidence-based practice: A preliminary study for the development of implementation strategies. 17th Annual Conference on the Science of Dissemination and Implementation in Health. USA, VA, 2024.12</p> <p><u>石井光子</u>, <u>紺家千津子</u>, <u>峰松健夫</u>, <u>臺美佐子</u>, <u>松本勝</u>, <u>北村言</u>, <u>大貝和裕</u>, <u>長谷川陽子</u>, <u>真田弘美</u>: 令和6年能登半島地震における褥瘡ケア支援部会の活動から見えたこと. 第31回石川県看護学会. 石川, 2024.11 (シンポジウム「令和6年能登半島地震を経て今取り組んでいる事ー復興に向けて共に進んでいくためにー」)</p> <p>Takahashi T, Higashimura S, <u>Kitamura A</u>, <u>Matsumoto M</u>, Nakagami G, <u>Sanada H</u>: Long-term utilization of communication robots by users of visiting services: Development of a vital signs measurement system integration. 2024 IEEE International Conference on Robotics and Automation. Yokohama, Japan. 2024.05</p> <p><u>紺家千津子</u>, <u>石井光子</u>, <u>峰松健夫</u>, <u>臺美佐子</u>, <u>松本勝</u>, <u>北村言</u>, <u>真田弘美</u>: 令和6年能登半島地震 褥瘡ケア支援システムの構築と運営. (シンポジウムシンポジウム「災害看護とDX」). 第12回看護理工学会学術集会, 石川, 2024.11. 第12回看護理工学会学術集会抄録集. p. 55</p> <p><u>北村言</u>: 災害看護におけるデジタル技術の活用の現状と課題 (シンポジウムシンポジウム「災害看護とDX」). 第12回看護理工学会学術</p>

集会. 石川, 2024. 11. 第12回看護理工学会学術集会抄録集. p. 58.

北村言, 松本勝, 高橋聡明, 麦田裕子, 島田宗太郎, 平岡桃重, 仲上豪二郎, 真田弘美: エコーによる膀胱内尿量計測の新卒訪問看護師へのVRを用いた教育. 第12回看護理工学会学術集会, 石川, 2024. 11. 第12回看護理工学会学術集会抄録集. p. 111.

北村言: 褥瘡を有する在宅療養者へのコラーゲンペプチド含有飲料の導入の実際 (シンポジウム 創傷とコラーゲンペプチドに関わる栄養研究の最前線). 第26回日本褥瘡学会学術集会, 兵庫, 2024. 09

北村言: 調査事業報告 介護保険施設・福祉避難所における褥瘡の実態 (シンポジウム 令和6年能登半島地震 褥瘡ケア支援). 第26回日本褥瘡学会学術集会, 兵庫, 2024. 09

中道淳子, 大橋史弥, 宮本菜々恵, 近藤孝朗, 今井秀樹: 地域の認知症予防ボランティアと大学生による小学生への認知症学習の在り方と効果, 第13回日本認知症予防学会学術集会, 横浜, 2024. 9

*城宝歩未, 中道淳子, 額奈々: 看取り期を自宅で過ごした高齢者への訪問看護師の支援, 日本エンドオブライフケア学会第7回学術集会, 金沢, 2024. 11

大橋史弥, 宮本菜々恵, 近藤孝朗, 中道淳子: 現代の看護学生が抱く高齢者観の一老年看護学科履修前の一時点の分析から一, 日本老年看護学会第29回学術集会, 高知, 2024. 6

近藤孝朗, 川島和代, 中道淳子, 大橋史弥, 宮本菜々恵, 中島照美, 岸本奈々: 認知機能障害のある高齢患者と家族が退院先を決定するまでに生じるずれの探索, 日本老年看護学会第29回学術集会, 高知, 2024. 6

宮本菜々恵, *今井彩也香, 中道淳子, 大橋史弥, 近藤孝朗: 立位歩行介入による高齢者の歩行に関する心理的变化一看護小規模多機能型居宅介護施設の利用者へのインタビューから一, 日本老年看護学会第29回学術集会, 高知, 2024. 6

Kimori K., Oohashi F.: Influence of sitting time on inferior vena cava size using a pocket-sized ultrasound device in healthy male volunteers, 15th INC & 28th EAFONS 2025, Korea, 2025. 2

Kazama J., Oohashi F.: An information and communication technology use and challenges in daycare centers and older adult salons in Japan: A scoping review, 15th INC & 28th EAFONS 2025, Korea, 2025. 2

大橋史弥, *石和日菜美, *木村泰基, 近藤孝朗, 藤野陽: 再入院予

防に向けて慢性心不全療養者が自身の下大静脈を描出するセルフ心エコー実施可能性の検討. 日本循環器看護学会, 東京, 2024. 11

*木村泰基, 大橋史弥, *石和日菜美, 近藤孝朗, 松井弘樹, 藤野陽: 心不全療養者が自身の心機能を捉えるセルフ心エコーの実施に向けた歩行前後の下大静脈径の変動, 看護理工学会, 石川, 2024. 11

中道淳子, 宮本菜々恵, 大橋史弥, 近藤孝朗, 今井秀樹: 地域の認知症予防ボランティアと大学生による小学生への認知症学習の在り方と効果, 日本認知症予防学会, 横浜, 2024. 9

宮本菜々恵, *今井彩也香, 中道淳子, 大橋史弥, 近藤孝朗: 立位歩行介入による高齢者の歩行に関する心理的変化, 日本老年看護学会第29回学術集会, 高知, 2024. 6

大橋史弥, 宮本菜々恵, 近藤孝朗, 中道淳子: 現代の看護学生が抱く高齢者観の特徴, 日本老年看護学会第29回学術集会, 高知, 2024. 6

近藤孝朗, 川島和代, 中道淳子, 大橋史弥, 宮本菜々恵, 中島照美, 岸本奈々: 「認知機能障害のある高齢患者と家族に生じる退院先が決定するまでのずれの探索」, 第29回日本老年看護学会学術集会, 2024年6月29日～30日, 高知

大橋史弥, *石和日菜美, *木村泰基, 近藤孝朗, 藤野陽: 再入院予防に向けて慢性心不全療養者が自身の下大静脈を描出するセルフ心エコー実施可能性の検討. 日本循環器看護学会, 東京, 2024. 11

木村泰基, 大橋史弥, *石和日菜美, 近藤孝朗, 松井弘樹, 藤野陽: 心不全療養者が自身の心機能を捉えるセルフ心エコーの実施に向けた歩行前後の下大静脈径の変動, 看護理工学会, 石川, 2024. 11

中道淳子, 宮本菜々恵, 大橋史弥, 近藤孝朗, 今井秀樹: 地域の認知症予防ボランティアと大学生による小学生への認知症学習の在り方と効果, 日本認知症予防学会, 横浜, 2024. 9

宮本菜々恵, *今井彩也香, 中道淳子, 大橋史弥, 近藤孝朗: 立位歩行介入による高齢者の歩行に関する心理的変化, 日本老年看護学会第29回学術集会, 高知, 2024. 6

近藤孝朗, 中山詠美, 窪田雅江, 前田郁子, 中島照美, 小幡法子, 福島真弓, 川島和代, 中道淳子, 大家理恵: 「地域包括ケア病棟退院後の療養場所変遷－肺炎や骨折での入院をきっかけに住まいを変える高齢者の気持ち－」, 第3回 日本地域医療学会学術集会, 2024年11月30日(土)～12月1日, 富山

大橋史弥, 宮本菜々恵, 近藤孝朗, 中道淳子: 現代の看護学生が抱く高齢者観の特徴, 日本老年看護学会第29回学術集会, 高知, 2024. 6

<p>研究助成金・ 研究費等の獲得</p>	<p><科学研究費補助金> 本学教員が分担者</p> <p><科学研究助成基金助成金> 本学教員が研究代表者 <u>北村言</u>：在宅療養者における下肢褥瘡の外力コントロールのためのケアアルゴリズムの開発. 若手研究. (2024年度1,500千円)</p> <p><u>大橋史弥</u>：在宅心不全療養者へのセルフ心エコー導入による先駆的な遠隔医療システムのモデリング, R4-R6, 日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 4,550千円</p> <p>本学教員が分担者 <u>津田裕子</u>, <u>紺家千津子</u>, <u>真田弘美</u>, <u>大橋史弥</u>：革新的な観察手技によるおむつ内皮膚障害のアセスメントツールの開発と検証, R4-R7, 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 4,160千円</p>
<p>学内研究助成金</p>	
<p>研究助成金</p>	<p>本学教員が研究代表者 <u>大橋史弥</u>, <u>谷内宇世</u>, <u>宮本千香</u>, <u>中道淳子</u>, <u>近藤考朗</u>, <u>宮本菜々恵</u>, <u>田中志信</u>：身体拘束ゼロを実現するネック型CVC自己抜去予測センサーの開発と評価, R5-R6, 一般社団法人日本老年看護学会 200千円</p> <p>本学教員が分担者 なし</p>
<p>その他受賞等 受賞, 特許, 臨床活動</p>	<p><u>北村言</u>：ラジオ, FMかほく なるほどインタビュー. 2024. 07. 29.</p> <p><u>中道淳子</u>：2024. 4～6:サバティカル研修（金沢医科大学認知症センター他）</p> <p><u>大橋史弥</u>, *<u>石和日菜美</u>, *<u>木村泰基</u>, <u>近藤考朗</u>, <u>藤野陽</u>：再入院予防に向けて慢性心不全療養者が自身の下大静脈を描出するセルフ心エコー実施可能性の検討, 日本循環器看護学会優秀演題賞, 2024. 11 <u>Oohashi F.</u>, <u>Oe M.</u>, <u>Sugama J.</u> : Cumulative recurrence rate of pressure ulcers in bedridden older adults healed with conservative treatment, 北陸ストーマ研究会推薦論文賞, 2024. 10</p>

<p>社会貢献・地域貢献</p> <p>公開講座</p> <p>他団体との連携事業</p> <p>国際交流</p> <p>非常勤講師等</p> <p>看護研究指導</p> <p>学会や学外団体での活動</p>	<p><委嘱状や依頼文書等が来たもの></p> <p><u>北村言</u>：看護研究指導・講評，宝達志水病院，2024.08.01，2024.11.20，2025.03.14</p> <p><u>北村言</u>：講師，次世代看護教育研究所，2025.03.21</p> <p><u>北村言</u>：代議員，日本看護科学学会.</p> <p><u>北村言</u>：編集委員，看護理工学会.</p> <p><u>北村言</u>：理事，評議員，日本褥瘡学会.</p> <p><u>北村言</u>：評議員，日本創傷・オストミー・失禁管理学会.</p> <p><u>北村言</u>：社会保険委員，日本創傷・オストミー・失禁管理学会.</p> <p><u>北村言</u>：評議員，日本創傷治癒学会.</p> <p><u>中道淳子</u>：日本老年看護学会災害支援検討委員会・委員</p> <p><u>中道淳子</u>：日本認知症予防学会・代議員</p> <p><u>中道淳子</u>：日本認知症予防学会・査読委員</p> <p><u>中道淳子</u>：かほく市地域密着型サービス施設等整備事業者選考委員会・委員</p> <p><u>中道淳子</u>：日本老年看護学会第29回学術集会 交流集会 演者</p> <p><u>中道淳子</u>：「介護予防メイト養成講座」講義，津幡町役場，2024.9.3</p> <p><u>中道淳子</u>：日本エンドオブライフケア学会第7回学術集会 査読委員</p> <p><u>中道淳子</u>：看護研究指導・講評，公立河北中央病院，2025.3.12（講評）</p> <p><u>大橋史弥</u>：日本エンドオブライフケア学会第7回学術集会（企画委員・広報委員・実行委員）</p> <p><u>大橋史弥</u>：日本看護科学学会（JANS 若手の会 エリアコーディネーター）</p> <p><u>大橋史弥</u>：公立宇出津総合病院 看護研究指導</p> <p><u>大橋史弥</u>：かほく市介護認定審査会委員</p> <p><委嘱状や依頼文書等が来ていないもの></p> <p><u>北村言</u>：企画・講師，石川県立看護大学R6年度リカレント教育事業. 2025.02.15，2025.02.18</p> <p><u>北村言</u>：講演，かほく市学園台サンライズ健康教室. 2024.11.23</p> <p>美濃由紀子，<u>北村言</u>，他6名：かほく市避難訓練ボランティア. 2025.02.09</p>
---	--

6.9 地域看護学講座

所属（大講座等）・職位	地域看護学講座・教授	氏名	塚田 久恵
	地域看護学講座・教授		米澤 洋美
	地域看護学講座・助教		室野奈緒子
	地域看護学講座・助教		嶋 雅奈恵
	地域看護学講座・臨時助手		中敷なをみ

評価領域	個人の記載
研究業績 書籍（著書）	
学術論文	<p><査読有></p> <p>*<u>角地孝洋</u>, <u>塚田久恵</u>, <u>米澤洋美</u>: 中堅期保健師の職業的アイデンティティに関連する要因, 看護実践学会, 第36号第1号, p13-26, 2024. 9</p> <p><査読無></p>
その他の原稿	<p><u>塚田久恵</u>: 地域ケア総合センター INFORMATION, 石川県立看護大学広報誌「CAMPUS NET」, 45巻, 2024. 5</p> <p><u>塚田久恵</u>: 地域ケア総合センター INFORMATION, 石川県立看護大学広報誌「CAMPUS NET」, 46巻, 2024. 11</p> <p><u>塚田久恵</u>: 地域ケア総合センター「事業報告書（第21巻）」発刊に寄せて, かほく市との包括的連携協定に関わる取り組み. 石川県立看護大学附属地域ケア総合センター第21巻事業報告書, 21巻, 2025, 3</p> <p>研究分担者: <u>田村須賀子</u>, <u>大谷基道</u>, <u>佐藤美紀</u>, <u>大久保一郎</u>, <u>市川定子</u>, 研究協力者: <u>山科美絵</u>, <u>塚田久恵</u>, <u>山田洋子</u>, <u>米澤洋美</u>, <u>奥田博子</u>, <u>小宮山恵美</u>, <u>鈴木悟子</u>, <u>太田あゆ美</u>, <u>室野奈緒子</u>, <u>城涼子</u>, <u>林愛海</u>, <u>山岸愛実</u>: 統括保健師に求められる専門的・行政的管理能力並びにその育成及び能力の発揮に向けた体制づくりの方法. 厚生労働科学研究費補助金健康安全・危機管理対策総合研究事業「令和5年度 総括・分担研究報告書」, 2024</p> <p><u>米澤洋美</u>: 北国新聞丈夫がいいね, 能登半島地震の被災地支援活動について, 2024年5月12日（朝刊）</p>
学会発表（研究発表・ 招聘講演, パネリスト, 基調講演等）	<p>*<u>宮田広成</u>, <u>塚田久恵</u>: アルコール依存症者が断酒会参加の中止に至るプロセス—複線径路・等至性モデル (Trajectory Equifinality Model) による分析—, 2024年度アルコール・薬物依存症関連学会合同学術総会（第46回日本アルコール関連問題学会）, 示説, 東京</p>

都, 2024. 9

米澤洋美, 秋原志穂, 塚田久恵, 室野奈緒子, 嶋雅奈恵: 地方農村部シルバー人材センター会員が抱える物忘れ・認知症に対する将来の心配の有無とその関連要因, 第13回日本公衆衛生看護学会, 口演(0-24), 名古屋市, 2025. 01

田村須賀子, 鈴木悟子, 塚田久恵, 山田洋子, 米澤洋美, 城諒子, 室野奈緒子, 林愛海, 春山早苗: 統括保健師に求められる専門的・行政的管理能力の整理, 第83回日本公衆衛生学会, 示説, 札幌市, 2024. 10
嶋雅奈恵, 米澤洋美, 塚田久恵, 室野奈緒子, 金子紀子, *石原亜美, *角谷美幸, *寺田恵理, *西紅羽, *橋本千愛, *橋本知佳, *宮下春菜, 峰松健夫, *高松楓佳, *野村風花, 野口博史, 内藤泰男, 井上貴雄, 上田将也, 上野慶太, 石井良平: 地域在住高齢者のeスポーツ体験における効果検証(第1報), 第27回日本地域看護学会(P-04-1), 仙台, 2024. 6

加藤克典, *高松楓佳, *野村風花, 米澤洋美, 塚田久恵, 金子紀子, 室野奈緒子, 嶋雅奈恵, 長谷川陽子, 大貝和裕, 額奈々, 瀧澤理穂, 大西陽子, 今方裕子, 松本勝, 松本智里, 臺美佐子, 紺家千津子, 真田弘美, 峰松健夫: スキンプロットニングによる軽度認知障害スクリーニング法の開発: アミロイドβの検出と軽度認知障害同定精度, 第12回看護理工学会, 示説, かほく市, 2024, 11

室野奈緒子, 表志津子, 中田ゆかり, 塚田久恵, 岡本理恵, 池内里美, 高橋裕太郎, 米澤洋美, 森河裕子: メンタルヘルス不調者の職場復帰支援における産業保健看護職の人事労務担当者との連携. 第34回日本産業衛生学会全国協議会, 示説, 木更津市, 2024. 10

Naoko Murono, Shizuko Omote, Yukari Nakada, Hisae Tsukada, Rie Okamoto, Satomi Ikeuchi, Yutaro Takahashi, Hiromi Yonezawa, Yuko Morikawa: Survey of Collaboration between Occupational Health Nurses and Human Resources in Supporting the Return-to-Work of Employees with Mental Health Problems. the 15th International Nursing Conference (INC) and the 28th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), E-Poster, 2025. 2
室野奈緒子, 塚田久恵, 米澤洋美, 嶋雅奈恵, 金子紀子, *石原亜美, *角谷美幸, *寺田恵理, *西紅羽, *橋本千愛, *橋本知佳, *宮下春菜, 峰松健夫, *高松楓佳, *野村風花, 野口博史, 内藤泰男, 井上貴雄, 上田将也, 上野慶太, 石井良平: 地域在住高齢者のeスポーツ体験における効果検証(第2報)ーストレスへの影響についてー. 日本地域看護学会第27回学術集会, 示説, 仙台, 2024. 6

Takao Inoue, Hiroshi Noguchi, Hiromi Yonezawa, Hisae Tsukada, Noriko Kaneko, Naoko Murono, Kanae Shima, Masaya Ueda, Keita

	<p>Ueno, Yasuo Naito, Ryouhei Ishiil, : Effects of e-sports on brain function in the older adults: An EEG study, 第8回アジア太平洋作業療法学会, 示説, 札幌市, 2024. 11</p> <p>米澤洋美, 秋原志穂, 塚田久恵, 室野奈緒子, 嶋雅奈恵: 地方農村部シルバー人材センター会員が抱える物忘れ・認知症に対する将来の心配の有無とその関連要因, 第13回日本公衆衛生看護学会, 口演(0-24), 名古屋市, 2025. 01</p> <p><u>Hiromi Yonezawa</u>, Factors Relating to the Self-assessment of Driving Skill for Members of Silver Human Resource Centers in Rural Areas. 4th Edition of International Public Health Conference, poster, Singapore, 2025. 03</p> <p>田村須賀子, 鈴木悟子, 塚田久恵, 山田洋子, 米澤洋美, 城諒子, 室野奈緒子, 林愛海, 春山早苗: 統括保健師に求められる専門的・行政的管理能力の整理, 第83回日本公衆衛生学会, 示説, 札幌市, 2024. 10</p> <p>Hitoe Kimura, Teruhiko Honda, <u>Hiromi Yonezawa</u>, Akiko Kato, Yuka Fukumaru, Child-Adult Relationship Enhancement (CARE) in Community Health: Qualitative Phenomenological Analysis of Parenting Experiences and Children's Behavior Changes, 28thEAFONS2025. 02, KOREA</p> <p>齊藤みゆき, 水貝聡美, 室野奈緒子, 米澤洋美, 亀田真紀, 西澤依小: 女性労働者の自主グループ“フェア・ミーティング”発足の経緯と産業保健師の役割. 第97回日本産業衛生学会, 口演, 広島, 2024. 5. 22-25</p> <p>松田由宜子, 中村準, 室野奈緒子, 米澤洋美: 中高年労働者のウェルビーイング向上に向けた支援の検討. 第34回日本産業衛生学会全国協議会, 示説, 木更津市, 2024. 10. 3-5</p>
<p>研究助成金・研究費等の獲得</p>	<p><科学研究費補助金> 本学教員が分担者</p> <p>本学教員が分担者</p> <p><科学研究助成基金助成金> 本学教員が研究代表者</p> <p>米澤洋美, 長谷川美香, 北出順子, 秋原志穂: 団塊世代男性を対象とした定年退職後の再就労の場における介護予防プログラム構築(20K11069), 2020-2025, 学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)</p> <p>米澤洋美, 秋原志穂, 北出順子, 室野奈緒子: 定年退職後男性の</p>

	<p>再就労の場における役割循環型介護予防プログラムの開発, 2024-2028, 学術研究助成基金助成金基盤研究(C)</p> <p><u>室野奈緒子</u>, <u>森河裕子</u>, <u>中田ゆかり</u>, <u>塚田久恵</u>:メンタル不調者の職場復帰支援における産業看護職の人事労務担当者との連携の影響因子, 2021 ~ 2024年, 学術研究助成基金助成金 基盤研究(C) 21K11001</p> <p><u>室野奈緒子</u>, <u>米澤洋美</u>, <u>池内里美</u>, <u>戸部浩美</u>:メンタルヘルス不調者の職場復帰に向けた多職種連携効果の測定, 2024 ~ 2028年, 学術研究助成基金助成金 基盤研究(C) 24K14088</p> <p>本学教員が分担者</p> <p>長谷川美香, <u>米澤洋美</u>, <u>川口めぐみ</u>, <u>北出順子</u>:大学生のデートDV予防と援助要請行動促進を一体化した教育プログラムの開発(20K11096), 2020-2025, 学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)</p> <p>秋原志穂, <u>米澤洋美</u>, <u>山田修平</u>:隔離状況下にある結核患者のQOL評価および包括的ストレス緩和プログラムの開発(20K10766), 2020-2025, 学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)</p> <p>*<u>木村一絵</u>, <u>米澤洋美</u>, 他:地域保健における養育者の負担を最小限にした子育てプログラムCAREの開発(24K14188), 2024-2026, 学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)</p> <p>研究代表者<u>春山早苗</u>(<u>田村班</u>) 令和6年度厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)「統括保健師に求められる専門的・行政的管理能力及びにその育成及び能力の発揮に向けた体制づくりの方法 (23LA1003)</p> <p><u>池内里美</u>, <u>表志津子</u>, <u>杉山希美</u>, <u>合田友美</u>, <u>木原俊行</u>, <u>田中浩二</u>, <u>中島千英子</u>, <u>岡本理恵</u>, <u>高橋裕太郎</u>, <u>室野奈緒子</u>:自治体や教育機関が協働し新人保健師を支えるためのメンタリングプログラムの開発, 2024 ~ 2027年, 学術研究助成基金助成金 基盤研究(C) 24K13692</p> <p><u>嶋雅奈恵</u>, <u>中嶋知世</u>:保健師経験のある大学教員による令和6年能登半島地震の二次避難所応援派遣での学び, 2024</p>
<p>学内研究助成金</p>	<p><u>宮口和義</u>, <u>塚田久恵</u>, <u>米田昌代</u>, <u>河合美佳</u>, <u>米澤洋美</u>:骨盤底筋群の収縮機能に及ぼす履物の影響 — 草履サンダルによる骨盤底筋フレイル予防の検証 — 石川県立大学・石川県立看護大学共同研究助成金 2024.</p>

	<p>米澤洋美, 塚田久恵, 桜井志保美, 石川倫子, 石井和美, 瀬戸清華, 室野奈緒子, 嶋雅奈恵, 山路朋子, 牛村春奈:地域ケア総合センター事業助成金「令和6年能登半島地震被災地におけるフェーズに応じた避難者等への健康支援」 405千円</p>
研究助成金	<p>本学教員が研究代表者</p> <p>塚田久恵, 米澤洋美, 松本勝, 長谷川陽子, 幅大二郎, 佐能唯, 寺崎弘恵, 古木萌乃, 時国玲羅: 附属地域ケア総合センター事業2024年度デジタル田園都市国家構想「在宅高齢者のフレイル等予防DX事業」業務委託</p> <p>委託元: (株) アルム 委託費: 6,226,075円 (2024年10月31日現在)</p> <p>塚田久恵, 米澤洋美, 室野奈緒子, 嶋雅奈恵: 附属地域ケア総合センター事業 高齢者へのeスポーツの効果についての調査検証 委託元: かほく市長寿介護課 委託費 300,000円</p> <p>本学教員が分担者</p>
その他受賞等 受賞, 特許, 臨床活動	
社会貢献・地域貢献 公開講座 他団体との連携事業 国際交流 非常勤講師等 看護研究指導 学会や学外団体での活動	<p><委嘱状や依頼文書等が来たもの></p> <p>塚田久恵: 日本公衆衛生看護学会査読委員</p> <p>塚田久恵: 北陸公衆衛生学会査読委員</p> <p>塚田久恵: 第13回日本公衆衛生看護学会企画委員</p> <p>塚田久恵: 第12回看護理工学会学術集会実行委員, 2024. 11. 02-03</p> <p>塚田久恵: 石川県障害者施策推進協議会委員</p> <p>塚田久恵: 石川県介護保険審査会委員</p> <p>塚田久恵: 宝達志水町健康づくり推進室協議会委員</p> <p>塚田久恵: 石川県新任保健師研修会講師, 2024. 11. 26, 12. 2</p> <p>塚田久恵: 石川中央保健福祉センター新任保健師研修会フォローアップ研修講師, 2025. 2. 26</p> <p>塚田久恵: かほく市と石川県立看護大学の包括的連携に関する協議会委員 (R6年度幹事)</p> <p>塚田久恵: 2024石川未来プロジェクト学生コアミーティング(助言者) 2024. 6. 26, 2025, 1. 8</p> <p>米澤洋美, 塚田久恵: 石川県中堅保健師研修会(グループワークファシリテーター, 発表コメント), 2025. 03. 10</p> <p>塚田久恵, 米澤洋美, 松本勝, 長谷川陽子, 幅大二郎, 真田弘美: 令和6年度宝達志水町在宅高齢者のフレイル等予防等DX事業研修会(企画, 司会, 調査報告, 助言者) 2025. 02. 17</p> <p>塚田久恵, 米澤洋美, 松本勝, 長谷川陽子, 幅大二郎, 真田弘美:</p>

令和6年度宝達志水町在宅高齢者のフレイル等予防等DX事業に係るハイリスク高齢者・KDBに係る分析，介護予防支援体制の構築について，アルム株式会社より地域ケア総合センター事業として再委託（倫理審査，分析及び研修会の企画）

米澤洋美：全国保健師教育協議会「保健師教育」編集委員

米澤洋美：第13回日本公衆衛生看護学会企画委員

米澤洋美：第12回看護理工学会学術集会実行委員，2024. 11. 02-03

米澤洋美：福井県保健師人材育成検討委員会座長

米澤洋美：かほく市自立支援協議会会長

米澤洋美：かほく市地域包括支援センター運営協議会委員

米澤洋美：かほく市健康づくり協議会会長

米澤洋美：羽咋市健康づくり協議会委員

米澤洋美：能登半島地震被災健康調査検討ワーキング委員，石川県健康福祉部健康推進課主幹

米澤洋美：令和6年度 第2回看護教員現任研修発表「二次避難所支援」2024. 08. 10

米澤洋美：福井県自治体保健師合同就職説明会講演「これからの保健師活動～保健師を目指す方へ～」2024. 08. 13

米澤洋美：福井県自治体保健師合同就職説明会パネルディスカッション座長「知りたい保健師の魅力」2024. 08. 13

米澤洋美：北海道看護協会統括保健師研修会講師「統括保健師における実践の評価」2024. 08. 23

米澤洋美：石川県中堅保健師研修会講師，「中堅期保健師に求められること」2024. 10. 22，2025. 03. 10

塚田久恵，米澤洋美，室野奈緒子，嶋雅奈恵：石川県新任期保健師研修会（ファシリテーター）2024. 11. 26，12. 02

米澤洋美：石川県南加賀保健福祉センター新任期研修会講師「事例検討」2025. 01. 29

塚田久恵，米澤洋美，松本勝，長谷川陽子，幅大二郎，真田弘美：令和6年度宝達志水町在宅高齢者のフレイル等予防DX事業研修会（助言者）2025. 02. 17

室野奈緒子：「企業における看護職の役割とは？人的資本経営時代に求められるスキルと効果的な連携術」講演，株式会社Smart相談室，ウェビナー，2025. 02. 04

室野奈緒子：新任保健師フォローアップ講師，石川県能登中部保健福祉センター，2025. 02. 19

<委嘱状や依頼文書等が来ていないもの>

塚田久恵：大学コンソーシアム石川地域連携専門部会委員

塚田久恵：能登キャンパス推進協議会幹事会委員

米澤洋美，塚田久恵，桜井志保美，石川倫子，石井和美，瀬戸清華，室野奈緒子，嶋雅奈恵，山路朋子，牛村春奈：地域ケア総合センター事業「令和6年能登半島地震被災地におけるフェーズに応じた避難者等への健康支援」

米澤洋美，塚田久恵，瀬戸清華：珠洲市こころの復興マルシェ：珠洲市正院小学校仮設住宅，学生13名引率，会場誘導、健康観察（血圧測定）足浴ほか，2024. 05. 28

米澤洋美，塚田久恵，桜井志保美，瀬戸清華，山路朋子，牛村春奈：珠洲市避難者把握在宅家庭訪問調査参加2024. 08. 19, 08. 23

田村須賀子，塚田久恵，米澤洋美，室野奈緒子，他5名：第13回日本公衆衛生看護学会ワークショップ7-1，統括保健師に求められる専門的管理能力と行政的管理能力，名古屋市，2025. 01. 04

米澤洋美，塚田久恵，桜井志保美，石川倫子，石井和美，瀬戸清華，室野奈緒子，嶋雅奈恵，山路朋子，牛村春奈：地域ケア総合センター事業「令和6年能登半島地震被災地におけるフェーズに応じた避難者等への健康支援」

米澤洋美，桜井志保美：珠洲市宝立小学校避難所および仮設住宅家庭訪問，2024. 04. 12

米澤洋美，塚田久恵，瀬戸清華：珠洲市こころの復興マルシェ：珠洲市正院小学校仮設住宅，学生13名引率，会場誘導、健康観察（血圧測定）足浴ほか，2024. 05. 28

米澤洋美，塚田久恵，桜井志保美，瀬戸清華，山路朋子，牛村春奈：珠洲市避難者把握在宅家庭訪問調査参加2024. 08. 19, 08. 23

米澤洋美，嶋雅奈恵：リラックス体験会，能登町三波公民館，ストレスチェック体験，マッサージ，ロボット交流会，学生6名，参加者21名，2025. 03. 11

室野奈緒子：「産業保健スタッフと人事担当者との連携について」シンポジスト，第34回日本産業衛生学会全国協議会 シンポジウム13 多職種連携「多職種連携で実現する快適な職場環境づくり～ストレスチェック制度の見直しの観点から～」，千葉県木更津市，2024. 10. 05, 2024. 10. 05

室野奈緒子：FMかほく ラジオ出演「働きざかりのメンタルヘルス」，2024. 12. 16

室野奈緒子：「業務で使う統計① Excelを活用した集計・分析方

法」講師，石川県産業看護職研究会，地場産業振興センター，
2025.03.01

日本産業衛生学会多職種連携研究会世話人

日本産業衛生学会多職種連携 第1回定例会（金沢）世話人， 2025.02.01

日本産業衛生学会産業保健看護部会石川県会計監事

6.10 在宅看護学講座

所属（大講座等）・職位	地域在宅精神看護学講座・教授	氏名	桜井志保美
	地域在宅精神看護学講座・助教		山路 朋子
	地域在宅精神看護学講座・助教		牛村 春奈

評価領域	個人の記載
研究業績	
書籍（著書）	
学術論文	<p><査読有></p> <p>*<u>牛村春奈</u>, <u>桜井志保美</u> : Parkinson 病療養者における舌圧・咀嚼能力と栄養素摂取量の関連. 日本摂食嚥下リハビリテーション学会雑誌, 28(2), 90-98, 2024</p> <p>DOI https://doi.org/10.32136/jsdr.28.2_90</p> <p>Momoka Masuda, <u>Hideki Imai</u>, <u>Shihomi Sakurai</u>, <u>Haruna Ushimura</u>, 他4名 : The Association of the Dietary Inflammatory Index with Disability and Subjective Health among Japanese Older Adults, Public Health Nutrition, 2025.3</p> <p><査読無></p> <p>なし</p>
その他の原稿	なし
学会発表（研究発表・招聘講演・パネリスト・基調講演等）	<p><u>牛村春奈</u>, <u>今井秀樹</u>, <u>日高未希恵</u>, <u>室野奈緒子</u>, <u>山路朋子</u>, <u>桜井志保美</u> : 高齢女性における基本チェックリスト判定と口腔関連QOLとの関連, 第28回日本在宅ケア学会学術集会, 鎌倉, 2024.8</p> <p><u>山路朋子</u>, *<u>中ひとみ</u>, *<u>一瀬千尋</u>, *<u>山形千春</u>, <u>日高未希恵</u>, <u>桜井志保美</u> : A市在住高齢者のフレイルの実態, 第17回看護実践学会学術集会, 金沢, 2024.9</p> <p><u>日高未希恵</u>, <u>今井秀樹</u>, <u>牛村春奈</u>, <u>山路朋子</u>, <u>室野奈緒子</u>, <u>桜井志保美</u> : 地域在住女性高齢者の尿失禁とオーラルフレイルおよび口腔関連QOLとの関連, 第16回日本健康医療学会学術大会, 東京, 2024.10</p> <p>Hashi S, <u>Sakurai S</u>, <u>Yokoyama Y</u>, 他7名 : Self-control of school children with asthma in JAPAN, APAAACI 2024, Kuala Lumpur, Malaysia, Dec. 2024</p> <p>Yumiko Kohno, <u>Shihomi Sakurai</u>, <u>Yumi Koizumi</u>, et.al : Effects Training on the Ethical Standards of Caregivers in Dementia Group Homes, 28th EAFONS, Soul Korea, Feb.2025</p>

	<p>*<u>八日市遥奈</u>, *<u>加藤ゆい</u>, <u>山路朋子</u>, <u>牛村春奈</u>, <u>桜井志保美</u> : 第3回看護サイエンス学会学術集会, 富山, 2025.3</p>
<p>研究助成金・研究費等の獲得</p>	<p><科学研究費補助金> 本学教員が研究代表者 なし 本学教員が分担者 なし <科学研究助成基金助成金> 本学教員が研究代表者 <u>桜井志保美</u>, <u>河野由美子</u>, <u>金谷雅代</u>, <u>牛村春奈</u> : 訪問看護師向け2歳未満の医療的ケア児における食と発達に関する育児支援ガイド作成. 2022-2024年度, 学術研究助成基金基盤研究(C) <u>牛村春奈</u>, <u>桜井志保美</u>, <u>日高未希恵</u>, <u>山路朋子</u> : 舌機能は生活をとらえる指標になり得るか, R5 ~ R8, 日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究 (C) 本学教員が分担者 <u>河野 由美子</u>, <u>桜井志保美</u>, <u>北林正子</u>, <u>山崎智可</u>, <u>小泉由美</u>, <u>枝川奈都美</u> : 認知症グループホームの介護職に対する倫理観の確立を目指す研修パッケージの開発, 2020-2024年度, 学術研究助成基金基盤研究(C)</p>
<p>学内研究助成金</p>	<p><u>桜井志保美</u>, *<u>松家佳代子</u>, <u>山路朋子</u>, <u>牛村春奈</u> : 乳幼児をもつ父親の子どもへの愛着形成に関わる要因の探索, 2024年度学内研究助成 <u>米澤洋美</u>, <u>塚田久恵</u>, <u>桜井志保美</u>, <u>石川倫子</u>, <u>石井和美</u>, <u>瀬戸清華</u>, <u>室野奈緒子</u>, <u>嶋雅奈恵</u>, <u>山路朋子</u>, <u>牛村春奈</u> : 令和6年度能登半島地震被災地におけるフェーズに応じた避難者等への健康支援, 令和6年度地域ケア総合センター事業 <u>山路朋子</u>, <u>桜井志保美</u>, <u>日高未希恵</u>, <u>牛村春奈</u> : 地域ケアスタッフが捉える高齢者の退院後の日常生活における課題, 2023 ~ 2024 <u>牛村春奈</u>, <u>岩佐和夫</u> : Parkinson病の咀嚼運動と栄養に関する研究</p>
<p>研究助成金</p>	<p>本学教員が研究代表者 本学教員が分担者 なし</p>
<p>その他受賞等 受賞, 特許, 臨床活動</p>	<p>なし</p>

<p>社会貢献・地域貢献</p> <p>公開講座</p> <p>他団体との連携事業</p> <p>国際交流</p> <p>非常勤講師等</p> <p>看護研究指導</p> <p>学会や学外団体での活動</p>	<p><委嘱状や依頼文書等が来たもの></p> <p><u>桜井志保美</u>：かほく市介護保険運営協議会・委員長，R6～R9.3</p> <p><u>桜井志保美</u>：かほく市地域密着型サービス施設等整備事業者選考委員会，R6～R9.3</p> <p><u>桜井志保美</u>：宝達志水町在宅医療・介護連携推進協議会，R6～R9.3</p> <p><u>桜井志保美</u>：宝達志水町認知症初期集中支援評価委員会，R6～R9.3</p> <p><u>桜井志保美</u>：石川県医療在宅ケア事業団かほく高松訪問看護ステーション運営委員会</p> <p><u>桜井志保美</u>：石川県社会福祉協議会令和6年度喀痰吸引等研修企画委員</p> <p><u>桜井志保美</u>：石川県社会福祉協議会令和6年度喀痰吸引等研修講師「重度障害児・者等の地域生活等に関する講義」</p> <p><u>桜井志保美</u>：北陸大学薬学部，非常勤講師，看護学2コマ</p> <p><u>桜井志保美</u>：看護サイエンス学会論文査読</p> <p><u>牛村春奈</u>：地域・在宅看護論に活かす訪問看護の実際 自宅療養者の願いをかなえる訪問看護，座長，2024.11.2</p> <p><u>牛村春奈</u>：Rare Disease Day Japan（世界希少・難治性疾患の日）RDD 中高生向けセミナー，講師，2024.12.9</p> <p><u>牛村春奈</u>：かほく市くらし部会，2024</p> <p><u>牛村春奈</u>：かほく市健康レッスン，口のはたらきと認知症，講師，2025.1.24</p> <p><委嘱状や依頼文書等が来ていないもの></p> <p><u>米澤洋美</u>，<u>桜井志保美</u>：珠洲市宝立小学校避難所および仮設住宅家庭訪，2024.4.12</p> <p><u>桜井志保美</u>，<u>山路朋子</u>：珠洲市避難者把握在宅家庭訪問調査参加2024.8.22</p> <p><u>桜井志保美</u>，<u>山路朋子</u>，<u>牛村春奈</u>，<u>幅大二朗</u>：能登町小木公民館サロン（被災者支援，2025.3.7</p> <p><u>米澤洋美</u>（事業代表者），<u>塚田久恵</u>，<u>桜井志保美</u>，<u>石川倫子</u>，<u>石井和美</u>，<u>瀬戸清華</u>，<u>室野奈緒子</u>，<u>嶋雅奈恵</u>，<u>山路朋子</u>，<u>牛村春奈</u>：令和6年能登半島地震被災地におけるフェーズに応じた避難者等への健康支援</p> <p><u>桜井志保美</u>，<u>牛村春奈</u>，<u>山路朋子</u>（企画）<u>川島和代</u>（講師）：はじめてみよう事例研究，2024.11</p> <p><u>山路朋子</u>：FMかほく「月曜なるほどインタビュー」，2025.1</p>
---	---

6.11 精神看護学講座

所属（大講座等）・職位	精神看護学講座・教授	氏名	美濃由紀子
	精神看護学講座・講師		大江 真吾
	精神看護学講座・助教		高濱 圭子
	精神看護学講座・助教		川俣 文乃

評価領域	個人の記載
研究業績	
書籍（著書）	
学術論文	<p><査読有></p> <p>Oe S., Mino Y., : Characteristics of care for individuals with autism spectrum disorder and their families provided by psychiatric visiting nurses, Journal of Society Nursing Practice, 2025 (In Press)</p> <p>窪田晃奈, 松本智里, 美濃由紀子, 峰松健夫, 紺家千津子, 牧野智恵, 江藤真由美, 臺美佐子: 思春期・若年成人 (AYA) 世代造血器がん患者の再発告知後の体験 -2 事例へのインタビューによる質的研究-. 看護実践学会誌 (Journal of Society of Nursing Practice) , 36(2), 2025 (In Press)</p> <p>竹内雅結, 川俣文乃, 大江真吾, 美濃由紀子: 医療観察法にもとづく通院処遇対象者への訪問看護に関する研究動向と課題の検討. 日本精神科看護学術集会誌66(2), 143-147. 2024</p> <p>Oe S., Nakai H., Nagayama Y., Oe M., Yamaguchi C. : Factors Associated with Worsening Post-Earthquake Psychiatric Symptoms in Patients Receiving Psychiatric Visiting Nurse Services during the 2024 Noto Peninsula Earthquake: A Retrospective Study, Psychiatry International, 2025.2</p> <p>大江真吾: 知的障害者および発達障害者の刈り取り機操作における走行方向補正システムの効果検証, 看護理工学会誌, 2025 (印刷中)</p> <p><査読無></p>
その他の原稿	
学会発表（研究発表・招聘講演, パネリスト, 基調講演等）	柴愛莉, 川俣文乃, 大江真吾, 美濃由紀子: 統合失調症患者を主人公とした映画の視聴が疾患・対象理解に及ぼす影響—看護学生への面接調査—. 第50回日本看護研究学会学術集会, 日本看護研究学会

	<p>第50回学術集会講演集, 175, 2024. 8</p> <p>額奈々, <u>美濃由紀子</u>: 日本におけるトランスジェンダーへの看護に関する研究の動向と課題. 第50回日本看護研究学会学術集会, 日本看護研究学会第50回学術集会講演集, 2024. 8</p> <p><u>川俣文乃</u>, <u>美濃由紀子</u>, 宮本品, 宮本眞巳: 感情という糸口から事例の真実に迫る包括的事例検討会 ―Well being の実現を援助する感性を磨こう―. 第 38 回日本保健医療行動科学学会学術大会, 第38回日本保健医療行動科学学会学術大会プログラム・抄録集, 44, 2024. 10</p>
<p>研究助成金・ 研究費等の獲得</p>	<p><科学研究費補助金> 本学教員が研究代表者</p> <p>本学教員が分担者</p> <p><科学研究助成基金助成金> 本学教員が研究代表者</p> <p><u>美濃由紀子</u>: 文部科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 他害行為を行った精神障がい者の評価, 治療, 社会復帰支援における看護師の役割, 基盤 (C) ~ 2024年度</p> <p><u>美濃由紀子</u>: 「司法精神看護学」教育のカリキュラムの開発と多職種連携教育方法の検討. 文部科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 基盤 (C) 2024年度~</p> <p><u>大江真吾</u>: 自閉スペクトラム症者への精神科訪問看護ケアに関する主観的・客観的データからの分析, 文部科学研究費助成事業 基盤C 2024年度~</p> <p>本学教員が分担者</p> <p>谷本千恵, 河西千秋, <u>大江真吾</u>, 塚田久恵, 船山健二: 患者の自殺を体験した精神科看護師のメンタルヘルスケアプログラムの開発, 科学研究費助成事業 基盤(C) ~ 2023年度</p> <p><u>美濃由紀子</u>: 自閉症スペクトラム症者への精神科訪問看護ケアに関する主観的・客観的データからの分析, 文部科学研究費助成事業 基盤(C) 2024年度~</p> <p><u>大江真吾</u>: 「司法精神看護学」教育カリキュラム開発と多職種連携教育方法の検討, 文部科学研究費助成事業 基盤(C) 2024年度~</p>
<p>学内研究助成金</p>	<p><u>高濱圭子</u>, <u>大江真吾</u>, <u>川俣文乃</u>, 松本勝, <u>美濃由紀子</u>: 精神科入院患者における便秘の実態調査と超音波画像装置 (エコー) を用いた</p>

	看護ケアの検討. 石川県立看護大学 学内研究助成（二次），2023 - 2024
研究助成金	本学教員が研究代表者 本学教員が分担者
その他受賞等 受賞，特許，臨床活動	石田元彦， <u>大江真吾</u> ，浅野桂悟：受賞，石川TECH PLANTER フォーカスシステムズ賞，2024. 11
社会貢献・地域貢献 公開講座 他団体との連携事業 国際交流 非常勤講師等 看護研究指導 学会や学外団体での活動	<p><委嘱状や依頼文書等が来たもの></p> <p><u>美濃由紀子</u>，<u>宮本眞巳</u>他：一般社団法人日本精神科看護協会 広島県支部 研修会「気がかりを見つめ直しケアにつなげる異和感の対自化」. 企画委員，研修会講師. 2024. 5. 24（広島）</p> <p><u>美濃由紀子</u>，<u>川俣文乃</u>，<u>高濱圭子</u>，<u>宮本眞巳</u>他：一般社団法人日本精神科看護協会 精神科認定看護師教育課程 精神科看護学3 精神科看護実践における援助関係（援助関係、プロセスレコード、事例検討という方法、患者一看護者関係に焦点をあてた事例検討会）企画委員，研修会講師. 2024. 7. 9～10（東京）</p> <p><u>美濃由紀子</u>，<u>川俣文乃</u>，<u>宮本眞巳</u>他：一般社団法人日本精神科看護協会 精神科認定看護師教育課程 精神科看護学3 精神科看護実践における援助関係（援助関係、プロセスレコード、事例検討という方法、患者一看護者関係に焦点をあてた事例検討会）企画委員，研修会講師. 2024. 7. 22～23（東京）</p> <p><u>美濃由紀子</u>，<u>川俣文乃</u>，<u>宮本眞巳</u>他：一般社団法人日本精神科看護協会 研修会「気がかりを見つめ直しケアにつなげる異和感の対自化」. 企画委員，研修会講師. 2024. 11. 10（東京）</p> <p><u>美濃由紀子</u>：国立・精神神経研究センター 精神保健研究所 地域精神保健・法制度研究部 客員研究員</p> <p><u>美濃由紀子</u>：日本司法精神医学会 査読委員</p> <p><u>美濃由紀子</u>：石川看護雑誌 査読委員</p> <p><u>美濃由紀子</u>：かほく市地域自立支援協議会 委員</p> <p><u>美濃由紀子</u>：准看護師試験委員会 委員</p> <p><u>美濃由紀子</u>：能登半島地震・石川こころのケアセンター 相談員</p> <p><u>大江真吾</u>：かほく市自殺対策推進委員会 委員長</p> <p><u>大江真吾</u>：あおカフェ，かほく市こども発達相談支援センター</p> <p><u>大江真吾</u>：看護研究指導・講評，国立病院機構金沢医療センター</p> <p><u>大江真吾</u>：看護師国家試験試験対策テスト 作問，メディカ出版</p> <p><u>大江真吾</u>：看護実践学会 査読委員</p>

大江真吾：「精神看護方法論Ⅱ」「精神看護方法論Ⅲ」，金沢医療技術専門学校，2024. 9. 9, 9. 10, 2025. 1. 28, 1. 29

<委嘱状や依頼文書等が来ていないもの>

美濃由紀子，大江真吾，川俣文乃，高濱圭子，宮本眞巳：「感性を磨く事例検討会」，石川県立看護大学，オンライン開催，2024. 4. 11, 5. 9, 6. 13, 7. 11, 9. 12, 10. 10, 11. 14, 12. 12, 2025. 1. 9, 2. 13, 3. 13

美濃由紀子，大江真吾，川俣文乃，高濱圭子：地域ケア総合センター事業「こころのシネマ学園台」：石川県立看護大学，2024. 10. 5

美濃由紀子，大江真吾，川俣文乃，高濱圭子：地域ケア総合センター事業「CINEMA de カフェ」：石川県立看護大学，2024. 10. 5

大江真吾，高濱圭子：石川県立こころの病院看護部「高齢者・排泄ケア」看護実践活動グループ 2024. 6. 6, 7. 4, 8. 1, 2025. 2. 6

垣花渉，高濱圭子：「遊びつくせ」一般社団法人スポーツコミッションかほく2024. 5. 18

垣花渉，高濱圭子：「浜をきれいに！浜であそぼう！」一般社団法人スポーツコミッションかほく 2024. 6. 15

垣花渉，高濱圭子：「海であそぼう！海を考えよう！」～楽しみながらSDGsについて考える 一般社団法人スポーツコミッションかほく 2024. 9. 28

川俣文乃：FMかほく「月曜なるほどインタビュー」出演. 2024. 4. 15

6.12 共同研究講座看護理工学

所属（大講座等）・職位	共同研究講座看護理工学・共同研究講座教授	氏名	大貝 和裕
	共同研究講座看護理工学・共同研究講座准教授		長谷川陽子

評価領域	個人の記載
研究業績 書籍（著書）	<p>長谷川陽子, 須釜淳子（共著）:第6章 疾患における栄養療法 8. 褥瘡, 病態栄養専門管理栄養士のための病態栄養ガイドブック 改訂第8版, 283-287, 南江堂, 東京, 2025.3</p> <p>長谷川陽子:2章E. 終末期における褥瘡と栄養管理, 終末期の褥瘡, 石澤美保子・玉井奈緒編集, 真田弘美監修, 37-42, 南山堂, 東京, 2025.3</p>
学術論文	<p><査読有></p> <p>Miyamae N, <u>Ogai K</u>, Kunimitsu M, Fujiwara M, Nagai M, Okamoto S, Okuwa M, Oe M: Relationship between severe radiodermatitis and skin barrier functions in patients with head and neck cancer: A prospective observational study. Asia-Pacific Journal of Oncology Nursing, 12, 100625, 2025.2</p> <p>Mizuno S, Takabayashi M, Makihara H, <u>Ogai K</u>, Tsukui K, Ito Y, Kawakami T, Hara Y, Fujita A, Tokudome Y, Akase T, Kato Y, Shimada T, Sai Y: Effect of changes in skin properties due to diabetes mellitus on the titration period of transdermal fentanyl: single-center retrospective study and diabetic animal model study. Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences, 10(1), 80, 2024.12</p> <p>Miyajima Y, Karashima S, Mizoguchi R, Kawakami M, Ogura K, <u>Ogai K</u>, Koshida A, Ikagawa Y, Ami Y, Zhu Q, Tsujiguchi H, Hara A, Kurihara S, Arakawa H, Nakamura H, Tamai I, Nambo H, Okamoto S: Prediction and causal inference of hyperuricemia using gut microbiota. Scientific Reports, 14(1), 9901, 2024.4</p> <p><u>Ogai K</u>, <u>Hasegawa Y</u>, Kato K, Takizawa R, Nuka N, Imakata Y, Onishi Y, Matsumoto C, Matsumoto M, Dai M, Konya C, Minematsu T. Validation of liquid-phase method of skin blot samples. Journal of Nursing Science and Engineering. 12: 10-16. 2024. doi.org/10.24462/jnse.12.0_10</p> <p><u>Hasegawa Y</u>, *Kato K, <u>Ogai K</u>, Konya C, Minematsu T: Need for a consensus definition of chronic dehydration: A scoping review. Drug Discoveries and Therapeutics. 18(2), 75-79, 2024.6</p>

	<p>*<u>Kato K</u>, <u>Hasegawa Y</u>, <u>Ogai K</u>, Konya C, Minematsu T: Evaluation indicators for chronic dehydration: A scoping review. Journal of Nursing Science and Engineering, 11, 263-270. 2024.7</p> <p><査読無> なし</p>
<p>その他の原稿</p>	<p>桑波田雅士, 木戸康博, 鈴木良雄, 速水耕介, <u>長谷川陽子</u>, 宇野千晴, 鈴木大輔: たんぱく質の必要量策定に資する基礎資料に関する研究. 令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業 日本人の食事摂取基準(2025年版)の策定に資する各栄養素等の最新知見の評価及び代謝性疾患等の栄養評価に関する研究 令和5年度総括・分担研究報告書, 129-144, 2025.1</p> <p>Nishioka S, <u>Hasegawa Y</u>: Addressing sarcopenia in people with disabilities: Definition, assessment and nutritional care. Medical Nutrition Matters, 44(1), 2-10. 2024.10</p>
<p>学会発表(研究発表・ 招聘講演, パネリスト, 基調講演等)</p>	<p><u>大貝和裕</u>, *<u>宮崎愛</u>, <u>長谷川陽子</u>, 戸部浩美, *<u>加藤克典</u>, 瀧澤理穂, 額奈々, 今方裕子, 大西陽子, 松本智里, 松本勝, 臺美佐子, 紺家千津子, 峰松健夫: スキンブロットィングによるアトピー性皮膚炎患者のサイトカイン定量. 第12回看護理工学会学術集会, 石川県かほく市, 2024.11</p> <p><u>大貝和裕</u>, <u>長谷川陽子</u>, 戸部浩美, *<u>加藤克典</u>, 今方裕子, 大西陽子, 松本智里, 松本勝, 臺美佐子, 紺家千津子, 峰松健夫: 非紫外線間接照射のアトピー性皮膚炎改善効果. 第33回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 山口県下関市, 2024.5</p> <p>*<u>Inami R</u>, <u>Hasegawa Y</u>, <u>Ogai K</u>, *<u>Kato K</u>, Nuka N, Onishi Y, Matsumoto M, Konya C, Minematsu T: Reliability and validity of skin blot examination for adenosine triphosphate to detect pressure-induced minor tissue damage. 2024 Wound Healing Society, Orlando, Florida, 2024.5</p> <p>*<u>Kato K</u>, Minematsu T, Takizawa C, Tomida S, Kato Y, Oda Y, Hirata Y, Wakizaka M, <u>Hasegawa Y</u>, <u>Ogai K</u>, Nakagami G, Konya C, Sanada H: The promotion of critically colonized wound healing by cleansing with Soforo-fine bubbles. 2024 Wound Healing Society, Orlando, Florida, 2024.5</p> <p>*<u>Miyazaki M</u>, <u>Ogai K</u>, <u>Hasegawa Y</u>, Tobe H, *<u>Kato K</u>, Nuka N, Onishi Y, Matsumoto M, Konya C, Minematsu T: Skin blot</p>

examination for changes in systemic cytokine profiles induced by indirect irradiation of ultraviolet-free light on atopic dermatitis patients: an interventional pre-post study. 2024 Wound Healing Society, Orlando, Florida, 2024. 5

峰松健夫, 大貝和裕, 長谷川陽子, 脇坂都, 加藤頼子, 尾田友香, 吉田智, 平田善彦: ソホロファインバブルを用いて洗浄したクリティカルコロナイゼーション創における細菌の組織内分布. 第54回日本創傷治癒会, 東京都千代田区, 2024. 12

石井光子, 紺家千津子, 峰松健夫, 臺美佐子, 松本勝, 北村言, 大貝和裕, 長谷川陽子, 真田弘美: 令和6年能登半島地震における褥瘡ケア支援部会の活動からみえたこと. 第31回石川県看護学会, 石川県金沢市, 2024. 11

*加藤克典, *高松楓佳, *野村風花, 米澤洋美, 塚田久恵, 金子紀子, 室野奈緒子, 嶋雅奈恵, 長谷川陽子, 大貝和裕, 額奈々, 瀧澤理穂, 大西陽子, 今方裕子, 松本勝, 松本智里, 臺美佐子, 紺家千津子, 真田弘美, 峰松健夫: スキンプロットニングによる軽度認知障害スクリーニング法の開発: アミロイドβの検出と軽度認知障害同定精度. 第12回看護理工学会学術集会, 石川県かほく市, 2024. 11

*稲實瑠夏, 長谷川陽子, 大貝和裕, *加藤克典, 今方裕子, 大西陽子, 松本智里, 松本勝, 臺美佐子, 紺家千津子, 峰松健夫: 軽微な組織障害を検出するためのスキンプロットニングを用いたポイントオブATP検査の妥当性・信頼性の検証. 第12回看護理工学会学術集会, 石川県かほく市, 2024. 11

長谷川陽子, 大貝和裕, *加藤克典, 今方裕子, 大西陽子, 松本智里, 松本勝, 臺美佐子, 紺家千津子, 峰松健夫: I度褥瘡の予後を予測するスキンプロット検査の開発: 細菌の影響を受けないATP抽出試薬の検討. 第33回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 山口県下関市, 2024. 5

長谷川陽子: 管理栄養士として米国大学院・臨床留学を経て、何を学び、何を考え、どう生かすか. 特別企画2 管理栄養士の海外留学のすすめ, 第28回日本病態栄養学会年次学術集会, 京都府京都市, 2025. 1

石井光子, 紺家千津子, 峰松健夫, 臺美佐子, 松本勝, 北村言, 大貝和裕, 長谷川陽子, 真田弘美: 令和6年能登半島地震における褥瘡ケア支援部会の活動からみえたこと. 第31回石川県看護学会, 石川県金沢市, 2024. 11

長谷川陽子, 紺家千津子, 石井光子, 峰松健夫, 真田弘美: 1.5次避難所の褥瘡患者における栄養学的特徴と課題. 第24回北陸PEG・在宅

	<p>栄養研究会，石川県金沢市，2024.10</p>
<p>研究助成金・ 研究費等の獲得</p>	<p><科学研究費補助金> 本学教員が研究代表者</p> <p>本学教員が分担者</p> <p><科学研究助成基金助成金> 本学教員が研究代表者 <u>大貝和裕</u>，<u>真田弘美</u>，<u>峰松健夫</u>：褥瘡再発を予防する「自己皮膚細菌叢コピー&ペーストドレッシング材」の開発，R6～R8，科学研究費助成事業挑戦的研究（萌芽） <u>大貝和裕</u>，<u>須釜淳子</u>：皮膚細菌・真菌叢に着目した失禁関連皮膚炎の新規リスクファクター探索と予防ケア開発，R3～R6，科学研究助成基金助成金基盤研究（B）</p> <p><u>長谷川陽子</u>：スキンプロテクト法を用いた非侵襲的栄養評価法の開発と在宅栄養管理への応用，2023～2025，学術研究助成基金助成金若手研究</p> <p>本学教員が分担者 <u>鏡真美</u>，<u>毎田佳子</u>，<u>南香奈</u>，<u>大貝和裕</u>：ヘルスケアラボでつくる新しいプレコンセプションケアを中心とした健康支援パッケージ，R6～R8，科学研究助成基金助成金基盤研究（C） <u>松本勝</u>，<u>大貝和裕</u>，<u>真田弘美</u>，<u>小路和幸</u>，<u>仲上豪二郎</u>，<u>幅大二郎</u>：非拘束センシングによる椅座位での聴診音モニタリング手法と異音検知システムの開発，R6～R8，科学研究費助成事業挑戦的研究（萌芽） <u>樋口幸</u>，<u>吉田成一</u>，<u>大貝和裕</u>：妊娠期の高脂肪食摂取が出生児の皮膚に与える影響と増悪・感受性要因の解明，R5～R8，科学研究助成基金助成金基盤研究（B） <u>松井優子</u>，<u>久村和穂</u>，<u>紺家千津子</u>，<u>西部明子</u>，<u>大貝和裕</u>：がん患者のアピアランス問題解決のための美容業と患者の互助を促すICTツールの開発，R4～R6，科学研究助成基金助成金基盤研究（C） <u>宮前奈央</u>，<u>大桑麻由美</u>，<u>大貝和裕</u>，<u>岡本成史</u>，<u>大江真琴</u>：頭頸部がん患者の重症放射線皮膚炎の評価指標と関連するスキンパラメーターの同定，R5～R7，科学研究助成基金助成金基盤研究（C） <u>嶋田努</u>，<u>榎原弘子</u>，<u>崔吉道</u>，<u>大貝和裕</u>，<u>藤田有美</u>：経皮吸収型製剤の皮膚透過に与える薬剤性皮膚機能変動の影響と網羅的メカニズムの解明，R5～R7，科学研究助成基金助成金基盤研究（C）</p>

<p>学内研究助成金</p>	<p><u>長谷川陽子</u>：スキنبロットティング法を用いた亜鉛欠乏症のポイントオブケア検査の確立，2024，2024年度学内研究助成</p>
<p>研究助成金</p>	<p>本学教員が研究代表者</p> <p><u>大貝和裕</u>：採血いらずのコレステロール検査：スキنبロットティングによるLDL・HDLコレステロール測定法の確立，R6，公益財団法人三谷研究開発支援財団研究助成</p> <p><u>長谷川陽子</u>：スキنبロットティング方による亜鉛評価法の信頼性・妥当性の検証，2025，公益財団法人テルモ生命科学振興財団 研究助成</p> <p><u>長谷川陽子</u>：I度褥瘡の予後を予測するスキنبロット検査の開発：細菌の影響を受けないポイントオブケアATP検査の信頼性と妥当性，2024，一般社団法人日本創傷・オストミー失禁管理学会アルケア技術・研究助成</p> <p>本学教員が分担者 なし</p>
<p>その他受賞等 受賞，特許，臨床活動</p>	<p>峰松健夫，<u>大貝和裕</u>，<u>長谷川陽子</u>，平田善彦：特許出願，軽度認知障害検出マーカー及びその使用，特願2024-181346，2024.10</p> <p><u>大貝和裕</u>：ラジオ出演，FMかほく「気づかぬうちに水分不足！かくれ脱水とその検査法について」，2024.6</p> <p><u>長谷川陽子</u>：受賞，第24回北陸PEG・在宅栄養研究会 優秀賞，2024.10</p> <p><u>長谷川陽子</u>：ラジオ出演，FMかほく「痛くない、採血要らずのパッチテスト型血液検査の開発へ向けて」，2024.5</p> <p><u>長谷川陽子</u>：臨床活動，医療法人社団浅ノ川 千木病院 褥瘡回診，2024.4～2025.3</p>
<p>社会貢献・地域貢献 公開講座 他団体との連携事業 国際交流 非常勤講師等 看護研究指導 学会や学外団体での活動</p>	<p><委嘱状や依頼文書等が来たもの></p> <p><u>大貝和裕</u>：看護理工学会 評議員，編集委員，広報委員会副委員長，教育委員会</p> <p><u>大貝和裕</u>：日本創傷治癒学会 評議員</p> <p><u>大貝和裕</u>：日本創傷・オストミー・失禁管理学会 論文賞・研究助成選考委員会</p> <p><u>大貝和裕</u>：第12回看護理工学会学術集会 実行委員長</p>

大貝和裕：金沢大学つるま同窓会 会長 / 金沢大学学友会 副会長

大貝和裕：金沢大学医薬保健研究域保健学系 研究協力員

大貝和裕：東京大学大学院医学系研究科老年看護学／創傷看護学分野 客員研究員

大貝和裕，峰松健夫：ベトナム・チョーライ病院研究交流，2025. 3

大貝和裕：「栄養・生化学」講義，金沢大学，2024. 4～2024. 8

大貝和裕：「医用工学概論」講義，金沢大学，2024. 4～2024. 8

大貝和裕：「情報管理学」講義，金沢大学，2024. 10～2025. 1

長谷川陽子：日本栄養治療学会 学術評議員，2022. 2～現在

長谷川陽子：看護理工学会 学会賞選考委員会委員，2023. 12～現在

長谷川陽子：京都府立大学生命環境学部食保健学科 共同研究員，2023. 4～現在

長谷川陽子：第12回看護理工学会学術集会 実行委員，2024. 11

長谷川陽子：「糖尿病の食事療法」講義，日本母性看護学会主催 糖代謝異常妊産褥婦への看護支援セミナー，2024. 12

<委嘱状や依頼文書等が来ていないもの>

長谷川陽子：第25回日本健康・栄養システム学会 プログラム委員

長谷川陽子：栄友会（徳島大学医学部栄養学科・医科栄養学科同窓会）東日本支部 幹事（学術企画），2024～2027年度

長谷川陽子：「もしもに備えて今日から始める「食」と健康」講演，北國健康生きがい支援事業 令和6年度石川県立看護大学プログラム「平時から災害時まで家族と自分の健康を守るには」，2024. 12

長谷川陽子：「褥瘡の栄養管理」講義，令和6年度 専門的看護実践力研修事業「皮膚・排泄ケア」研修プログラム，2024. 9

長谷川陽子：「まだまだ間に合う！もっと増やそう！筋肉貯金！！～筋肉を増やす食事のコツ～」講演，かほく市地域公開講座，2024. 6

長谷川陽子：日本栄養士会 ラオ日栄養改善プロジェクト病院給食検討チーム，2023. 12～2024. 6

6.13 共同研究講座ウェルビーイング看護学

所属（大講座等）・職位	共同研究講座ウェルビーイング看護学・共同研究講座教授	氏名	松本 勝
	共同研究講座ウェルビーイング看護学・共同研究講座講師		幅 大二郎

評価領域	個人の記載
研究業績 書籍（著書）	<p>松本勝, 河本敦夫, 野村岳志（編集）, 真田弘美（監修）: ポイントオブケア看護エコー: ポケットエコーで看護力アップ. 照林社, 東京, 2024</p> <p>松本勝, 真田弘美: 特集「便秘を科学する」. 看護の力: エコーによる直腸便貯留の観察に基づく排便ケア. 週刊医学のあゆみ. 2024;289(8):578-582.</p> <p>松本勝: Column 終末期褥瘡ケアに役立つ技術: エコー. 終末期の褥瘡. 169-172, 南山堂, 東京, 2025</p>
学術論文	<p><査読有></p> <p>松本勝, 大西陽子, 下橋和也, 杉浦裕愛, 山本翔子, 大橋史弥, 峰松健夫, 真田弘美, 紺家千津子: 初学者を対象とした非対面での膀胱エコー教育による技術習得度に対する効果検証: 対面教育・遠隔ライブ教育・VRオンデマンド教育の比較, 看護理工学会誌, 2024;12:1-9. (2022年度卒研) (責任著者)</p> <p>Misawa N, <u>Matsumoto M</u>, Tsuda M, Tamura S, Takatsu T, Yoshihara T, Ashikari K, Kessoku T, Ohkubo H, Higurashi T, Sanada H, Kato M, Nakajima A: Diagnostic ability of ultrasonography compared to computed tomography for feces in the rectum. Journal of the Anus, Rectum and Colon. 2024;8(2):126-131.</p> <p>Sano Y, <u>Matsumoto M</u>, Akiyama K, Urata K, Matsuzaka N, Tamai N, Miura Y, Sanada H: Evaluating accuracy of rectal fecal property assessment using ultrasonography: A transgluteal cleft approach scanning method. Healthcare. 2024;12(13):1251.</p> <p>Kessoku T, <u>Matsumoto M</u>, Misawa N, Tsuda M, Miura Y, Uchida A, Toriumi Y, Onodera T, Arima H, Kawamoto A, Sugama J, Matsushima M, Kato M, Manabe N, Tamai N, Sanada H, Nakajima A: Expert Consensus Document: An Algorithm for the Care and Treatment of Patients with Constipation Based on Ultrasonographic Findings in the Rectum. Diagnostics. 2024;14(14):1510.</p> <p>Yamamoto A, Kessoku T, Ogata T, Jono T, Takahashi K, Tanaka</p>

K, Suzuki K, Takeda Y, Ozaki A, Kasai Y, Okubo N, Iwaki M, Kobayashi T, Misawa N, Yoshihara T, Suzuki A, Fuyuki A, Kobayashi N, Matsumoto M, Tamai N, Sanada H, Oyamada S, Ichikawa Y, Nakajima A : A Handheld Ultrasound Device Can Predict Constipation with Rectal Fecal Retention in a Palliative Care Setting. *Diagnostics*. 2024; 14(15):1626.

Ogai K, Hasegawa Y, Kato K, Takizawa R, Nuka N, Imakata Y, Onishi Y, Matsumoto C, Matsumoto M, Dai M, Konya C, Minematsu T : Validation of liquid-phase method of skin blot samples. *Journal of Nursing Science and Engineering*. 2024;12:10-16.

Takahashi T, Higashimura S, Ninomiya T, Fujimura S, Sugimoto N, Horai T, Abe T, Kitamura A, Matsumoto M, Nakagami G, Sanada H : The Long-Term Use of Communication Robots by Users of Visiting Healthcare Services: Development of an Integrated Vital Signs Measurement System. *Cureus*, 2025;17(1):e77635.

Takizawa C., Qin Q., Haba D., Sasaki S., Kawasaki A., Miyake T., Oba J., Kitamura A., Abe-Doi M., Tomida S., Nakagami G. : Relationship between gene expression associated with cellular senescence in cells from discarded wound dressings and wound healing: A retrospective cohort study. *Journal of Tissue Viability*. 33.4.2024

Sasaki Y., Ohshiro K., Kato M., Haba D., Nakagami G., Minami T. : Detection of micromolar glucose levels in human sweat using an organic transistor-based enzymatic sensor. *ChemElectroChem*. 11.2024

Horinouchi A, Mugita Y, Tomida S, Takizawa C, Haba D, Sanada H, Nakagami G : Incontinence-associated dermatitis-like skin changes induced by the application of absorbent pads containing bacteria and artificial urine in rats. *Experimental Dermatology*. 33.11.2024

Shinkawa M, Mugita Y, Takahashi T, Haba D, Sanada H, Nakagami G : A novel skin temperature estimation system for predicting pressure injury occurrence based on continuous body sensor data: A pilot study. *Clinical Biomechanics*. 122.106413.2024

仲上豪二郎, 幅大二郎, 真田弘美 : 創傷治癒促進を目的とした振動刺激デバイス開発に向けた看護理工学研究による挑戦. *物理療法科学*. 2024.6.3

	<p><査読無> なし</p>
その他の原稿	<p>幅大二郎：日本創傷治癒学会 ニューズレター No143, 2024. 9</p>
学会発表（研究発表・ 招聘講演、 パネリスト、 基調講演等）	<p>松本勝：ランチョンセミナー6 排せつ支援のInnovation：排せつのプロセスと予測、処置、場所. 第33回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会. 海峡メッセ下関, 2024年5月26日</p> <p>松本勝, 玉井奈緒, 真田弘美：シンポジウムPoint Of Care 1 POCUSの多様性を考える：看護領域におけるPOCUSの活用と課題. 日本超音波医学会第97回学術集会, パシフィコ横浜, 2024年5月31日</p> <p>松本勝, 真田弘美：シンポジウム5 看護管理：エコーを活用したアセスメントによる排便管理. 第32回日本意識障害学会. ウィンクあいち, 2024年7月27日</p> <p>松本勝, 紺家千津子：ワークショップ2 排便管理と排尿管理：日本創傷・オストミー・失禁管理学会が取り組む多職種チームによるエコーを用いた排便ケア. 第31回日本排尿機能学会, ビッグパレットふくしま, 2024年9月5日</p> <p>松本勝：ランチョンセミナー1 多職種で取り組む便秘エコーに基づく治療とケア. 日本超音波医学会第60回中国地方会学術集会, 岡山国際交流センター, 2024年9月7日</p> <p>松本勝, 津田桃子, 三澤昇, 結束貴臣：コンセンサスミーティング～エコー所見分類にもとづく治療戦略とケアのアップデート～. 第4回慢性便秘エコー研究会, 富士フイルム株式会社東京ミッドタウン本社, 2024年10月19日</p> <p>松本勝：今話題の便秘エコー講座：エビデンスと実践. 松沢便秘プロジェクト便秘エコー講演会, 東京都立松沢病院, 2024年10月22日</p> <p>松本勝：ランチョンセミナー2 産学連携で“幸福寿命を延伸する”未来の看護への取り組み. 社会実装を目指す新たな共同研究講座の取り組み. 第12回看護理工学会学術集会, 石川県立看護大学, 2024年11月3日</p> <p>松本勝, 真田弘美：パネルディスカッション1 デジタルヘルスの未来に貢献する、看護ケアイノベーション. 看護理工学によるケアイノベーション：便秘エコーシステムの開発と遠隔支援. 第28回日本遠隔医療学会学術集会, 岡山コンベンションセンター, 2024年11月9日</p> <p>松本勝：ポイントオブケア看護エコー最前線. ポケットエコーで看護力アップ・看護師向け超音波セミナー. 第20回日本医学シミュ</p>

レーション学会学術集会, 新潟医療人育成センター, 新潟, 2025年2月16日

紺家千津子, 石井光子, 峰松健夫, 臺美佐子, 松本勝, 北村言, 真田弘美: 令和6年能登半島地震: 褥瘡ケア支援システムの構築と運営.

12回看護理工学会学術集会, 石川県立看護大学, 石川, 11月3日

石井光子, 紺家千津子, 峰松健夫, 臺美佐子, 松本勝, 北村言, 大貝和裕, 長谷川陽子, 真田弘美: シンポジウム「令和6年能登半島地震を経て今取り組んでいる事ー復興に向けて共に進んでいくためにー」, 令和6年能登半島地震における褥瘡ケア支援部会の活動から見えたこと. 第31回石川県看護学会, 金沢大学附属病院, 石川, 11月16日

新関こずえ, 小川真里子, 山根匡博, 松本勝: 在宅にてポケットエコーにより尿道留置カテーテルの閉塞が疑われた一例. 第33回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会. 海峡メッセ下関, 2024年5月26日 (示説)

加藤克典, 高松楓佳, 野村風花, 米澤洋美, 塚田久恵, 金子紀子, 室野奈緒子, 嶋雅奈恵, 長谷川陽子, 大貝和裕, 額奈々, 瀧澤理穂, 大西陽子, 今方裕子, 松本勝, 松本智里, 臺美佐子, 紺家千津子, 真田弘美, 峰松健夫: スキンプロットニングによる軽度認知障害スクリーニング法の開発: アミロイドβの検出と軽度認知障害同定精度. 第12回看護理工学会学術集会, 石川県立看護大学, 石川, 11月3日

今村魁星, 松本勝, 加藤克典, 大西陽子, 額奈々, 峰松健夫, 紺家千津子: 初学者を対象とした非対面での直腸エコー教育による技術習得度に対する効果検証: 対面教育・非対面教育の比較. 第12回看護理工学会学術集会, 石川県立看護大学, 石川, 11月3日

大貝和裕, 宮崎愛, 長谷川陽子, 戸部浩美, 加藤克典, 瀧澤理穂, 額奈々, 今方裕子, 大西陽子, 松本智里, 松本勝, 臺美佐子, 紺家千津子, 峰松健夫: スキンプロットニングによるアトピー性皮膚炎患者のサイトカイン定量. 第12回看護理工学会学術集会, 石川県立看護大学, 石川, 11月3日

稲實瑠夏, 長谷川陽子, 大貝和裕, 加藤克典, 今方裕子, 大西陽子, 松本智里, 松本勝, 臺美佐子, 紺家千津子, 峰松健夫: 軽微な組織障害を検出するためのスキンプロットニングを用いたポイントオブATP 検査の妥当性・信頼性の検証. 第12回看護理工学会学術集会, 石川県立看護大学, 石川, 11月3日

北村言, 松本勝, 高橋聡明, 麦田裕子, 島田宗太郎, 平岡桃重, 仲上豪二郎, 真田弘美: エコーによる膀胱内尿量計測の新卒訪問看護師へのVRを用いた教育. 12回看護理工学会学術集会, 石川県立看護大

	<p>学, 石川, 11月3日</p> <p>秦齊, 滝沢知大, 幅大二郎, 富田早苗, 仲上豪二郎: 創傷治癒過程を特徴づける滲出液中宿主細胞の遺伝子発現パターンの探索. 第33回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会. 下関. 2024. 5, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会助成採択演題. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌. 2024;28(2). 119</p> <p>堀之内愛, 麦田裕子, 富田早苗, 滝沢知大, 幅大二郎, 真田弘美, 仲上豪二郎: 失禁関連皮膚炎の予防における尿吸収パッドの効果検証のためのラットモデル確立と病態確認. 第33回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会. 2024. 5, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会助成採択演題. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌. 2024;28(2). 120.</p> <p>Takizawa Chihiro, Qin Qi, <u>Haba Daijiro</u>, Tomida Sanai, Nakagami Gojiro: Hydrogen peroxidase-induced senescent wound healing model using a scratch assay model. Tokyo, 2024. 7, UTokyo Nursing International Conference UTNIC 2024 Program Book. 2024:41.</p> <p>幅大二郎, 仲上豪二郎, 真田弘美: シンポジウム2 (日本リハビリテーション医学会合同企画) リハビリテーション専門職者の褥瘡ケアへの関わり. (シンポジスト) 局所低周波振動刺激による難治性創傷治癒促進の新戦略と将来展望. 第26回日本褥瘡学会学術集会. 姫路. 2024. 日本褥瘡学会誌, 26(3), 309. 2024. 9. 6</p>
<p>研究助成金・ 研究費等の獲得</p>	<p><科学研究費補助金> 本学教員が研究代表者</p> <p>本学教員が分担者</p> <p><科学研究助成基金助成金> 本学教員が研究代表者 <u>松本勝</u>, 河本敦夫, 小路和幸, 玉井奈緒, 三浦由佳, 仲上豪二郎, <u>真田弘美</u>: 訪問看護師のための超音波検査技術遠隔学習システムの構築と在宅での実装. R3-6, 科学研究費助成事業, 基盤研究B.</p> <p><u>幅大二郎</u>: 局所低周波振動刺激による難治性創傷での老化細胞除去促進メカニズムの解明, 2023-2025, 研究活動スタート支援</p> <p>本学教員が分担者</p>

	<p>三浦由佳, 河本敦夫, <u>松本勝</u>, <u>真田弘美</u>, 長谷剛志, 小路和幸, 玉井奈緒: 在宅でのエコーを用いた嚥下視える化データベースに基づく介入の肺炎予防効果の検証. R4-7, 科学研究費助成事業, 基盤研究B.</p> <p>玉井奈緒, <u>松本勝</u>, <u>真田弘美</u>, 高橋聡明, 仲上豪二郎: セルフエコーとAIケアリコメンデーションによる骨盤底筋訓練サポートシステムの開発. R4-6, 科学研究費助成事業, 挑戦的研究(萌芽).</p> <p><u>松本勝</u>, <u>真田弘美</u>, 小路和幸, 仲上豪二郎, <u>幅大二郎</u>: 非拘束センシングによる椅座位での聴診音モニタリング手法と異音検知システムの開発, 2024-2027, 挑戦的研究(萌芽)</p>
<p>学内研究助成金</p>	
<p>研究助成金</p>	<p>本学教員が研究代表者</p> <p>本学教員が分担者</p> <p>なし</p>
<p>その他受賞等 受賞, 特許, 臨床活動</p>	<p>加藤克典, 高松楓佳, 野村風花, 米澤洋美, 塚田久恵, 金子紀子, 室野奈緒子, 鳴雅奈恵, 長谷川陽子, 大貝和裕, 額奈々, 瀧澤理穂, 大西陽子, 今方裕子, <u>松本勝</u>, 松本智里, 臺美佐子, 紺家千津子, <u>真田弘美</u>, 峰松健夫: スキンプロットティングによる軽度認知障害スクリーニング法の開発: アミロイドβの検出と軽度認知障害同定精度. 第12回看護理工学会学術集会 優秀演題賞. 2024年11月3日</p> <p>Takizawa Chihiro, Qin Qi, <u>Haba Daijiro</u>, Tomida Sanai, Nakagami Gojiro. Hydrogen peroxidase-induced senescent wound healing model using a scratch assay model. UTokyo Nursing International Conference UTNIC 2024 Best Poster Award. 2024.7</p>
<p>社会貢献・地域貢献 公開講座 他団体との連携事業 国際交流 非常勤講師等 看護研究指導 学会や学外団体での活動</p>	<p><委嘱状や依頼文書等が来たもの></p> <p><u>松本勝</u>, 保坂明美: エコーによる大腸便貯留評価の活用. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会第2回排便管理講習会, オンデマンド配信期間2024年6月24日~7月22日</p> <p><u>松本勝</u>, 高橋聡明: 動画講義No.28 超音波検査(エコー)を用いた可視化によるフィジカルアセスメント. ナーシング・スキル訪問看</p>

護, エルゼビア・ジャパン株式会社, 2024年7月2日公開. <https://view.highspot.com/viewer/663d95c7cb496bb05e387829>

松本勝: 創傷管理技術 (演習) (1) 創傷のアセスメント (超音波検査). 石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター 皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程. 2024. 8. 22

松本勝, 北村言 (演習補助), 幅大二郎 (演習補助): 一般社団法人次世代看護教育研究所, エコーを用いた排泄ケアコース技術講習会. 石川県立看護大学キャンパス. 2024. 8. 22

松本勝: 創傷管理技術 (演習) (1) 創傷のアセスメント (褥瘡). 石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター 皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程. 2024. 8. 23

松本勝: 創傷のアセスメントと管理, 創傷のアセスメント (超音波検査、サーモグラフィー等). 静岡県立静岡がんセンター認定看護師教育課程 皮膚・排泄ケア分野, 2024. 9. 12

松本勝: 創傷のアセスメントと管理, 創傷のアセスメント (超音波検査、サーモグラフィー等). 京都橘大学看護教育研修センター認定看護師教育課程 皮膚・排泄ケア分野, 2024. 10. 4

松本勝: 第1部 排せつのプロセスと予測、処置、場所. モルテン on-line 排せつケアセミナー. オンライン, 2024年10月17日

松本勝: 第1部 排せつのプロセスと予測、処置、場所. モルテン on-line 排せつケアセミナー. オンライン, 2024年10月24日

松本勝: 在宅ケアにおけるケアイノベーション: エコーを用いた可視化に基づくアセスメントとケア. 石川県医療在宅ケア事業団石川中央ブロック職員研修会, オンライン, 2024年11月16日

松本勝: 在宅ケアにおけるケアイノベーション: エコーを用いた可視化に基づくアセスメントとケア. 石川県看護協会 訪問看護ステーション連絡会 金沢第二地区研修会, オンライン, 2024年11月20日

松本勝: 一般社団法人次世代看護教育研究所, エコーを用いた排泄ケアコース技術講習会. よどきり医療と介護のまちづくり株式会社. 2024. 11. 30

松本勝 (演習補助): 一般社団法人次世代看護教育研究所, エコーを用いた排泄ケアコース技術講習会. よどきり医療と介護のまちづくり株式会社. 2024. 12. 21

松本勝: 看護理工学によるケアイノベーション: エコーを活用した排泄ケア. 石川県立こころの病院排泄ケア研修, 石川県立こころの病院, 2025年2月12日

Daijiro Haba: International PI Guideline: Bioagents Panel Group

幅大二郎：第12回看護理工学会 実行委員

幅大二郎：「まだまだ間に合う!もっと増やそう!筋肉貯金!!~筋肉を増やす運動のコツ~」地域公開講座，かほく市いきいきシニア活動推進事業／石川県立看護大学地域ケア総合センター，2024. 7. 11

幅大二郎：高度実践フィジカルアセスメント論 運動神経系フィジカルイグザミネーションとアセスメント．横浜市立大学大学院医学系研究科看護学専攻．福浦キャンパス．2024. 7. 29

幅大二郎：普段の生活から見直そう、運動と健康．北國健康生きがい支援事業講演会 令和6年度石川県立看護大学プログラム「平時から災害時まで、家族と自分の健康を守るには」．北國新聞20階ホール，金沢市．2024. 12. 21

松本勝，幅大二郎（講師：神野俊介）：高齢者看護ケアに活かす、座位姿勢の整え方の基礎と実践を学ぼう！基礎編「シーティングの基礎」（講義・演習）．石川県立看護大学令和6年度リカレント教育事業，石川県立看護大学．2024. 11. 17

幅大二郎：解剖学実習Ⅲ（外部講師、実習補助）．神戸大学医学部保健学科．神戸大学楠キャンパス，2024. 11. 28, 29, 12. 9, 10

幅大二郎：FMかほく月曜なるほどインタビュー．2025. 3. 17

<委嘱状や依頼文書等が来ていないもの>

松本勝：第4回慢性便秘エコー研究会 プログラム委員（2024. 10. 28）

松本勝：第12回看護理工学会学術集会 実行委員（2024. 11. 2-3）

松本勝：研究発表支援，よどきり訪問看護ステーション，2024. 5

松本勝：客員研究員，東京大学大学院医学系研究科老年看護学／創傷看護学分野

松本勝：客員研究員，一般社団法人次世代看護教育研究所

神野俊介，幅大二郎（演習補助）：創傷のアセスメントと管理，ポジショニング．石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター 皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程．2024. 8. 7

松本勝，北村言（演習補助），幅大二郎（演習補助）：一般社団法人次世代看護教育研究所，エコーを用いた排泄ケアコース技術講習会．石川県立看護大学キャンパス．2024. 8. 22

幅大二郎：一般社団法人次世代看護教育研究所，エコーを用いた排泄ケアコース技術講習会．よどきり医療と介護のまちづくり株式会社．2024. 8. 24

幅大二郎：一般社団法人次世代看護教育研究所，エコーを用いた排泄ケアコース技術講習会．チャーム・ケア・コーポレーション株式会社，梅田スカイビルタワーイースト．2024. 9. 16

幅大二郎 : inochi Gakusei Innovators' Program 2024 HOKURIKU (i-GIP HOKURIKU) , Step up day. 石川県立看護大学. 2024. 9. 20

松本勝, 幅大二郎 (講師 : 神野俊介) : 高齢者看護ケアに活かす、座位姿勢の整え方の基礎と実践を学ぼう！実践編「車いすシーティング姿勢調節の実践」(講義・演習) . 石川県立看護大学令和6年度リカレント教育事業, 石川県立看護大学. 2024. 12. 22

幅大二郎 (演習補助) : 一般社団法人次世代看護教育研究所, エコーを用いた排泄ケアコース技術講習会. よどきり医療と介護のまちづくり株式会社. 2025. 3. 3

7. 国際交流

7.1 国際交流委員会

委員長：戸部 浩美 教授

委員：峰松教授、臺教授、北村教授、大貝共同研究講座教授、千原准教授、
長谷川共同研究講座准教授、大江講師、大橋講師、南條講師、室野助教

事務局：鳥元専門員

活動内容：

<前年度までの課題>

アメリカ看護研修（国際看護演習Ⅰ）の安全な実施に向けて、委員会全体で企画・運営を緻密に計画し、実施する。また、令和7年度のインドネシア看護研修（国際看護演習Ⅱ）実施に向け、現地視察および計画策定を行う。海外教員を招聘し、学生の異文化理解、国際看護への関心を高める。

<今年度の目標・改善点・年度計画>

1. アメリカ看護研修（国際看護演習Ⅰ）を実施する。
2. インドネシア看護研修（国際看護演習Ⅱ）にむけた現地視察を行う。
3. 海外から看護系教員を招聘し、国際交流研修を実施する。
4. 学生の異文化理解を深めるため、日本在留の海外留学生等との交流（International Café）を行う。

<今年度の活動実績・評価>

1. アメリカ看護研修（国際看護演習Ⅰ）を2024年9月5日～18日に実施した。また、2025年11月21日、2025年度アメリカ看護研修（国際看護演習Ⅰ）の説明会を行い、受講者の募集を行った。
2. インドネシア看護研修（国際看護演習Ⅱ）の2025年度開講に向け、2024年10月21日～26日、ムハマディヤ大学ジャカルタ校看護学部、ならびにムハマディヤ工科保健大学の視察を行った。また、2025年11月21日、2025年度インドネシア看護研修（国際看護演習Ⅱ）の説明会を行い、受講者の募集を行った。
3. 米国から3名の看護教員を招聘し講演会および院生・教員向けの個別指導を実施した。
 - 1) 招聘教授による講演会を以下のように開催した
 - ①Holli DeVon教授：教員への講演「Symptoms, Sex Differences, and Special Populations: Building the Science of Ischemic Heart Disease and Publishing Findings」を2024年8月5日（月）13時30分～14時30分に本学中講義室で行った。
 - ②Susan L. Dunn教授：大学院生への講義「Heart Up! : A Motivational Intervention for Patients with Heart Disease Who Report Hopelessness」を2024年8月5日（月）14時40分～15時40分に本学中講義室で行った。

③Ardith Z. Doorenbos教授：学部生への講義「Complementary, Integrative and Standard Rehabilitative Pain Therapies: Results of a Pragmatic Control Trial」. 教員と大学院生向け講演「Career Cartography: Career Mapping to Increase Impact」を2024年8月6日（火）12時～13時に本学中講義室で開催した。

2) イリノイ大学Doorenbos教授による院生および教員向けの個別研究指導を8月5日（月）15時30分～17時、6日（火）10時～11時に本学演習室で行った。

4. International Caféは、6月7日（金）16:20～17:50に体育館にてスポーツを通じた交流会を開催し、学生30名が参加した。

<次年度以降に向けた課題・発展>

アメリカ看護研修（国際看護演習Ⅰ）およびインドネシア看護研修（国際看護演習Ⅱ）の安全な実施に向けて、委員会全体で企画・運営を緻密に計画し、実施する。また、海外教員の招聘を継続し、インターナショナルカフェにおける学生の異文化理解、国際看護への関心を高める。

8. 附属図書館

8.1 図書館運営委員会

委員長：小林 宏光 教授（附属図書館長）

委員：木田准教授、中道准教授、工藤講師、後藤助教、高濱助教

事務局：中島総務課主幹兼係長、山村司書

図書館は、大学における教育・研究の基盤となる施設です。単に図書の貸出しをするだけでなく、さまざまな学術情報を集積し、さらに本学からの研究成果を広く社会に発信する機能を担っています。特に近年は学術情報の電子化が進み、従来の紙媒体の情報から電子的な情報へのアクセスが重要となってきています。本学では教科書の教材のデジタル化を進めるなど大学全体でDX（デジタルトランスフォーメーション）に取り組んでいます。附属図書館でもこのような電子情報へのアクセスをさらに向上させていくよう努力しています。

また、高度な研究情報の提供だけでなく、「学びの場」としての学習支援も充実させていきたいと思えます。図書の展示企画や文献検索などの講習会の開催を通じて、本学の学生、教職員だけでなく、地域の看護職者なども含めた多くの人にとって利用しやすい図書館を目指していきます。ぜひ積極的な活用をお願いします。

1. 附属図書館は、学生・教職員、学外の利用者のニーズを把握し、利用しやすい図書館となることを目指します。
2. 石川県立看護大学附属図書館は、最新の看護学の学術情報活用のための利用者支援システムを構築していきます。
3. 石川県立看護大学附属図書館は、館内に保存されている歴史的な知的資産を将来にわたって利用できるような内容を精査、管理していきます。
4. 石川県立看護大学附属図書館は、利用者が快適に活用できるように、図書館スタッフの向上心を育み、設備、施設の充実を図っていきます。
5. 石川県立看護大学附属図書館は、県内および他大学の図書館と連携を強化し、利用者が必要とする情報を提供できるようにしていきます。

8.2 今年度の主な活動概況

8.2.1 図書館事業の実施

1. 「いぶなサーチ」利用説明会の実施

・9月4日（水） 教員・院生対象 「いぶなサーチ」講習会
講師 （株）サンメディア

2. 企画・展示の実施

①教員からの推薦図書コーナーの展示

6月～7月 人間科学領域（工藤） 「実像のナイチンゲール」
小児看護講座（後藤） 「世界一やさしい「やりたいこと」の見つけ方」

8月～9月	母性看護学講座（曾山）	人生のモヤモヤから解放される自己理解メソッド」 「悪口ってなんだろう」
	成人看護学講座（大貝）	「あなたのプレゼン誰も聞いてませんよ！ シンプルに伝える魔法のテクニック」
	成人看護学講座（長谷川）	「役立つ！使える！看護のエコー」
10月～11月	健康科学講座（今井秀樹）	「自然科学の基礎知識を知る」
	在宅看護学講座（山路）	「看護の力」
12月～1月	老年看護講座（近藤）	「病を引き受けられない人々のケア」
	地域看護学講座（米澤）	「保健師がきた」
2月～3月	基礎看護学講座（千田）	「腸よ鼻よ」
	精神看護学講座（高濱）	「つまずき立ち上がる看護職たち」 「ニクスの角灯（ランタン）」 「超人ナイチンゲール」

3. ナーシング・スキルの利用開始

- ・新入生、新任教員の登録、卒業生、退任教員の削除、部門の更新

4. 地震対策（書架落下防止シートの試験的導入）

5. 入退館システムの更新（12月に旧システムより更新）

6. 選定図書購入

- ・各講座より購入希望図書を選定し、図書 355冊、DVD 5点、電子図書 7点を購入

7. 館内での持込ノートパソコンを使用することを可能とした。

2Fのみ使用可能であったが、3か月間試行した結果、全面使用可能とした。

8. 第12回看護理工学会学術集会(11/2-3)において、ナイチンゲール・コレクションを展示

8.3 資料整備状況

資料整備状況（令和7年3月31日現在）内訳：令和6年度受入れ数

コレクション別		総 数	内 訳	合 計
図 書	和 書	63,663冊（冊）	購入：428冊 寄贈：76冊	合計69,742冊 (511冊)
	洋 書	6,079冊（冊）	購入：5冊 寄贈：2冊	
雑 誌	和雑誌	1,260誌 (紀要等を含む)	購入：96誌 寄贈：20誌	合計 1,451誌
	洋雑誌	191誌	購入：11誌	
新 聞	日本紙	6紙	—	7紙
	英字紙	1紙	—	
視聴覚資料	CD-ROM	109点	—	合計 2,195点 (12点)
	ビデオ	916点	—	
	DVD	1,009点	購入：5点	
	eBOOK	161点	購入：7点	

8.3.1 分野別蔵書構成（令和7年3月31日現在）

○総冊数：69,742冊

分類	0	1	2	3	4-480	49	N	5	6	7	8	9
標目	総記	哲学宗教	歴史	社会科学	自然科学	医学	看護学	技術・工学	産業	芸術	言語	文学
冊数	4,636	4,040	830	11,014	1,853	23,584	15,574	1,330	275	2,114	1,489	3,003

8.3.2 医学分類蔵書構成（令和7年3月31日現在）

○医学書（看護学を除く）の総冊数：23,584冊

分類	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499
標目	医学総記	基礎医学	臨床医学	内科学	外科学	周産期医学	耳鼻咽喉科	歯学	公衆衛生学	薬学
冊数	1,947	3,519	1,902	7,565	2,229	1,169	249	177	4,521	306

8.3.3 看護系資料分類別構成（令和7年3月31日現在）

○看護学関係図書の本冊数：15,574冊

分類	N0	N1	N2	N3	N4	N5	N6	N7	N8	N9
標目	看護総記	看護理論	看護実践	母性看護	小児看護	成人看護	老年看護	精神看護	地域家庭看護	状態別看護
冊数	2,468	1,357	4,154	698	536	1,968	590	623	2,038	1,142

8.4 利用統計

8.4.1 開館日数・入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開館日数	25	23	25	26	18	23	26	22	22	20	18	18	266
入館者数	1,896	2,031	2,402	4,125	1888	1,767	3,634	3,344	1,947	1,903	1,932	18	27,533
1日平均	76	88	96	159	105	77	140	152	89	95	107	37	102

8.4.2 利用者数及び冊数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
学生	人数	107	117	93	91	71	110	209	150	110	95	53	15	1,219
	冊数	165	233	191	156	160	231	460	283	187	220	118	32	2,418
院生	人数	2	1	5	3	2	11	15	11	9	17	20	5	197
	冊数	2	5	19	6	3	31	39	27	23	33	28	11	393
教職員	人数	62	54	47	46	41	46	42	56	48	50	41	44	585
	冊数	144	144	128	129	112	187	107	124	141	134	108	95	1,553
一般	人数	52	49	41	50	46	21	28	20	11	16	13	11	257
	冊数	123	117	94	118	162	67	98	55	35	60	43	37	796
計	人数	223	221	186	190	160	188	294	237	176	178	127	75	2,258
	冊数	434	499	432	409	437	516	704	489	386	447	297	175	5,160

8.4.3 他大学・国立国会図書館・公共図書館への文献複写依頼件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
教員	12	20	11	26	22	13	9	16	6	17	1	2	155
学生	1	6	18	10	2	29	17	51	3	2	0	3	142
一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	13	26	29	36	24	42	26	67	9	19	1	5	297

8.4.4 他大学・公共図書館・他機関からの文献複写受付件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
教員	3	4	5	5	9	8	12	4	5	1	10	2	68
学生	10	16	17	18	17	24	17	10	10	10	11	10	170
一般	7	1	2	3	2	2	5	1	4	0	2	0	29
計	20	21	24	26	28	34	34	15	19	11	23	12	267

8.4.5 館内設置コピー機による複写件数・枚数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	18	10	37	31	9	25	28	19	9	20	5	6	217
枚数	101	56	181	159	40	216	137	133	226	129	26	98	1,391

8.4.6 相互貸借貸出冊数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
公共	3	0	2	5	3	2	3	2	4	2	1	4	31
大学	2	0	3	1	0	1	0	3	3	5	4	1	23
合計	5	0	5	6	3	3	3	5	7	7	5	5	54

8.4.7 相互貸借借受冊数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
公共	23	53	65	59	41	36	59	64	54	50	43	25	572
大学	1	4	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	9
合計	24	57	66	59	41	38	60	64	54	50	43	25	581

8.4.8 データベース利用状況

○和雑誌：メディカルオンライン（メテオ社）（ダウンロード件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	802	816	543	489	468	471	530	507	480	505	381	416	6,408

○洋雑誌：Nursing & Allied Health Premium（ProQuest社）（検索件数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	23	41	31	50	93	29	20	98	47	8	5	52	497

8.5 利用者サービス

8.5.1 学内向図書館サービス

新入生、新任教職員等を対象に、図書館の利用方法等について説明した。

実施時期	対象者・内容	参加人数	内容
4月 4日 (木)	大学院生説明会	約30名	図書館システムの概要説明
4月 4日 (木)	皮膚・排泄ケア認定看護師 図書館ガイダンス	約30名	図書館の使い方 図書館システムの概要説明
4月 5日 (金)	新入生ガイダンス	約90名	図書館の使い方 図書館システムの概要説明
2月 4日 (火)	卒業研究ガイダンス (3年生)	約80名	館内文献複写依頼方法 他大学への文献複写依頼方法

8.5.2 学外向図書館サービス

日時	名称	対象・参加者	内容
6月 7日 (金)	大学見学会	高校生	図書館見学
7月13日 (土)	オープンキャンパス	高校生、保護者	図書館見学
7月30日 (火)	高校教諭大学説明会	高校教員	図書館見学
8月 9日 (金)	夏休みハーフ学童2024	小学生	図書館見学
9月10日 (火)	女性県政学習バス見学会	一般	図書館見学
10月 3日 (木)	学都石川高校教員キャン パスツアー	高校教員	図書館見学
10月10日 (木)	大学見学会	高校生	図書館見学
10月12日 (土)	オープンキャンパス	高校生、保護者	図書館見学
10月21日 (月)	大学見学会	高校生	図書館見学
2月19日 (水)	石川県立田鶴浜高等学校 文献検索学習会	高校生	図書館概要説明 文献検索実習

8.5.3 学内で利用できるデータベース

	内 容	同時使用
最新看護索引web	看護分野に限定した雑誌文献情報データベース。「日本看護学会論文集」平成23年度(第42回)より、電子版を掲載。全10領域の「論文集(電子版)」を閲覧・ダウンロードできる。収録件数、約20万件、収録誌数812誌。更新頻度月1回。	3
PubMed	医学分野の代表的文献情報データベース。米国NLM作成。医学・歯学・生命科学関係の4,800誌以上の雑誌から収録。収録データ数約1,600万件。	フリーアクセス
メディカルオンライン	医学文献の検索をはじめ、医薬品・医療機器・医療関連サービスの情報を幅広く提供。	フリーアクセス
Nursing & Allied Health Premium	看護・保健・医療分野の文献情報データベース。550誌以上の専門誌が対象。データ数1万件以上。(ProQuest社)	フリーアクセス
医学中央雑誌	日本国内の医学・歯学・薬学及び関連分野の文献を網羅した文献情報データベース。収録誌数約5,000誌。収録件数約630万件。	フリーアクセス
JDreamⅢ*	日本国内の科学関連分野の文献を網羅した総合抄録誌のインターネット版。医学・薬学領域予稿集全文DB。収録約5,200万件。	2
Nii, CiNii (国立情報学研究所)	国立情報学研究所主宰の資料検索、学術雑誌文献検索、研究成果論文検索等を収録した総合検索システム。 (主宰：国立情報学研究所)	フリーアクセス
ELSEVIER Science Direct	購読誌「Applied Nursing Research」他10誌 サブジェクト・コレクションの論文すべて 対象サブジェクト：Nursing and Health Professions	フリーアクセス

※「*」は学内からのみアクセス可能です。

8.6 職員研修

8.6.1 附属図書館職員の研修

日 時	場 所	名 称	内 容	参加者名
5月15日(水)	Zoom	図書館協力業務 ネットワーク担当者会議	協力業務の運営 県立図書館のサービス Library-Net いしかわ	古橋 和子
6月17日(月)	Webex	JPCOAR第25回運営委員会	各事項審議、業務報告 等	山村 徹
6月19日(水)	Zoom	公立大学協会図書館協議会 総会	業務報告・決算報告 予算承認等	山村 徹
8月2日(金)	Zoom	ナーシング・スキル ワンポイントWebセミナー	施設情報管理	山村 徹 山田 美花 古橋 和子
8月9日(金)	Zoom	ナーシング・スキル ワンポイントWebセミナー	オリジナルカテゴリー	山村 徹 古橋 和子
11月6日(水)	石川県立 看護大学	救急講演会 (かほく市消防本部)	能登半島地震 災害医 療について	山田 美花 古橋 和子

10月15日(火)	Teams	公立大学協会図書館協議会 東海・北陸地区大会	事業進捗報告 情報交換他	山村 徹
10月17日(木)	Webex	JPCOAR第26回運営委員会	活動中間報告、予算執行状況等	山村 徹
11月6日(水)	石川工業 高等専門 学校	石川県大学図書館協議会 特別研修会	生成AI活用入門	山村 徹
12月13日(金)	石川県立 図書館	石川県図書館大会	講演会 パネルディスカッション	古橋 和子
12月20日(金)	Zoom	令和6年度第2回公立大学協会図書館協議会拡大役員会	活動報告、 R7年度役員について等	山村 徹
2月5日(水)	Webex	JPCOAR第27回運営委員会	活動報告、予算執行状況 次年度予算案等	山村 徹
2月13日(木)	石川県立 図書館	石川県大学図書館協議会 全国図書館会に関する説明会	大会主旨、役割分担、 今後のスケジュール等	山村 徹
3月14日(金)	Webex	2024年度JPCOAR総会	次年度活動計画・予算協議 2024年度活動報告等	山村 徹
3月17日(月)	Teams	石川県大学図書館協議会 臨時会議	全国図書館大会の協力 について	山村 徹

9. 附属地域ケア総合センター

9.1 地域ケア総合センター運営委員会

委員長：塚田 久恵 教授（附属地域ケア総合センター長）

委員：米澤教授、平居教授、亀田教授、松本（勝）教授、戸部教授（12月まで）、
河端教務学生課長

事務局：鳥元主任主事

開催頻度：年6回開催

活動内容：

<前年度までの課題>

1. 地域連携・貢献事業

- ・地域連携・貢献事業の周知が不十分であり、オンラインを活用した企画の工夫が必要である。参加者の増加を図るための方法が求められている。また、地域公開講座での学生ボランティア活動の促進が課題である。

2. 地域創生事業

- ・R6年能登半島地震の影響で事業中止の懸念があるが、開催時には学生への周知と参加者募集が課題である。

3. かほく市との包括的連携協定事業

- ・かほく市との連携事業を発展させ、事業評価に繋げる取り組みが求められている。

<今年度の目標・改善点・年度計画>

1. 地域連携・貢献事業について

- ・令和6年能登半島地震の被災者支援に係る活動を行う。
- ・新規事業「IPNU（いふな）地域相談室」の「浮腫ケア看護相談」を普及し、軌道に乗せる。
- ・新規事業「宝達志水町在宅高齢者フレイル等予防DX事業」（企業委託事業）の推進を図る（デジタル田園都市国家構想交付金の活用による3年間の継続事業）。

2. 地域創生事業について

学生への周知を積極的に行い、参加者を募る。

3. かほく市との包括的連携協定事業について

かほく市との連携事業を発展させ、事業評価に繋げる。

<今年度の活動実績・評価>

運営委員会は主に第3木曜日（隔月開催）に開催し、地域活動・地域創生部会の1部会の審議事項・報告、大学コンソーシアム石川の地域連携専門部会の議案の検討、かほく市と石川県立看護大学の包括的連携に関する議案について検討した。（R6年度～人材育成部会は、看護キャリア支援センターに移行、国際貢献部会は休止）。

1. 地域活動・地域創生事業について

1) 地域連携・貢献事業について

9事業が実施され、令和6年能登半島地震、令和6年9月能登豪雨災害の影響等で1事業が中止となったが、すべての事業を対面で行った。また、地域公開講座事業においては、学生にボランティアとして参加してもらい、シニア世代との交流も促進された。IPNU（いふな）地域相談室の「浮腫ケア看護相談」については、延べ65名（12月現在）の参加があった。

令和7年度事業の採択については、12月に募集し、1月に採択基準に基づき審査、地域連携・貢献事業として7事業（新規1、継続6）を採択した。また、IPNU（いふな）地域相談室として2事業（新規1、継続1）を採択した。

2) 地域創生事業について

本学は「能登・祭りの環」関係人口創出事業に参加しているが、今年度は令和6年能登半島地震と令和6年9月能登半島豪雨の影響により、祭りがすべて中止となった。

学都いしかわグローバルチャレンジプログラムについては、地域を理解し地域課題の解決力を獲得する「ローカルチャレンジプログラム」と、国際的な視野から地域課題解決への対応力を獲得する「グローバルチャレンジプログラム」がある。感染症や災害が続く中にありながらも、本学の4年次学生1名がこれらのプログラムを修了した。また、この両プログラムを修了した者に対して、大学コンソーシアム石川から認定される「グローバル人材認定証」を本学の4年次学生1名が授与された。「グローバルチャレンジプログラム」の修了と「グローバル人材認定証」の授与は、制度改正があった令和3年度以降、県内第1号となった。

2. 大学コンソーシアム石川の地域連携専門部会について

地域課題研究ゼミナール支援事業復興課題枠に、垣花教授・佐能講師ゼミによる「被災高齢者の健康管理」と、松田准教授ゼミによる「知恵と科学に基づいた避難所施設の安全性・利便性向上の検討」が採択された。そして、R7年2月22日に開催された「R6年度大学・地域連携アクティブフォーラム」にて学生による発表が行われ、奨励賞を受賞した。

3. かほく市との包括的連携協定締結に係わる協議会と事業について

今年度は石川県立看護大学が事務局を勤め2回開催した。2事業除く（他機関に委託）、15事業を実施することができた。

また、長寿介護課からの委託事業として、「地域在住高齢者のeスポーツ体験の効果検証」など事業評価を発展させた取り組みを行った。

<次年度以降に向けた課題・発展>

1. 地域連携・貢献事業について

地域ケア総合センターのホームページを刷新し、住民や学生の参加者の増加を図る。また、地域公開講座等における学生のボランティア活動を促進する。

さらに、IPNU（いふな）地域相談室では、継続事業の「浮腫ケア看護相談」に加えて、「もの忘れ相談」がスタートするため、周知と住民の利用促進を図る。

「宝達志水町在宅高齢者フレイル等予防DX事業」（企業委託事業）における宝達志水町への支援も継続する。

2. 地域創生事業について

令和6年能登半島地震等の復興に向けて、開催可能な事業を積極的に行う。また、開催の際は、ヒューマンヘルスケア科目へ対応させるなど学生が参加しやすい体制の工夫、周知

を図り、参加者を募る。

3. かほく市との包括的連携協定事業について

かほく市との連携事業を発展させ、事業評価に繋げる。

9.1.1 地域活動・地域創生部会

部会長：松本 勝 教授

部会員：長谷川准教授、大西講師、佐能講師、幅講師、瀬戸助教

事務局：鳥元主任主事

活動内容：

<前年度までの課題>

本部会は地域連携・貢献事業、能登キャンパス推進事業、グローバル人材育成事業を担当している。地域連携・貢献事業ではかほく市での地域公開講座を年5回開催してきた。令和5年度は1年次のフィールド実習と絡めて「地域公開講座」を開催し、学生の学びや参加者の満足度にもつなげることができた。一方で「能登キャンパス推進事業」や「学都いしかわグローバルチャレンジプログラム」は希望する学生の数が少ないため、それぞれの企画について、年度始めのオリエンテーションでの周知を引き続き行っていく必要があるという状況であった。

<今年度の目標・改善点・年度計画>

令和6年度は各事業において本学学生の参加を促進することを目標とし、各事業を展開した。まず、学生への周知を4月の全学集会時にいち早く行うこととし、説明用の動画をmoodleにアップしその後いつでも視聴できるようにした。また、地域連携・貢献事業であるかほく市の地域公開講座では、昨年度に引き続き本学の学部1年生の必修科目「フィールド実習」の活動として講座の運営補助や地域住民の健康測定を行うこととし、地域公開講座・フィールド実習双方で地域住民・本学学生の交流を持てるようにした。さらに、グローバル人材育成事業においては、学都いしかわグローバルチャレンジプログラムにおける本学学生の単位認定基準を一部緩和（本学では他大学と比較しても地域について学ぶ科目が多く、それが正当に評価されるようにプログラムを修正）した。

<今年度の活動実績・評価>

1. 地域連携・貢献事業

かほく市いきいきステーション（七塚健康福祉センター集会室）にて地域公開講座を開催し、看護大学教員の知見を市民に還元すること、さらに学生においては対象理解や地域のニーズ把握を促進し、シニア世代には社会参加の機会となるように働きかけることを目標とした。

いきいきステーションの協力のもと、本学教員による地域公開講座を6月から11月に全5回実施し、男性40名・女性130名の計170名が参加した。企画書をいきいきステーションに提出、開催概要を提示し、いきいきステーションからかほく市の広報誌に掲載、各回の参加者募集を依頼した。6/13-6/14に開催した第1回の地域公開講座ではテーマを「まだまだ間に合う！もっと増やそう！筋肉貯金!! ～筋肉を増やす食事のコツ～」とし、講話と測定会の2本立てとした。本学の学部1年生の必修科目「フィールド実習」の一環として、学生及び教員がいきいきステーションを訪問し、地域公開講座の運営補助やいきいきステーションの行事に参加し、かほく市

のシニア世代との交流活動を行った。

4月より早々にスケジュール調整を行ったことで積雪前の参加しやすい時期に全日程を終えることができた。参加者数は例年より多かった。6/13-6/14の公開講座では特に参加人数が多く2日間の参加者は述べ91名であり昨年より増加した。体組成（筋肉量、脂肪量等）の測定会において昨年に引き続き参加者が増加したことから、住民のニーズが高いことがわかる。次年度以降も継続していきたい。また、看護大学の学生にはこれまで高齢者との関わりを持ったことが少ない学生もおり、公開講座や測定会の運営をサポートしながら多くの高齢者と関わりを持たせたことは大きな学びになっていた。参加した高齢者からも看護大学の学生と交流をもてたことに喜びの声が挙がっていた。また普段は女性の割合が高い地域公開講座ではあるが、「筋肉/筋力」に関するテーマを取り入れたことで昨年に引き続き男性の参加者が増加したと考えている。

2. 能登キャンパス推進事業

令和6年能登半島地震及び令和6年9月能登半島豪雨の影響により、能登の祭りが中止となったため、この事業に関する実績はなかった。

3. グローカル人材育成事業

本学では本年度も「ローカルチャレンジプログラム」及び「グローバルチャレンジプログラム」を設定し、大学コンソーシアム石川の「学都いしかわグローバルチャレンジプログラム」として認定された。大学コンソーシアム石川の産学官連携人材育成専門部会に出席し、部会での議論を経て、学生へのメリットが伝わるように、4月の全学集会ではプレゼンテーションした。4月に4年生から1名認定希望者が出た。審査の結果、グローバルチャレンジプログラム、ローカルチャレンジプログラムの双方認定がされることとなった。また、この両プログラムを修了した者に対して、大学コンソーシアム石川から認定される「グローバル人材認定証」を本学の4年次学生1名が授与された。「グローバルチャレンジプログラム」の修了と「グローバル人材認定証」の授与は、制度改正があった令和3年度以降、県内第1号となった。3年生からも1名エントリーの希望があり、学生への周知でメリットや単位認定基準の緩和について伝えたことがプログラムへの申請・認定につながった可能性がある。

<次年度以降に向けた課題・発展>

学生の実習（今回は1年次のフィールド実習）やその他の課外活動などと絡めて地域公開講座等を開催できれば学生の学びや参加者の満足度にもつながると考えられるため、次年度も担当者を中心にして企画を考えていきたい。それぞれの企画について、年度始めのオリエンテーションでの周知を引き続き行っていきたい。「学都いしかわグローバルチャレンジプログラム」に関しては必要単位の認定の基準についてさらに緩和できる可能性があるかを引き続き探り、さらに多くの学生が認定されるように支援していきたい。

10. 看護キャリア支援センター

10.1 看護キャリア支援センター運営委員会

委員長：紺家 千津子 教授（附属看護キャリア支援センター長）

委員：真田弘美学長、中村博之事務局長

活動内容：

<前年度までの課題>

令和7年度皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程の受講生を確保する。さらに、令県内の医療施設等のニーズを把握し、令和8年度以降の認定看護師教育課程開講の準備を行う。

<今年度の目標・年度計画>

今年度より開講する特定行為研修を含む皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程を計画通り運営し、令和7年度受講生を確保する。さらに、令和8年度以降の認定看護師教育の開講分野について検討する。

<今年度の活動実績・評価>

新たな教育課程の運営と、今後の開講分野について適宜運営会議を開催した。主な内容は以下であった。

- 1) 皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程の一部規定の改定について
- 2) 令和7年度「皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程」募集要項、入学試験体制、運営について
- 3) 令和8年度認定開講分野について
- 4) 令和7年度教員・事務職員人事について
- 5) 令和7年度予算について

<次年度以降に向けた課題・発展>

令和8年度の認定分野については北陸3県の医療施設等の要望を調査し、皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程を開講することに決定したため、受講生の確保の準備を進める。令和9年度以降については県内の医療施設等のニーズを把握し、認定看護師教育課程開講の準備を行う。

10.2 認定看護師教育課程フォローアップ研修

<今年度の目的>

これからの認定看護師の役割について改めて考える機会とする。

<今年度の活動実績>

■修了生全体を対象とした講演会

【日時】令和7年3月17日（月） 10：00～12：00

【参加者】62名（認知症看護認定看護師51名 感染管理認定看護師7名 認定看護管理者4名）

【実施内容】

○講演会

演題：地域の高齢者を護る認定看護師の役割

講師：川島 和代（石川県立看護大学 学部長）

○意見交換

これからの認定看護師制度

池田富三香（石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター 特任准教授）

■感染管理認定看護師教育課程（4期生）

【日時】令和6年11月30日（土） 14：00～17：00

【参加者数】4期生 24名

【実施内容】

テーマ：knowledge is power.（知は力なり；Francis Bacon）

◎能登半島地震に関する報告

報告1：地震を体験して～病棟から～

恵寿総合病院

土谷 節

報告2：避難所支援を行って

公立河北中央病院

松本寛志

報告3：被災地基幹病院の立場から

公立能登総合病院

櫻井美幸

報告4：被災地の医療支援に赴いて（富山）

富山赤十字病院

長枝智子

報告5：被災地の医療支援に赴いて（石川）

金沢医科大学病院

西岡美穂

報告6：被災地からの受け入れ

高岡市民病院

長谷川裕

座 長：高松 広彰（市立砺波総合病院 感染管理認定看護師）

◎CNICお悩み相談室

他の施設ではどうしている？〇〇について教えてほしい、研修のネタは？など、気軽に質問しあい、みんなで情報共有する

座 長：萩行 愛（医療法人社団紫蘭会 光ヶ丘病院 感染管理認定看護師）

■認知症看護認定看護師教育課程（1～3期生）

【日時】令和7年3月17日（月） 13：00～15：00

【参加者】1-3期生 51名

【実施内容】

◎活動報告・事例検討

認知症高齢者の身体拘束解除への取り組み

1期生 大城 宏子（富山労災病院）

手と心をつなぐ認知症マップについて

2期生 岡部 真美（松原病院とびうめ館）

実践報告 軽度認知障害（MCI）デイケアの実施に向けた取り組み

3期生 保科 三千代（国立病院機構さいがた医療センター）

第1部 特別企画 10:00～12:00

1. 講演：地域の高齢者を護る認定看護師

講師：川島 和代（石川県立看護大学 学部長）

座 長：池田 富三香（石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター 特任准教授）

2. 意見交換会：これからの認定看護師制度

第2部 事例検討会 13:00～15:00

10.3 石川県委託事業の開催

10.3.1 石川県看護教員現任研修事業

<ねらい>

- 1) 令和6年能登半島地震での被災及び震災支援経験を共有し、看護基礎教育に活かす
- 2) 教材研究に活かせる研究方法を学ぶ
- 3) 地域・在宅看護論を再考する

<今年度の活動実績>

開催日	時間	研修テーマ	講師	開催場所
7/6 (土)	10:00 ~ 11:00	看護学生に対する 震災後の長期的なメンタルヘルス ケア	<講師> 石川県立看護大学 名誉教授 武山雅志	七尾看護 専門学校
	11:00 ~ 12:00	相談を受けながら、少しでも解決 できるように講義や話し合いを行 う	<全体進行> 石川県立看護大学 教授 石川倫子	

開催日	時間	研修テーマ	講師	開催場所
8/10 (土)	9:30 ~	ともに支え合おう！ Part1 学生・教員による震災支援 被災地での活動や1.5避難所等での 活動と学びについて報告し合う 1) 石川県立看護大学 2) 金沢医療センター附属金沢看護 学校 3) 金沢大学 4) 田鶴浜高等学校 質疑応答 看護教員の学び (20分)	体進行： 石川県立看護大学看護 キャリア支援センター 池田富三香 <座長> 石川県立看護大学 准教授 木田亮平 講師 田村幸恵	石川県立 看護大学 大講義室
	11:00 ~ 12:00	ともに支え合おう！ Part2 教員による震災支援 1) 金城大学 金谷雅代先生	<座長> 石川県立看護大学 教授 石川倫子 講師 石井和美	

		2) 石川県立看護大学 米澤洋美先生 3) 田鶴浜高等学校衛生看護学科 庄藤智恵美先生 4) 石川県立看護大学教員 寺井梨恵子先生 質疑応答		石川県立看護大学大講義室
	12:00 ~ 13:00	学生・看護教員の自由交流 (自由解散)	<交流推進担当> 南條・瀬戸・千田	

開催日	時間	研修テーマ	講師	開催場所
9/21 (土)	10:30 ~ 12:00 13:00 ~ 14:30	<講演・演習> 複線経路等至性モデル (TEM) の概要とTEMを活用した研究の実際	<司会> 石川県立看護大学 准教授 木田亮平 <講師> 東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 看護管理学／看護体系・機能学分野 助教 井上真帆	石川県地場産業振興センター

開催日	時間	研修テーマ	講師	開催場所
11/2 (土)	10:00 ~ 12:00	<講義> 地域・在宅看護論に活かす訪問看護の実際 在宅療養者の願いをかなえる —看護の意味を探して—	<司会> 石川県立看護大学看護キャリア支援センター 池田富三香 <講師> 北須磨訪問看護・リハビリセンター 所長 藤田 愛	石川県立看護大学 研修室 (オンライン研修)
	13:00 ~ 14:30	<演習：グループワーク> 地域・在宅看護論の意味を問いなおす	<講師> 石川県立看護大学 教授 石川倫子	

10.3.2 専門的看護実践力研修「看護管理者経営研修」

<今年度の目標・年度計画>

目的：人口減少、超高齢化時代の医療を担う看護管理者として活躍できるよう、看護管理に関する基本的な知識について学び、管理者としての自己の役割と実践を展望する。

目標：

- 1) 看護管理に必要なリーダーシップについて理解する。
- 2) 組織の目標を達成するために、成長するチームづくりについて理解する。
- 3) 看護師が働きやすい職場環境を整えるための基礎知識を理解する。
- 4) 倫理的な実践を行うために、組織における倫理的課題について理解する。
- 5) 組織の課題を達成するためのデータの活用と組織分析の基本を理解する。
- 6) 学んだ内容と照らし合わせながら、管理者としての自己の役割と実践を展望する。

<今年度の活動実績>

月日	時間	テーマ・内容	講師名（敬称略）
11/22 (金)	10:30～	受講方法についてオリエンテーション 開講式	石川県立看護大学附属 看護キャリア支援センター センター長 紺家 千津子
	11:00～11:40	石川県の看護の状況	石川県健康福祉部医療対策課 谷場 美雪
	13:00～15:30	看護管理の基礎知識とリーダーシップ	石川県立看護大学 名誉教授 丸岡 直子
11/29 (金)	9:00～12:00	機能する看護チームをつくる (teaming)	石川県立看護大学 名誉教授 丸岡 直子
	13:00～16:00	看護師の働き方を支えるための基礎知識 -労務管理の基礎・職場のハラスメント-	加藤社労士弁護士事務所 加藤 明子
11/30 (土)	9:00～12:00	看護管理者としての能力開発	石川県立看護大学 名誉教授 丸岡 直子
	13:00～15:30	組織における倫理的課題	常磐大学 教授 吉田 千文
12/7 (土)	9:30～12:00	看護管理者のための病院（病棟）経営- データを活用した看護管理-	滋賀県立総合病院 院長補佐兼 看護部長 西村 路子
	13:00～15:30	組織の課題達成にむけて -組織分析の意義と手法-	独立行政法人国立病院機構 金沢医療センター 看護部長 藤田 恵子
	15:30～15:45	アンケート/閉校式	石川県立看護大学附属 看護キャリア支援センター センター長 紺家 千津子

<参加者>

76名（石川県内全域の病院、訪問看護ステーション、高齢者施設）

※受講者の背景：看護師経験年数：平均24年

職位：副看護師長・主任等45名、看護師長25名、

副看護部長・看護部長・管理者等6名

施設別：病院71名、訪問看護ステーション3名、介護系施設その他2名。

10.3.3 専門的看護実践力研修「分野別実践看護師養成研修：皮膚・排泄ケア研修」

<今年度の目標・年度計画>

皮膚・排泄ケア看護に関する専門的知識、技術を身に付け、看護実践力の向上を図る。

<今年度の活動実績>

日時	分野	科目・講師
7月6日（土）		
9:25～9:55	-	看護の動向について 石川県健康福祉部 医療対策課 管理・看護グループ 係主査 谷場 美雪
10:00～10:55	Wound	褥瘡のリスクアセスメント 福井医療大学 保健医療学部 看護学科 教授 北川 敦子
11:00～11:55		体圧管理 石川県立看護大学 皮膚・排泄ケア認定看護師 宮崎 梓
13:00～13:55		MDRPU（医療関連機器圧迫創傷） 金沢医療センター 皮膚・排泄ケア認定看護師 尾西 恵理
14:00～14:55		創傷治癒と DESIGN-R2020 石川県立看護大学 教授 紺家 千津子
15:00～15:55		スキンケアとドレッシング材の選択 JCHO 金沢病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 山下 美樹
7月7日（日）		
9:00～9:55	Ostmy	消化器ストーマと術後管理 金沢医科大学 一般・消化器外科学 准教授 藤田 秀人
10:00～10:55		瘻孔管理 小川医院 院長 小川 滋彦
11:00～11:55	Wound	糖尿病のフットケア 金沢大学 医薬保健研究域保健学系 教授 大江 真琴
13:00～13:55		褥瘡の栄養管理 石川県立看護大学 共同研究講座 准教授 長谷川 陽子

日 時	分 野	科目・講師
14:00 ~ 14:55	Wound	褥瘡のリハビリテーション 一般社団法人オーディナリーライフ 理学療法士 神野 俊介
15:00 ~ 15:55		褥瘡の外科的・物理的療法 金沢医科大学 名誉教授 南ヶ丘病院 院長 川上 重彦
7月12日(金)		
9:00 ~ 9:55	Continenence	IAD(失禁関連皮膚炎)とスキンケア 金沢大学 医薬保健研究域保健学系 教授 大桑 麻由美
10:00 ~ 10:55		ストーマケアの基礎 石川県立看護大学 附属看護キャリア支援センター 特任講師 皮膚・排泄ケア認定看護師 石井 光子
11:00 ~ 11:55	Ostomy	ストーマ周囲皮膚障害のスキンケア 金沢大学附属病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 山田 清美
13:00 ~ 13:55	Wound/ Ostomy/ Continenence	ケア相談・これまでの復習 皮膚・排泄ケア認定看護師 紺家 千津子、山田 清美、石井 光子、宮崎 梓
14:00 ~ 14:55	Ostomy	下肢の潰瘍のケア 金城大学 看護学部 特任講師 皮膚・排泄ケア認定看護師 遠藤 瑞穂
15:00 ~ 15:55	Wound/ Ostomy	スキン-ケア 石川県立看護大学 皮膚・排泄ケア認定看護師 石井 光子
7月13日(土)		
9:00 ~ 9:55	Ostomy/ Continenence	泌尿器ストーマと失禁の管理 金沢医科大学 氷見市民病院 泌尿器科 教授 森山 学
10:00 ~ 10:55	Wound/ Ostomy	がん薬物療法時のスキンケア 公立小松大学 保健医療学部 看護学科 教授 松井 優子
11:00 ~ 11:55	Continenence	失禁対策 金城大学 看護学部 特任講師 皮膚・排泄ケア認定看護師 遠藤 瑞穂
13:00 ~ 14:10	Wound/ Continenence	褥瘡のケア計画 1 皮膚・排泄ケア認定看護師 尾西 恵理、遠藤 瑞穂、山田 清美、山下 美樹 山田 ゆかり、紺家 千津子、宮崎 梓、石井 光子
14:15 ~ 14:45		褥瘡のケア計画 2 皮膚・排泄ケア認定看護師 尾西 恵理、遠藤 瑞穂、山田 清美、山下 美樹 山田 ゆかり、紺家 千津子、宮崎 梓、石井 光子

10.4 リカレント教育委員会

地域ケア総合センターは開学時に設立され、地域連携・地域貢献、国際貢献、人材育成の三つの事業を展開してきた。その後、2013年に看護キャリア支援センターが設立され、医療従事者を対象とした人材育成が可能となった。しかし、地域ケア総合センターでは、看護キャリア支援センター開設後も人材育成事業を継続しており、両センター間で業務内容が一部重複する状況が生じていた。このため、今後は役割を明確化し、地域住民への貢献は地域ケア総合センターが担い、当県の看護の質向上に資する看護師への支援は看護キャリア支援センターが担うこととなった。これに伴い、医療・福祉従事者を対象とした人材育成は、リカレント教育事業として実施することになった。

委員長：北村 言 教授

委員：紺家教授、寺井准教授、石井講師

事務局：中島総務課主幹

活動内容：

<前年度までの課題>

2024年度に新たに設置された委員会である。

<今年度の目標・改善点・年度計画>

リカレント教育事業開催のための学内予算が適切に配分され、適切な事業が開催されるように、リカレント教育事業の企画募集と審査を実施する。

<今年度の活動実績・評価>

2024年4月に、2024年度リカレント教育事業の企画を募集し、5月に審査を実施した。4件の事業が採択され、2024年度に開催された。2025年1月に2025年度リカレント教育事業の企画を募集し、2025年2月に審査を実施し6件の事業が採択された。

事業名	事業担当者	実施月日	実施場所	参加者
皮膚・排泄ケア分野のスキルアップ事業	紺家千津子	2024. 8. 10	石川県立看護大学 オンライン	17名
シーティング講座	松本 勝	2024. 11. 17 2024. 12. 22	石川県立看護大学	14名
褥瘡管理：日々のケアを見直してみよう	北村 言	2025. 2. 15 2025. 2. 18	石川県立看護大学 オンライン	30名 41名
リンパ浮腫ケアの新戦略！ リンパ浮腫エコーアセスメント	臺 美佐子	2025. 3. 8	石川県立看護大学	12名

<次年度以降に向けた課題・発展>

2024年度に開催された事業について石川看護雑誌で報告する。

10.5 地域貢献

<今年度の目標・年度計画>

地域の機関からの依頼による地域貢献の役割を果たす。

<今年度の活動実績>

氏名	テーマ	主催者名	場所・機関	年月（西暦）
石井 光子	能登半島地震災害支援活動 施設での皮膚・排泄ケア支援活動	石川県立看護大学 被災地支援	輪島市	2024. 4 ~ 11
石井 光子	シンポジウム 令和6年能登半島地震を経て今取り組んでいること～ 復興に向けて共に進んでいくために～	石川県看護学会	金沢大学附属病院 宝ホール、CPDセンター	2024. 11. 16
宮崎 梓	能登半島地震災害支援活動 施設での皮膚・排泄ケア支援活動	石川県立看護大学 被災地支援	輪島市	2024. 4 ~ 11
池田富三香	講義：認定看護管理者教育 課程 ファーストレベル 人材育成 の基礎知識	石川県看護協会	石川県看護協会	2024. 11. 11 2024. 11. 12
池田富三香	研修：2024 マネジメント塾 in 南加賀(1) 人の強みを見つけて活かす	石川県看護協会 南加賀地区	小松市民病院	2024. 6. 1
池田富三香	研修：2043 マネジメント塾 in 南加賀(2) 問題解決から 希望実現支援へ	石川県看護協会 南加賀地区	小松市民病院	2024. 7. 13
池田富三香	研修：2024 マネジメント塾 in 南加賀(3) やる気になる・やる 気にさせる看護チーム	石川県看護協会 南加賀地区	小松市民病院	2024. 9. 28
池田富三香	研修：2024 マネジメント塾 in 南加賀(4) 認知的ケチからの克服	石川県看護協会 南加賀地区	小松市民病院	2024. 11. 9

11. 大学施設の開放

実施年月日	内 容	参加 人数(人)
6. 6～7. 3	野球練習	50
6. 6～6.10	サッカー練習	25
6. 8. 9	こども食堂の活動	65
6. 8.22	田鶴浜高等学校 手話大会練習	30
6. 9. 9	食品衛生責任者 研修会	180
6. 9.12	救急講演会	100
6.11.10 11.23	合唱定期演奏会リハーサル、本番	30
6.12. 8	子ども会クリスマス会	100
7. 2.21	恩師と卒業生との学び舎での記念撮影	6

編集後記

令和6年度の石川県立看護大学年報第25巻をお届けできる運びとなりました。年報には、本学教員が日々取り組んだ教育、研究、地域貢献、そして学内運営に関する成果を収録しています。

令和6年度は、能登半島地震の復旧・復興期の幕開けとともに始まりました。

公衆衛生看護学実習では、地震の影響により実習施設の確保が困難になりました。しかしながら、急遽受け入れを快諾くださった諸施設のご協力により、一部に学内演習を取り入れることで、全学生に単位を認定することができました。改めて、温かいご支援をいただきました受け入れ施設の皆様に謝意を表します。

明るいニュースもありました。4月に共同研究講座「ウェルビーイング看護学講座」が新たに開設されました。令和5年4月に開設された「看護理工学講座」とともに、共同研究講座は2講座になりました。教員同士が講座を超え、協働しながら大学全体の活動に取り組んでいます。

最後になりましたが、原稿作成にご尽力いただいた教職員の皆様に感謝申し上げます。また校正作業の効率化を図り、実質的な編集作業を一手に担った外主事および部会員の曾山委員の労をねぎらいたいと思います。皆様のご協力に感謝申し上げます。

自己点検評価委員会 年報編集部会長 桜井志保美

令和6年度 石川県立看護大学年報 第25巻
令和7年12月 発行

編集：石川県立看護大学 自己点検・評価委員会
年報編集部会

発行：石川県公立大学法人 石川県立看護大学
〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地
tel.076-281-8300 (代) fax.076-281-8319

「著作権は石川県公立大学法人に帰属する。」

(この冊子は、印刷用の紙へリサイクルできます。)

